

平成27年度  
東京女子体育大学・東京女子体育短期大学  
卒業生に対する「学生満足度調査」報告

小野田 桂子 若山 章信 阿江 美恵子  
奥野 知加 山田 浩二郎 大石 千歳 笹生 心太

ONODA Keiko WAKAYAMA Akinobu AE Mieko  
OKUNO Chika YAMADA Kohjiroh OISHI Chitose SASAO Shinta

〈 目 次 〉

1. はじめに	63
平成23年度卒業生に対する満足度調査結果の概要	
2. 方法	64
2-1. 対象と調査内容	
2-2. 分析項目と分析方法	
3. 学科別単純集計における結果および考察 (笹生 心太)	65
4. 大学クロス集計における結果および考察	
4-1. 総合満足度別集計 (山田浩二郎)	72
4-2. 入試区分別集計 (阿江美恵子)	78
4-3. コース別集計 (若山 章信)	86
4-4. 成績自己評価別集計 (大石 千歳)	92
4-5. 就職状況別集計 (奥野 知加)	98
4-6. クラブ所属別集計 (小野田桂子)	104
5. まとめ	109
6. 謝辞	109
7. 参考文献	109
8. 資料(調査用紙)	110

## 1. はじめに

本研究では、東京女子体育大学・東京女子体育短期大学(以下、併せて本学)の平成27年度卒業生を対象に、本学における「教育とサービスの質」の現状を把握し、改善すべき点や新たに取り組むべき点の資料を得ることを目的とし、学生生活についての満足度・能力向上について調査することとした。

なお、本学では平成23年度にも、今回と同様に卒業生に対する満足度調査を実施している。

そこで本研究では「平成27年度卒業生の満足度」の現状把握および「平成23年度卒業生の満足度」との比較もおこなうこととする。

### 平成23年度卒業生に対する満足度調査結果の概要

平成23年度の調査の総合満足度別集計では、学生の満足度に関連する要因を明らかにする目的で、体育学部学生を満足度別に3群に分け、他調査項目とのクロス集計を行った。その結果、高満足群と低満足群で最も大きな差を認めた項目およびその差は、「本学を卒業することの誇り」1.5ポイント(5段階評価平均値の差)であった。他には、授業関連では「授業全体の満足度」や「実技満足度」、教員については「専門家がいる」、学生生活全般では「部活動への取り組み」、クラブ活動では「実技の上達」などで顕著な差を認めることができた。大学卒業時における総合満足度と最も高い相関を示した「本学を卒業することについての誇り」は、単一の要因より導かれるとは考え難く、上記に挙げた項目が複合的に影響していると思われる。それらの要因を改めて関連付けると、自ら体育実技や部活動に積極的に取り組む学生が存在し、そこに専門性の高い教員による適切な指導により知識や技能の向上がもたらされ、そのような学生は大学卒業時における満足度も高く、本学を卒業することについての誇りも強く感じていると考えられる。

入試区分別集計ではAO3月の回答が、質問事項について概して肯定的な回答の多かった。AO3月という、いわばラストチャンスで入学を決めた学生という一般的な受け止め方だけでは、この傾向は説明しにくい。さらに、AO3月は、「部活動への熱心さ」「授

業・部活動以外の活動」「アルバイト」の項目で6割を超える肯定的回答をした。

AO入試の学生に、活動を学外のクラブに求める一定の傾向があった。「自分の大人度」については、自分の成熟ぶりを自覚している学生よりも未熟さを自覚している学生の方が多かった。未熟さを自覚している回答は、AO入試の学生に多い傾向が見られた。AO9月については、早期に入試を終えた後の高校生活の緩みと入学後の学業の不振に対する懸念とが一般的に言われているが、平成23年度の結果はあてはまらなかった。

スポーツ推薦については、予想どおり学内の部活動中心の学生生活だったことが窺われた。また、スポーツ推薦は、「就職内定状況」については、正採用と任期付き任用2年までとを合わせた数値は70%で、各区分の中で最も多かった。

成績自己評価別集計では授業内容の満足度や、学生生活全般、及び就職に関連する設問については、「秀・優」グループのほうが優位であった。人間的な成長やクラブ活動の所属に関することについては両グループの差はあまり認められなかった。クラブ活動については、「秀・優」グループのほうが所属していない学生が多かった。

就職状況別集計では基本的な自身の学習の成果を挙げながらも、「キャリア支援」との連携や「クラブ所属」との関係におけるあり方が、就職内定状況を左右していくものと考えられるということであった。特記すべきは「相談できる教員がいない」の回答が過半数であったことである。

クラブ所属別集計では、クラブ所属と非所属では、「本学に対する期待感」は非所属よりクラブ所属に多かった。卒業時の満足度や人間的な成長でも同様の結果であった。非所属はクラブ所属者と比べ、すべての項目において低い満足度であった。

入試においては先入観があった。実態としては、AO3月入学者が「わくわく」して入学し、そして高い満足感を得ていたり、AO9月と一般入試であまり差がなかった。スポーツ推薦入学者の「入学時わくわく感」が最も低い値であった。予想と異なる一面を捉えることができた。

クラブ途中退部者のフォローも、課題として露見された。本学における教育とサービスの質についての現状を知る資料を得ることが出来た。

## 2. 方法

### 2-1. 対象と調査内容

平成27年3月19日(卒業式前日)に調査用紙によるアンケート調査を実施した。アンケート協力者(卒業生)に対するインフォームド・コンセントは口頭にて行い、調査は無記名で実施した。データは統計的に処理されるため、個人情報等守秘義務の生じる事項の聴取はないこと、また強制でないことを伝えた。したがって、特別に倫理面への配慮が必要な項目はない。

対象は、大学・体育学部・体育学科380名(以下、体育学部:留年・復学による卒業生を含む)、短期大学・保健体育学科68名(以下、保健体育学科)、短期大学・児童教育学科94名(以下、児童教育学科)の、計542名(有効回答最大数)であった。

調査内容の概要は、学部・学科・コース、出身地域と居住区分、入学試験区分、大学全般・授業内容の満足度、教員・施設・設備の満足度、各部署のサービス体制、学生生活全般の満足度、クラブ所属と満足度、人間的な成長についての自己評価などであった(資料1参照)。評価方法は、自由筆記を除き「とても満足:5、少し満足:4、どちらでもない:3、少し不満:2、とても不満:1」の5段階を基本とし、修得単位の自己評価については本学の成績評価に合わせた「秀:4、優:3、良:2、可:1」の4段階とした。設問は60項目であり、回答にかかった時間は概ね20分であった。

なお、本学の学部・学科・コースと取得できる教員免許状は以下の通りである。

- (1) 東京女子体育大学・体育学部・体育学科(中学校・高等学校教諭一種免許状(保健体育))  
Aコース専門技能・指導力向上、Bコース教師力強化、Cコース地域スポーツ、Dコース野外スポーツ、Eコースダンス・表現、Fコース健康スポーツ科学

- (2) 東京女子体育短期大学・保健体育学科(中学校教諭二種免許状(保健体育))

保健体育学科コース

- (3) 東京女子体育短期大学・児童教育学科  
児教-幼・保ユニットコース(幼稚園・小学校教諭二種免許状)

児教-こどもユニットコース(小学校教諭二種免許状)

児教-児童スポーツユニットコース(幼稚園教諭二種免許状)

また、入学試験区分は以下の通りである。

- ①I期AO入試9月、②II期AO入試12月、③III期AO入試3月、④推薦入試、⑤一般入試、⑥センター試験入試、⑦他大学等からの編入。①~⑤についてはそれぞれ下記の方法がある。

一般、公募、指定校藤村、スポーツ、社会人アスリート、社会人、卒業生子女等、帰国子女、留学生。

### 2-2. 分析項目と分析方法

まず、3つの学部・学科ごとの単純集計とその比較を行った。結果は、5段階評価での平均値とパーセントで示した。また、体育学部については、各設問と「授業時間外を含む大学生活全般の満足度(総合満足度)」との相関分析を行った。

次に、体育学部について、1総合満足度別集計、2入試区分別集計、3コース別集計、4成績自己評価別集計、5就職、6クラブ所属別集計の、6項目のクロス集計を行い、1) 大学入学時のわくわく感と卒業時の総合満足度、2) 本学を卒業することの誇りと建学の精神、3) 授業内容満足度、4) 教員について、5) 施設について、6) サポート体制、7) 学生生活全般、8) クラブ活動について、9) 人間的な成長について、10) 修得単位の評価、11) 卒業後の進路、12) 平成23年度と平成27年度の比較についてそれぞれ考察し、最後に13)まとめを付した。

結果は、5段階評価での平均値とパーセントで示した。なお、考察において、「とても満足」および「少し満足」を高満足度群、「どちらでもない」を中満足度群、「少し不満」および「とても不満」を低満足度群としたが、詳細な分析や表現方法については、分

担執筆者の任意とした。

### 3. 学科別単純集計における結果および考察

大学体育学部、短大保健体育学科、短大児童教育学科の3つの学部・学科ごとの単純集計をパーセントで示したものが、表3-1である。この表では、各設問と、問2「大学生生活全般（授業時間外を含む）の満足度」（総合満足度）との相関関係も示した。以下、主な項目について学部・学科ごとに簡単に比較を行うとともに、各設問と総合満足度との相関関係から考察を加える。さらに、可能な項目については、平成23年度の卒業生に対する調査結果とも比較を行う。

#### 1) 入学時のわくわく感と総合満足度

入学時のわくわく感→卒業時の総合満足度の変化を見てみると、体育学部は3.3→3.3、保健体育学科は3.3→3.4、児童教育学科は3.4→3.3と、全体的にはほとんど変化はなかった。平成23年度調査では、それぞれ3.5→3.5、3.6→3.8、3.3→3.1であり、全体的にはほとんど変化がないという点で共通であった。微小な差に着目すると、体育学部では変化なし、保健体育学科ではやや上昇、児童教育学科ではやや減少という傾向があったが、こうした傾向は、平成23年度調査でも同様であった。

図3-1には、平成23年度および平成27年度の大学入学時のわくわく感の5段階評価における割合を示し、図3-2には、平成23年度および平成27年度の卒業時の総合満足度の5段階評価における割合を示した。まず平成27年度の結果のみに着目すると、入学時に「すごくわくわく」していた者と「少しわくわく」していた者を合わせた割合（高わくわく群）は、体育学部で49.6%、保健体育学科で51.6%、児童教育学科で55.4%であった。これに対して、卒業時に「とても満足」した者と「少し満足」した者を合わせた割合（高満足群）は、体育学部で45.5%、保健体育学科で45.2%、児童教育学科で39.2%であった。こうして見ると、全体的に入学時のわくわく感に比べて、卒業時にはそのわくわく感を満たせるほどの満足感を得られなかったことが分かる。こうした傾向は、

平成23年度調査と同様であった。

一方、経年的な変化に着目すると、体育学部および保健体育学科ではわくわく感が減少した（体育学部：56%→49.6%、保健体育学科：68%→51.6%）とともに、総合満足度も減少していた（体育学部：51%→45.5%、保健体育学科：61%→45.2%）。まずわくわく感については、やはり入試難易度の低下に伴って、不本意な気持ちで入学してきた学生が体育学部・保健体育学科に増えたことが想定される。また総合満足度についても同様で、不本意感を抱えたまま4年間ないし2年間を過ごした結果、卒業時の満足度が高まらなかったのではないかと。

入学時のわくわく感と、卒業時の総合満足度の相関係数については、学部・学科ごとに大きな差が出た。体育学部では $r=0.269$ （危険率1%水準で有意）、保健体育学科では $r=0.546$ （危険率1%水準で有意）、児童教育学科では $r=0.366$ （危険率1%水準で有意）と、いずれも有意な関係が認められた（保健体育学科では高い相関係数が現れた一方、体育学部および児童教育学科では比較的低い相関係数となった。保健体育学科では他の項目でも総合満足度と極

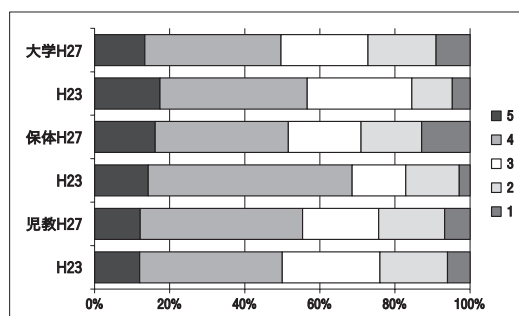


図3-1. 入学時の「わくわく度」割合

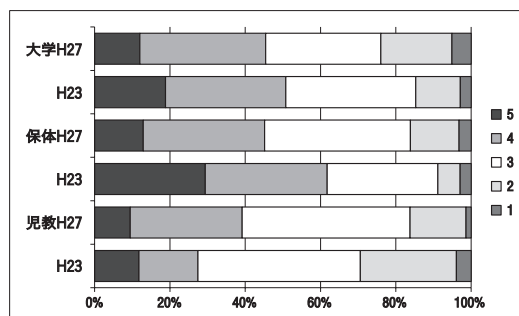


図3-2. 卒業時の「総合満足度」割合

めて高い相関関係を示す項目が複数あることから、これはサンプル数が31と少ないことに由来するものと考えられる。

平成23年度調査では、体育学部における入学時のわくわく感と卒業時の満足度の相関係数は $r=0.349$ （危険率1%水準で有意）であった。平成27年度においては、相関係数が大幅に減少したことが分かる。平成23年度調査の報告書では、相関係数が高かったことについて「この結果は、大学入学に際し目的意識や期待感を持っていた学生ほど満足度が高く、本学がこれらの学生の期待に応えられていたこと、すなわちイメージギャップが少なかったことを示している」と分析されていたが、平成27年度においては、依然学生のイメージギャップは少なかったとはいえ、それがやや広がったことが推察できる。この点は、今後の大学運営を考える上で非常に重要である。1年生もしくは受験生に対して、本学で何をどのように学びたいのかをリサーチし、その結果に真摯に向き合う必要があるのではないか。

## 2) 本学を卒業することの誇りと建学の精神

総合満足度と、本学を卒業することの誇りは、体育学部では $r=0.369$ （危険率1%水準で有意）、保健体育学科では $r=0.584$ （危険率1%水準で有意）、児童教育学科では $r=0.534$ （危険率1%水準で有意）と、いずれも極めて高い相関を持っていた。総合満足度を高めることによって本学を卒業することへの誇りが高まるというのは、ある意味では当然のことであり、この結果は首肯できるものと言えよう。

本学を卒業することへの誇りと関係するのが、建学の精神の理解である。建学の精神への理解度の平均値は、体育学部で3.0、保健体育学科で3.1、児童教育学科で2.9となった。平成23年度調査では、この数値はそれぞれ3.1、2.8、2.7であったことから、建学の精神の理解はこの4年間で、特に短期大学でやや深まったと言えるだろう。

## 3) 授業内容満足度

総合満足度と、授業内容の満足度の間の相関係数は $r=0.345$ （危険率1%水準で有意）であり、この

数値は体育学部では $r=0.331$ （危険率1%水準で有意）、保健体育学科では $r=0.395$ （危険率1%水準で有意）、児童教育学科では $r=0.394$ （危険率1%水準で有意）となった。このことから、いずれの学部・学科においても、大学全体の満足に対して授業という要因は大きな位置を占めることが分かった。

それでは、具体的にどのような授業に対する満足度が高いのだろうか。学部・学科ごとに、各項目の平均値を見てみたい。まず体育学部においては、ゼミでの学習の満足度が4.0、教育実習の充実度が3.8、コースでの満足度が3.8、実技授業の満足度が3.7と、高い数値を示した。ここで注目したいのは、コースでの満足度が極めて高かったことである。両調査の間に体育学部のコース編成が見直され、今回の調査対象者は平成23年度調査の学生とは異なるコース編成で学んだ世代である。こうしたコース編成の変更によって、学生の関心により近い学びを得ることができたことが、この満足度の高さにつながったのではないか。さらに言えば、こうした細分化された学びについて、大学入学時、あるいは受験時から積極的に周知する必要があるとも考えられる。

次に保健体育学科においては、水泳実習の満足度が4.4、実技授業の満足度が3.9と高い数値を示した。特に必修の水泳実習は、学生たちにとっての満足度は極めて高かったことが分かる。学生同士で励まし合いながら遠泳を達成するという経験が、学生の満足度を高めていると言えよう。

最後に児童教育学科については、創作オペレッタの満足度が4.2、野外実習の充実度が3.9、教育実習の充実度が3.8と高い数値を示した。注目すべきは創作オペレッタの満足度が極めて高い点である。自主的な創作活動と、学生同士の学び合い・教え合いが、学生たちの満足度を高めていると考えられる。

ここで見た全体的な傾向は、体育学部におけるコースへの満足度を除き、平成23年度調査とほぼ同様であった。

## 4) 教員について

総合満足度、優れた教員が多いと思うかの間の相関係数は $r=0.277$ （危険率1%水準で有意）であ

り、この数値は体育学部では $r=0.281$  (危険率1%水準で有意)、保健体育学科では $r=0.430$  (危険率5%水準で有意)、児童教育学科では $r=0.187$  (有意差なし)となった。体育学部では卒業研究等で教員と深く接する機会が多いことから、教員の能力を見極める機会があり、教員の能力と満足度に係性が生まれたと考えられる。また、総合満足度と熱意を持つ教員が多いと思うかの間の相関係数は $r=0.221$  (危険率1%水準で有意)であり、この数値は体育学部では $r=0.199$  (危険率1%水準で有意)、保健体育学科では $r=0.353$  (有意差なし)、児童教育学科では $r=0.263$  (危険率5%水準で有意)となった。こちらも体育学部において相関が見られたことから、4年間でより深く教員と接する機会が多い学生ほど、教員の熱心さを見抜き、それが満足度につながっていると考えられる。

尊敬できる教員がいると答えた者の割合は、体育学部で72.9%、保健体育学科で71.4%、児童教育学科で74.3%となった。一方、なんでも相談できる教員がいると答えた者の割合は、体育学部で44.1%、保健体育学科で39.3%、児童教育学科で55.7%となった。この結果から、尊敬できる教員は比較的多くいるものの、一方で気軽に相談しやすい教員はあまりいないということが分かる。ただし、そもそも相談できる相手は教員である必要は必ずしもなく、職員でも構わないはずである。次回の調査では、気軽に相談できる職員の存在についても調べる必要がある。

ここで見た全体的な傾向は、平成23年度調査とほぼ同様であった。

## 5) 施設について

総合満足度と、大学としての施設の充実度の間の相関係数は $r=0.277$  (危険率1%水準で有意)であった(施設利用の満足度は学部・学科ごとに差が出にくいと判断し、学部・学科ごとの分析は割愛する)。やはり、大学施設が充実していることは、学生の満足度を高めるために必要であることが分かる。一方、総合満足度と、クラブ活動施設の満足度の間には、有意な相関が認められなかった。やや意外な結果であるが、クラブ活動の施設に満足していなくとも大学

には満足している(あるいは逆)という学生がそれなりにいるということである。さらに、総合満足度と、図書館の満足度の間の相関係数は $r=0.168$  (危険率1%水準で有意)であった。このことから、図書館施設の充実、大学への満足度を高める一因になることが分かる。

一方、これらの施設への満足度の平均値は、いずれも図書館が高かった(体育学部3.8、保健体育学科4.0、児童教育学科3.6)。学生にとって図書館は定期試験前に勉強をしたり、授業の合間に居場所になる重要な空間である。そうした空間への満足度が現状で比較的高いことは、歓迎すべき結果と言える。今後は、図書館に満足感を覚えるのはソフト面なのかハード面なのかといった、より詳細な内容について調べる必要があるだろう。

ここで見た全体的な傾向は、平成23年度調査とほぼ同様であった。

## 6) サポート体制

総合満足度と、各サポート体制との間の相関係数は、以下の通りであった(サポート体制への満足度は学部・学科ごとに差が出にくいと判断し、学部・学科ごとの分析は割愛する)。健康管理センターの満足度： $r=0.156$  (危険率1%水準で有意)、キャリア支援の満足度： $r=0.226$  (危険率1%水準で有意)、学生食堂の満足度： $r=0.247$  (危険率1%水準で有意)、事務局の窓口サービスの満足度： $r=0.200$  (危険率1%水準で有意)。いずれも総合満足度と相関関係があることが分かった。やはり学生にとっては、種々のサポート体制が大学の満足度を高める要因になっていることが分かる。

全体的に満足度の平均値が高かったのは健康管理センターで(体育学部3.5、保健体育学科3.5、児童教育学科3.6)、クラブに所属する学生が多い本学では、健康管理センターを充実させることが必要であることが分かる。逆に満足度の平均値が低かったのは学生食堂であった(体育学部2.6、保健体育学科3.2、児童教育学科3.2)。学生食堂は、図書館と並んで学生が居場所とする場所であり、またアスリートとしての正しい栄養を摂取する場でもある。現

在の学生食堂は老朽化が進んでおり、居場所としての居心地がよくないのかもしれない。また、現状のメニューに物足りなさがあるのかもしれない。学生にとっての大学満足度を高めるためにも、学生食堂の変化が求められる。

ここで見た全体的な傾向は、平成23年度調査とほぼ同様であった。

#### 7) 学生生活全般の満足度・注力度

総合満足度と、学生生活全般の満足度・注力度との間に有意な関係があったのは、学則は適切だった( $r=0.348$ , 危険率1%水準で有意), 友人関係の満足度( $r=0.264$ , 危険率1%水準で有意), 授業に注力した( $r=0.235$ , 危険率1%水準で有意), クラブ活動に注力した( $r=0.133$ , 危険率5%水準で有意), 授業やクラブ活動以外に注力した( $r=0.176$ , 危険率1%水準で有意), 就職活動に注力した( $r=0.155$ , 危険率1%水準で有意)といった項目であった。逆に、アルバイト, 趣味, ボランティア活動といった事項への満足度・注力度は、総合満足度を高めることにはつながらないことが分かった。平成23年度調査との比較で見ると、体育学部において、就職活動への注力度が総合満足度と有意な関係を持っている点が、大きな変化であった。

友人関係の満足度の平均値は、体育学部が4.1, 保健体育学科が3.9, 児童教育学科が3.9と、いずれも高い数値を示した。さらに、本学で一生付き合える友人に出会えた者の割合は、体育学部で90.9%, 保健体育学科で72.4%, 児童教育学科で89.7%であった。大学は研究やクラブ活動のみを行う場ではなく、今後も続く人脈や交友関係を形成する場でもある。こうした良好な交友関係を形成できている点は、本学の強みであろう。それは、全国的に見て小規模な大学であることにも由来していると考えられる。この点を自覚し、本学の魅力を高める、あるいはそれを外部にアピールするような施策が求められる。

#### 8) クラブ活動

総合満足度と、クラブ活動における専門技能・技術が伸びたこととの間の相関係数は、 $r=0.288$  (危

険率1%水準で有意)であった。やはり本学においては、学生がクラブ活動で自己の成績が伸びたかどうかは、学生生活の満足度に関連していることが明らかになった。この傾向は、平成23年度調査と同様であった。

クラブ活動で専門技能・技術を伸ばすことができたかどうかの平均値は、体育学部で3.9, 保健体育学科で3.3, 児童教育学科で3.3であった。やはり4年間在籍した者と2年間のみ在籍者では、技能・技術の成長に差があることが分かった。また、クラブ活動が良い面も悪い面も含めて就職に影響すると感じる割合の平均点は、体育学部で4.0, 保健体育学科で3.5, 児童教育学科で3.8と、高い得点を示した。このことから、クラブ活動と就職活動の関係性に敏感な学生が多いことが分かった。

#### 9) 人間的な成長について

総合満足度と、自身の人間的成長への満足度との間の相関係数は、 $r=0.288$  (危険率1%水準で有意)であり、この数値は体育学部では $r=0.289$  (危険率1%水準で有意), 保健体育学科では $r=0.285$  (有意差なし), 児童教育学科では $r=0.316$  (危険率1%水準で有意)となった。また、自身の成長度の自己評価の平均値は、体育学部で3.7, 保健体育学科で3.5, 児童教育学科で3.4であった。自身が成長したことへの満足度と大学への満足度に関係があるということは、当然のことながら、大学が学生たちに成長を実感させてあげることが必要であることを示唆している。

総合満足度と、行動力・実行力が身に付いた度合いとの間の相関係数は、 $r=0.283$  (危険率1%水準で有意)であり、この数値は体育学部では $r=0.247$  (危険率1%水準で有意), 保健体育学科では $r=0.692$  (危険率1%水準で有意), 児童教育学科では $r=0.279$  (危険率5%水準で有意)となった。また、行動力・実行力が身に付いた度合いの平均値は、体育学部で3.7, 保健体育学科で3.7, 児童教育学科で3.4であった。この度合いの高さは、自ら行動する必要がある、様々な実習関係の授業の充実と関係しているように考えられる。

さらに、総合満足度と、コミュニケーション力が身



に付いた度合いとの間の相関係数は、 $r=0.266$  (危険率1%水準で有意)であり、この数値は体育学部では $r=0.261$  (危険率1%水準で有意)、保健体育学科では $r=0.565$  (危険率1%水準で有意)、児童教育学科では $r=0.227$  (有意差なし)となった。また、コミュニケーション力が身に付いた度合いの平均値は、体育学部で3.8、保健体育学科で3.4、児童教育学科で3.5であった。こちらも、行動力・実行力と同様に、実習関係の授業で自ら体験し、コミュニケーションを取る必要があったことと関係しているように考えられる。

ここで見た全体的な傾向は、平成23年度調査とほぼ同様であった。

#### 10) 修得単位の自己評価

修得単位の自己評価の平均値は、すべての学部・学科において2.5であった。これは、優と可の中間ということである。この傾向は、平成23年度調査と変化なかった。

また、総合満足度と、習得単位の自己評価との間の相関係数は、 $r=0.140$  (危険率1%水準で有意)となり、相関係数が低いながらも有意な関係があった(修得単位の自己評価は学部・学科ごとに差が出にくいと判断し、学部・学科ごとの分析は割愛する)。これは、成績の良い(と自己評価している)学生ほど、大学への満足度が高かったことを意味する。

#### 11) 卒業後の進路

総合満足度と、卒業後の進路への納得度との間の相関係数は、 $r=0.186$  (危険率1%水準で有意)となり、相関係数が低いながらも有意な関係があった(卒業後の進路への納得度は学部・学科ごとに差が出にくいと判断し、学部・学科ごとの分析は割愛する)。平成23年度調査では両変数間に有意な関係がなく、この点で大きな変化が現れたと言える。この4年間で就職という問題がよりシビアになり、就職という要素が大学生活の充実に占める割合が高まったということであろう。このことは、ここまで見てきた分析からも推察できることである。

卒業後の進路への納得度の平均値は、体育学部

で3.9、保健体育学科で4.0、児童教育学科で3.9であった。いずれの学部・学科でも納得度が高く、学生たちが就職活動に精を尽くしたことが推察される。

#### 12) 平成23年度と平成27年度の比較

平成23年度調査から大きく傾向が変わっていたのは、入学時の高わくわく群および卒業時の高満足群の減少(体育学部および保健体育学科)、総合満足度と入学時のわくわく度の相関係数の減少(体育学部)、建学の精神の理解の浸透(保健体育学部および児童教育学科)、コース満足度の上昇(体育学部)、総合満足度と就職活動への注力度の相関関係が現れたこと(体育学部)、総合満足度と卒業後の進路への納得度の相関関係が現れたこと(体育学部)といった項目であった。

ここで注目すべきは、第1に、入学時の高わくわく群と卒業時の高満足群が減少したことである。すでに述べたように、入試難易度の易化がこれらの傾向を招いているように考えられるので、まずはこの点に注目する必要があるだろう。一方、卒業時の高満足群が減少していることは、入試だけの問題ではない。不本意ながら入学してくるという学生が増大している現実を受け止めて、そうした学生たちもモチベートするような教育内容を構築する必要があるのではないか。

第2に注目すべきは、就職活動が学生生活の満足度に関係するようになったことである。このことは、平成23年度と明確に異なる点であった。この間、日本社会の先行き不透明感が全階層的に浸透し、安心して働くということが人生の重要なテーマになりつつある。そうした機運を敏感に察知した学生が多いということが、こうした結果につながったのであろう。本学としては、これまで以上にきめの細かいキャリア支援を行うことが、学生の総合満足度につながるということを自覚する必要があるだろう。

#### 13) まとめ

以上、平成27年度における満足度調査の単純集計の結果を、学部・学科別に見てきた。サンプル数に大きな開きがあるため、学部・学科ごとの差につい

ては一概に述べることは難しい。だが、その中でも特徴的であった点を挙げると、体育学部の学生は、保健体育学科・児童教育学科の学生に比べて、様々な面で得たものを実感しやすいということが言える。具体的には、友人関係の満足度、クラブ活動による成長の実感度、人間的成長への満足度、コミュニケーション能力が身に付いた度合いといった項目で、体育学部の学生は明らかに高い平均値を示していた。様々なものを得たという実感を持つことは、卒業後も愛校心を持ち続けることにつながるだろう。大学としても、できる限り学生に様々な面で得たものを実感できるように工夫していく必要がある。

表3-1. 学科別にみた単純集計および総合満足度との相関係数

No	設問内容	全体		大学							Mean		SD		満足度との相関		全体		児教							Mean		SD		満足度との相関		
		人数	満足度との相関	人数	5	4	3	2	1	Mean	SD	満足度との相関	人数	5	4	3	2	1	Mean	SD	満足度との相関	人数	5	4	3	2	1	Mean	SD	満足度との相関		
1	本学入学時のわくわく感	381	0.307 **	276	13	36	23	18	9	3.3	1.2	0.269 **	31	16	35	19	16	13	3.3	1.3	0.546 **	74	12	43	20	18	7	3.4	1.1	0.366 **		
2	大学生生活全般(授業時間外を含む)の満足度	380	1.000	275	12	33	31	19	5	3.3	1.1	1.000	31	13	32	39	13	3	3.4	1.0	1.000	74	9	30	45	15	1	3.3	0.9	1.000		
3	本学を卒業することの誇り	381	0.410 **	276	17	36	28	14	5	3.4	1.1	0.369 **	31	13	35	32	13	6	3.4	1.1	0.584 **	74	14	32	36	14	4	3.4	1.0	0.534 **		
4	建学の精神や藤村トヨの教育をどの程度知っているか	375	0.151 **	271	2	34	30	26	7	3.0	1.0	0.160 **	31	10	26	32	29	3	3.1	1.0	0.322	73	3	25	38	30	4	2.9	0.9	0.015		
5	大学の授業内容の満足度	380	0.345 **	274	7	33	39	19	2	3.2	0.9	0.331 **	32	9	28	41	22	0	3.3	0.9	0.395 **	74	4	30	50	15	1	3.2	0.8	0.394 **		
6	専門的講義授業の満足度	381	0.355 **	276	9	45	33	10	3	3.5	0.9	0.337 **	32	22	25	44	9	0	3.6	0.9	0.411 *	73	3	42	41	12	1	3.3	0.8	0.425 **		
7	専門的実技授業の満足度	380	0.266 **	274	20	45	26	7	3	3.7	0.9	0.261 **	32	34	28	31	3	3	3.9	1.0	0.263	74	7	46	36	9	1	3.5	0.8	0.305 **		
8	専門以外の科目(一般教養)の満足度	381	0.326 **	276	8	34	39	14	5	3.3	1.0	0.309 **	32	9	19	66	6	0	3.3	0.7	0.547 **	73	1	37	49	11	1	3.3	0.7	0.327 **		
9	本学で最も深く学べた科目は何ですか	379	0.182 **	274	4	41	30	17	8	2.9	1.2	0.136 *	32	6	9	53	28	3	3.0	1.0	-0.034	71	3	31	37	17	13	3.0	0.9	0.274 *		
10	教育実習の充実度	379	0.159 **	273	44	26	11	4	16	3.8	1.4	0.202 **	32	22	19	25	3	31	3.0	1.5	-0.034	74	24	41	28	5	1	3.8	0.9	0.274 *		
11	野外実習(スキー・水泳・キャンプなど)の充実度	379	0.159 **	275	27	21	8	4	41	2.9	1.7	0.136 *	32	38	13	25	0	25	3.4	1.6	0.235	72	32	33	25	8	1	3.9	1.0	0.330 **		
12	ゼミでの学習の満足度	0.177 **	273	48	25	16	5	7	4.0	1.2	0.177 **																					
13	コースでの満足度	0.242 **	273	26	40	25	7	2	3.8	1.0	0.242 **																					
14	本学に大学院は必要だと思うか	0.254 **	273	15	19	30	17	19	2.9	1.3	0.254 **																					
12	水泳実習(遠泳)の経験は満足出来たか	0.094											32	59	19	22	0	0	4.4	0.8	0.094											
13	就職に関して学部生と比べ、どのように感じたか	0.604 **											32	3	13	56	19	9	2.8	0.9	0.604 **											
14	大学への編入は魅力的だと思うか	0.340											32	9	22	47	13	9	3.1	1.0	0.340											
12	創作オペレッタの満足度	0.423 **																														
13	就職に関して学部生と比べ、どのように感じたか	0.252 *																														
14	大学への編入は魅力的だと思うか	0.354 **																														
15	学問分野の専門家として優れた教員が多いと思うか	365	0.277 **	264	15	43	24	17	2	3.5	1.0	0.281 **	30	30	37	20	10	3	3.8	1.1	0.430 *	74	57	19	18	3	4	4.2	1.1	0.423 **		
16	教育や指導に熱意を持った教員が多いと思うか	363	0.221 **	262	13	37	29	19	2	3.4	1.0	0.199 **	30	17	37	33	10	3	3.5	1.0	0.353	74	12	19	47	15	7	3.1	1.0	0.252 *		
17	本学に尊敬できる教員がいるか	262		262									28	71	29							74	16	24	30	22	8	3.2	1.2	0.354 **		
18	本学になんでも相談できる教員がいるか	261		261									28									70										
19	専門大学としての施設の充実度	374	0.277 **	272	5	21	24	31	19	2.6	1.2	0.246 **	29	17	21	28	28	7	3.1	1.2	0.573 **	73	5	29	47	15	4	3.2	0.9	0.312 **		
20	部活動の施設・練習場所の満足度	245	0.125	188	14	20	23	24	18	2.9	1.3	0.108	18	28	0	50	22	0	3.3	1.1	0.285	39	21	13	41	21	5	3.2	1.1	0.176		
23	図書館の満足度	331	0.168 **	242	28	35	26	8	3	3.8	1.0	0.162 *	28	39	21	36	4	0	4.0	0.9	0.614 **	61	15	36	44	3	2	3.6	0.8	-0.036		
24	健康管理センターのサポート満足度	368	0.156 **	268	17	29	41	10	3	3.5	1.0	0.182 **	30	23	17	47	10	3	3.5	1.1	0.441 *	70	19	34	39	6	3	3.6	0.9	-0.104		
25	キャリア支援のサポート満足度	369	0.226 **	269	17	35	29	13	7	3.4	1.1	0.203 **	30	20	30	37	10	3	3.5	1.0	0.495 **	70	19	23	41	11	6	3.4	1.1	0.216		
26	学生食堂の満足度	369	0.247 **	269	8	18	26	23	25	2.6	1.3	0.174 **	30	17	23	33	17	10	3.2	1.2	0.542 **	70	14	27	33	20	6	3.2	1.1	0.484 **		
27	事務局の窓口サービスの満足度	370	0.200 **	270	7	19	43	16	14	2.9	1.1	0.171 **	30	13	13	47	20	7	3.1	1.1	0.463 *	70	6	21	50	16	7	3.0	0.9	0.208		
28	学則は適切だったか	378	0.348 **	276	7	19	53	17	5	3.1	0.9	0.339 **	30	13	27	37	23	0	3.3	1.0	0.801 **	72	7	17	57	14	6	3.1	0.9	0.170		
29	私生活全般での友人関係の満足度	379	0.264 **	275	48	27	19	3	3	4.1	1.0	0.239 **	31	42	19	26	10	3	3.9	1.2	0.555 **	73	44	22	21	8	5	3.9	1.2	0.270 *		
30	本学で一生つきあえる友人に出会えたか	264		264									29									68										
33	授業にどのくらい力を注いだか	374	0.235 **	272	17	32	34	11	7	3.4	1.1	0.236 **	31	19	39	26	10	6	3.5	1.1	0.145	71	8	35	37	11	8	3.2	1.0	0.283 *		
34	部活動(学内・学外)にどのくらい力を注いだか	352	0.133 *	254	52	15	18	5	10	3.9	1.4	0.144 *	29	17	24	28	10	21	3.1	1.4	-0.023	69	33	14	22	7	23	3.3	1.5	0.219		
35	授業や部活動以外の活動にどのくらい力を注いだか	363	0.176 **	266	21	29	29	13	9	3.4	1.2	0.156 *	29	10	34	34	7	14	3.2	1.2	0.618 **	68	13	29	44	4	9	3.3	1.1	0.087		
37	アルバイトにどのくらい力を注いだか	369	-0.002	268	22	24	21	12	21	3.2	1.4	0.011	31	26	23	32	3	16	3.4	1.3	0.046	70	19	30	27	7	17	3.3	1.3	-0.106		
38	趣味にどのくらい力を注いだか	370	0.039	268	24	26	24	17	9	3.4	1.3	0.058	31	26	23	26	19	6	3.4	1.2	-0.073 *	71	30	17	37	14	3	3.6	1.1	-0.006		
39	就職活動にどのくらい力を注いだか	371	0.155 **	270	18	22	29	15	16	3.1	1.3	0.168 **	31	6	23	42	6	23	2.8	1.2	0.264	70	14	20	24	19	23	2.8	1.4	0.077		
40	ボランティア活動にどのくらい力を注いだか	369	0.086	270	7	11	20	17	44	2.2	1.3	0.123 *	31	10	6	32	16	35	2.4	1.3	0.167	68	7	13	22	15	43	2.3	1.3	-0.135		
41	クラブ(部・クラブ・サークル)活動所属	251		251	66	5	8	2	18				25	28	12	8	4	48				62	45	3	11	5	35					
42	専門技能や技術はどの程度伸ばせたか、あるいは上達	251	0.173 **	192	41	29	14	10	7	3.9	1.3	0.178 *	12	17	33	25	8	17	3.3	1.3	-0.294	47	15	40	17	13	15	3.3	1.3	0.312 *		
43	学内クラブに所属しなかったことをどう感じているか(途中退会含む)	134	0.021	85	33	18	38	8	4	3.7	1.1	0.155	14	29	7	43	0	21	3.2	1.4	0.026	35	14	14	57	9	6	3.2	1.0	-0.317		
44	クラブ活動は就職にどの程度影響すると思うか	331	0.096	243	44	26	16	11	2	4.0	1.1	0.103	25	20	20	52	4	4	3.5	1.0	0.161	63	25	41	22	8	3	3.8	1.0	0.067		
45	大学生生活を通しての、自分自身の成長への満足度	367	0.288 **	267	21	42	26	6	4	3.7	1.0	0.289 **	3																			

## 4. 大学クロス集計における結果および考察

### 4-1. 総合満足度別集計

本節では学生の大学卒業時における満足度に関わっている要因を明らかにする目的で満足度の違いと他調査項目の間における関連性を検討した。

方法は平成27年3月19日(卒業式前日)に無記名調査用紙による実施したアンケート調査のうち大学・体育学部・体育学科275名(以下、体育学部)の学生を総合満足度の回答結果をもとに高い群として5および4と回答した群;高満足群, 可もなく不可でもない3;中満足群, 低い群として1および2と回答した群:低満足群に分けた。結果は

5および4と回答した群:高満足群 125人(46%)  
 可もなく不可でもない3:中満足群 84人(31%)  
 低い群として1および2と回答した群:低満足群  
 66人(24%)

この結果をもとにクロス集計として各群における総合満足度を除いた大学全般・授業内容の満足度, 教員・施設・設備の満足度, 各部署のサービス体制, 学生生活全般の満足度, クラブ所属と満足度, 人間的な成長についての自己評価など他の調査項目(資料1)への1から5の回答を単純集計しパーセントで表示し, 更に各群の平均±標準偏差を算出した。体育学部および児童教育学科については例数が少数であり比較検討が困難であるため行わなかった。

全体の結果を表4-1に示した。以下各分野における特徴を述べ, 平成23年度に実施した調査結果との比較を交えながら若干の考察を加えた。

#### 1) 大学入学時のわくわく感と卒業時の総合満足度

「大学入学時のわくわく感」と「卒業時の総合満足度」の平均は, 高満足群, 中満足群, 低満足群でそれぞれ3.6, 3.1および2.9ポイントでその差0.7であった。高満足群では「少いわくわく」と答えたものが48%と最も多く, 中満足群では「どちらでもない」と答えたものが36%と最も多く, 低満足群では「あまりなし」と答えたものが26%と最も多かった。「卒業時の総合満足度」低満足群の学生の半数に近い者が本学入学時には大きな期待を抱いていたことが判明した一方

で, 入学当初よりこの群の学生の4割近くが大きな期待を持たないまま入学しており少なくない学生が入学時より低い期待度を持っていたことも卒業時の低い評価につながった要因となったと考えられる。ただし卒業時高評価であった学生の23%は入学時には大きな期待を抱いていなかったことが判明しており, これらの学生が評価を変えた要因を明らかにすることが本学の利点を更に伸長できる要素として重要である。そのためには今後個別の事例について検討するなどの方策があると考えられる。

#### 2) 本学を卒業することの誇りと建学の精神

「総合満足度」と「本学を卒業することの誇り」の分析結果は, 高満足群, 中満足群, 低満足群でそれぞれ3.8, 3.3および2.9ポイントであり満足度を除く評価項目で0.9ポイントの最も大きな差を示していた(図4-1-1)。高満足群では70%以上が誇りを感じると回答し低満足群では35%が誇りを感じると答えていた。低満足群でも誇りに関する回答2.9ポイントと大学全般の満足度の平均1.8ポイントよりも高い評価であったことは興味深い。一方「建学の精神や藤村トヨの教育についての講義」についての評価は, 高満足群, 中満足群, 低満足群でそれぞれ3.1, 2.8および2.9ポイントであり, この学年の卒業時の満足度とは関連しないと考えられた。学園創立時の教育理念と現在の大学に対する捉え方に差異がある事が示唆されたが, 授業の目的と学生の受け取り方に起因するとも考えられる。将来の満足度調査における調査結果に興味を持たれる。

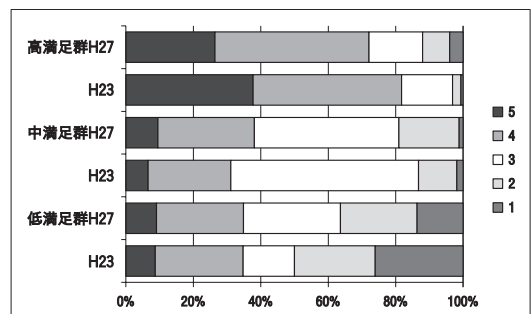


図4-1-1. 本学を卒業することの誇り

### 3) 授業内容満足度

「総合満足度」別に「授業内容の満足度」について分析した結果は、高満足群、中満足群、低満足群でそれぞれ3.5、3.2および2.8ポイントであり総合満足度ほどの幅はないが高満足群と低満足群の間で0.7ポイントと比較的大きな差を示していた(図4-1-2)。授業に対する満足度は総合満足度とほぼ同様の傾向を認め、当学においてもまず授業に対する満足度が総合満足度と関連していることが示された。専門講義、実技、一般教養、教育実習、野外実習、ゼミナールのなかでも評価が高かったのはゼミナール、教育実習、実技授業であった。これらを概観すると学生が課題を達成したことが感じられるプログラムに高い評価が与えられている傾向がうかがわれた。興味深いのは高満足度と低満足度の群の差が、ゼミナール0.4実技授業0.5に比べ教育実習0.8と比較的大きな差を示していたことである(図4-1-3)。このことが教育実習を行わなかったことに起因するのか教育実習の結果に拠るのかは本研究では明らかにできていない。

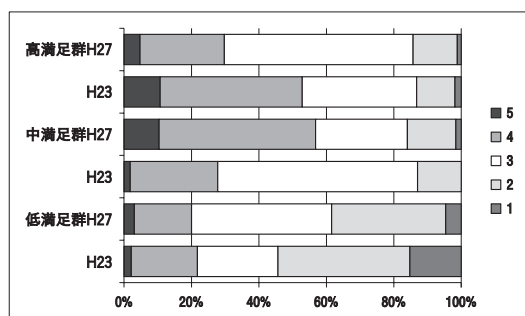


図4-1-2. 授業内容の満足度

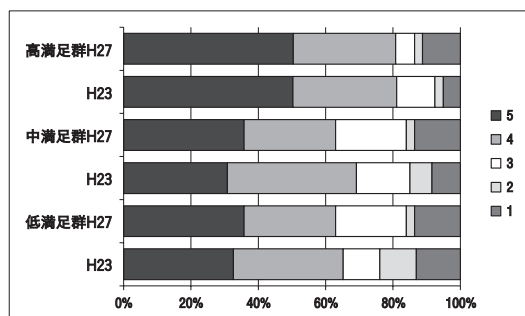


図4-1-3. 教育実習の満足度

### 4) 教員について

「学問分野の専門家として優れた教員が多いか」という問いに対しては、高満足群、中満足群、低満足群でそれぞれ3.8、3.4および3.2ポイントであり高満足群と低満足群の間は0.6であり、比較的大きな差を示していた前回の調査結果(1.0ポイント)よりも差が縮小した。また「教育や指導に熱意をもった教員が多いか」という問いに対しては、高満足群、中満足群、低満足群の平均はそれぞれ3.5、3.3および3.2であり高満足群と低満足群の間で0.3ポイントの差であり前回の調査結果(0.7)よりも差が縮小した。「尊敬できる教員の存在」については、高満足群で75%、中満足群70%、低満足群73%が「いる」と答えており、前回30%ほどあった差(高満足群87%、低満足群56%)が無くなった。一方で、「なんでも相談できる教員の存在」は、高満足群で48%、中満足群44%、低満足群37%が「いる」と答えており共に総合満足度が低下するとともにその割合は低下した。相談についての満足度評価は全体に低い結果となったが、前回20%ほどあった差は10%ほど縮小した。教員の評価および関わりと総合満足度の関連は低くなりつつある可能性が示された。

### 5) 施設について

「専門大学としての施設の充実度」については高満足群、中満足群、低満足群の平均はそれぞれ2.8、2.7および2.1と前回よりもさらに低い結果となり、高満足群においても平均レベルを下回る施設と捉えられていることがうかがえる(図4-1-4)。また高満足群と低満足群の間には比較的大きい0.7の差を示してお

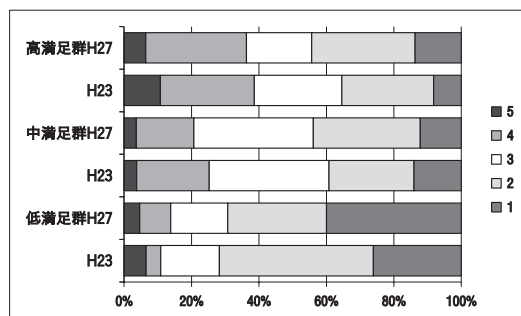


図4-1-4. 専門大学としての施設の充実度

り、低い施設の充実度は大学全般の評価には負の要因として関わっている可能性も否定できない。また、「クラブ活動での使用施設の充実度」においても、高満足群、中満足群、低満足群の平均は3.1から2.5ポイントと総じて満足度の低い結果となった。図書館については、高満足群、中満足群および低満足群の平均は3.9、3.8および3.6ポイントと施設に関する評価の中では前回と同様高い満足度を得た。

#### 6) サポート体制

学生サービス等に関わる部署のサポート体制では、「健康管理センター」については高満足群、中満足群、低満足群の平均は3.6、3.4および3.3ポイントとほぼ等しい評価結果であった。「キャリア支援センター」については高満足群、中満足群、低満足群の平均は3.6、3.3および3.2ポイントと0.4の差を示していた。前回調査結果は高満足群(3.9)と低満足群(3.2)の間に比較的大きな差を認めたが、今回は総合満足度とは明確な関連を見いだせない結果となった。

学生が主に利用する「事務局窓口」については高満足群、中満足群、低満足群の平均は3.0、2.8および2.7ポイントと中等度をやや下回る評価であった。高満足群と低満足群では0.3ポイントと総合満足度とは明確な関連を見いだせない結果となった。

「学生食堂」については高満足群、中満足群、低満足群の平均は2.8、2.5および2.3と0.5ポイントの差を示していた。サポート体制の中では本部門のみが全群で評価3を下回った。前回の調査時より外部委託業者が交替しその評価が目ざされたところであるが、ほぼ同じ結果となった。利用者のニーズを調査し可能な改変について検討して頂くことを期待したい。

#### 7) 学生生活全般

「私生活での友人関係の満足度」では、高満足群、中満足群、低満足群の平均は4.4、3.9および3.9と0.5ポイントの差を示していたが、全群で高い評価となった。続く質問項目における「本学において一生付き合える友人に出会えましたか」の回答は奇しくもすべ

ての群で91%「出会えた」と回答しており友人関係の構築が本項目の高い評価結果となった要因であると思われる。前回認めた0.8ポイントの差が0.5ポイントに縮小しており、総合満足度とは関連性は低くなりつつあることを示唆するが本学における人間関係形成には満足度が総じて高い結果であった。

授業への取り組みへの熱心さは、各群とも3.6、3.4、3.0と前回の調査結果(3.7-3.3)よりやや拡大した。部活動への取り組みが高満足群、中満足群、低満足群の平均は4.1、3.8および3.7ポイントと0.4の比較的大きな差を示していたが、前回の調査結果が高満足群4.5、中満足群3.9、低満足群3.2に比較すると、高満足群において部活動に熱心に取り組んだと自己評価する割合が前回の調査よりも減少した一方で、低満足群では増加していたこと、低満足群では60%近くが熱心に部活動に取り組んだと回答しており、前回調査時よりもその傾向は縮小しているものの依然として当学においては部活動が学生に大学生活の中で打ち込むことのできる場を提供していることがうかがわれた。その一方で総合満足度との関連性は低下しているのではないかと考えられる結果となった。

#### 8) クラブ活動

「クラブ活動での技能や技術の上達度」では、高満足群、中満足群、低満足群の平均は4.1、3.6および3.7ポイントと全体として高評価であったが、前回0.9ポイントの比較的大きな差が0.4と縮小する結果となった。技術の向上獲得が大学全般の満足度へとつながる傾向が低下していることをうかがわせた。一方当学のクラブに所属しないことについては3.9-3.5と必ずしも満足度に否定的な要因として関与していないことを示唆する結果となった。このことは当学では部活動非参加学生にとって総合満足度評価を行うに当たりむしろ所属していないことを肯定的に受け取っているともいえよう。

クラブ活動の就職への影響については、高満足群、中満足群、低満足群の平均は4.1、3.9および3.9ポイントと、前回とほぼ同じく全群で好意的評価結果でありその差も小さく「総合満足度」との関連は認め難くなった。

## 9) 人間的な成長について

「自分自身の成長への満足度」では、高満足群、中満足群、低満足群の平均は3.9、3.8および3.4ポイントと0.5の差を示していたが、全群で比較的好意的評価結果であったが特に低満足群が他群よりやや低い値となり、前回と調査結果よりも学生生活全般の満足度との関連があることをうかがわせる結果となった。

「自分の大人度」については、「とても大人、やや大人、年齢相応、やや子ども、かなり子ども」の5段階評価において、高満足群、中満足群、低満足群の平均は2.8-2.6ポイントとほぼ等しく、卒業時にも多くの学生が主観的には自らを年齢相応からやや幼いと捉えていることが判明した。前回も同様の結果であった。

「行動力が身についたか」「コミュニケーション力が身についたか」という問いに対しては、高満足群、中満足群、低満足群の平均は3.9-3.5ポイントとほぼ同様の傾向を示した。前回も同様の結果であった。

「東京オリンピック開催の決定」については、高満足群、中満足群、低満足群の平均は2.6-1.9ポイントと全群とも影響を与えておらず、特に低満足群は1.9と著しく低い結果であった。決定が卒業年次であり、今後の卒業学年における調査を実施した場合、結果が大きく異なる可能性は否定できない。

## 10) 修得単位の評価

「修得単位の評価」についての問いに対しては、高満足群、中満足群、低満足群の平均は2.6、2.5および2.4ポイントであった。前回調査よりもその差が縮小し当学での成績と「総合満足度」との関連は認め難くなった。

## 11) 卒業後の進路

「卒業後の進路の納得度」は、高満足群、中満足群、低満足群の平均は4.1、4.0および3.5ポイントであり、0.6ポイントの差を認め、前回「総合満足度」と「進路の満足度」との間には明らかな関係は認められなかったが、今回は低満足群のみ0.5ポイントほど低く関連している可能性が示された(図4-1-5)。

「キャリアデザインの授業の進路への役立ち」については、高満足群、中満足群、低満足群の平均は2.9、2.8および2.4ポイントであり、全ての群で3を下回る結果となりまた0.5ポイントの差を認めた。現在改変されたプログラムが進行中であり次回以降の調査結果が期待される。

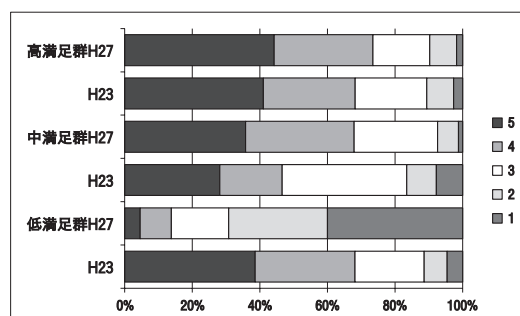


図4-1-5. 進路への納得度

## 12) 平成23年度と平成27年度の比較

まず注目されるのは「総合満足度」の各群の占める割合が前回の調査に比較し高満足群が10%減少し、低満足群が10%増加していたことである。

今回「総合満足度」グループ別に大きな差を認めた質問では、前回と同じく「本学を卒業することの誇りと建学の精神」であったがその差は、1.5より0.9へと縮小していた。その他には「部活動に熱心に取り組んだか」の差は、1.3より0.4へと縮小していた。「授業に対する満足度」における差は、1.0より0.7へと縮小していた。唯一「教育実習」における差は、前回調査0.6より0.8と更に満足度と関連してきている可能を示唆された。

「学問分野の専門家として優れた教員が多いか」における差は1.0より0.7へと縮小していた。「クラブ活動での技能や技術の上達度」における差が0.9より0.4へと縮小していた。「教育や指導に熱意をもった教員が多いか」における差は0.7から0.3へと縮小していた。これらの項目では概して高満足群の評価が低下し低満足群の評価が僅かながら上昇していた。

一方前回「総合満足度」と「進路の満足度」との間には明らかな関係は認められなかったが、今回は低満足群のみ0.5ポイントほど低い結果であった。

## 13) まとめ

学生の大学卒業時における満足度に関わっている要因を明らかにする目的で、体育学部学生を満足度別に3群に分け、他調査項目との間における関連性を検討するためにクロス集計を行った。

全体的にみると前回の調査に比較し高満足群が10%減少し、低満足群が10%増加していた。

今回の調査結果において高満足群と低満足群で最も大きな差を認めた項目およびその差は、本学を卒業することの誇り1.5ポイントであった。他に授業関連では授業全体の満足度1.0ポイント、実技満足度0.9ポイント、教員については専門家がいないか1.0ポイント、学生生活全般では部活動へ熱心に取り組んだ1.3ポイント、クラブ活動では実技の上達0.9ポイントなどであった。大学卒業時における満足度に最も関連した本学を卒業することについての誇りは単一の要因より導かれるとは考え難く上記に挙げた他の項目が少なからず影響している可能性がある。

次に前回に引き続き評価が低かった項目についてであるが、「建学の精神・藤村トヨの教育について」、「キャリアデザイン」の授業については全群で評価が高まっていないと考えられその位置づけについては、何らかの工夫が必要であると考えられる。また当学の体育施設の評価は総じて評価が低い結果であった。

前は自ら体育実技、部活動へ積極的に取り組む学生が存在し、そこに専門性の高い指導教官が適切な授業を実施することで学生の技術的上達もたらされ、そのような学生は大学卒業時における満足度も高く、本学を卒業することについての誇りも強く感じていると考察した。しかしながら今回の結果では本学における部活動への注力による総合満足度上昇への影響は小さくなっている可能性が示唆された一方で、教育実習をはじめとする、ゼミナール、実技をはじめとする授業全体の満足度、進路の納得度などの要因が今回はその影響を伸ばしていた結果となった。

これらの変化の要因として、前回の調査対象学生と今回の調査対象学生の当学への入学目的などをはじめとする集団特性の違いに起因する可能性がある。さらには部活動について入部している学生と非入部

の学生で捉え方が異なる傾向がより顕著になったことより当学を志望する学生構成の変化が影響しているなどの可能性も否定できない。

今回も卒業時高評価であった学生の23%は入学時には大きな期待を抱いていなかったことが判明しており、これらの学生が評価を変えた要因を明らかにすることが本学の利点を更に伸長できる要素として重要である。そのためには今後個別の事例について検討するなどの方策が必要であると考えられる。



表4-1. 総合満足度別集計

No	設問内容	大学_満足4+5							大学_満足3							大学_満足1+2						
		人数	5	4	3	2	1	Mean SD	人数	5	4	3	2	1	Mean SD	人数	5	4	3	2	1	Mean SD
1	本学入学時のワクワク感	125	17	48	17	14	4	3.6 1.1	84	8	30	33	18	11	3.1 1.1	66	14	23	21	26	17	2.9 1.3
2	大学生生活全般(授業時間外を含む)の満足度	125	26	74	0	0	0	4.3 0.4	84	0	0	100	0	0	3.0 0.0	66	0	0	0	79	21	1.8 0.4
3	本学を卒業することの誇り	125	26	46	16	8	4	3.8 1.0	84	10	29	43	18	1	3.3 0.9	66	9	26	29	23	14	2.9 1.2
4	建学の精神や藤村トヨの教育をどの程度知っているか	123	3	43	26	20	7	3.1 1.0	82	1	22	35	34	7	2.8 0.9	66	2	33	30	27	8	2.9 1.0
5	大学の授業内容の満足度	125	10	46	27	14	2	3.5 0.9	84	5	25	56	13	1	3.2 0.8	65	3	17	42	34	5	2.8 0.9
6	専門的講義授業の満足度	125	15	54	20	8	2	3.7 0.9	84	6	39	45	10	0	3.4 0.7	66	3	33	41	15	8	3.1 0.9
7	専門的実技授業の満足度	123	28	49	16	4	3	3.9 0.9	84	14	43	35	8	0	3.6 0.8	66	14	38	32	12	5	3.4 1.0
8	専門以外の科目(一般教養)の満足度	125	13	42	30	13	2	3.5 1.0	84	4	35	46	14	1	3.3 0.8	66	6	17	47	17	14	2.8 1.0
9	本学で最も深く学べた科目は何ですか	125	4	44	30	18	4		82	4	40	35	10	11		66	3	36	24	24	12	
10	教育実習の充実度	125	50	30	6	2	11	4.1 1.3	81	36	27	21	2	14	3.7 1.3	66	41	14	9	8	29	3.3 1.7
11	野外実習(スキー・水泳・キャンプなど)の充実度	125	30	25	7	2	35	3.1 1.7	83	20	19	10	2	48	2.6 1.7	66	27	14	6	9	44	2.7 1.7
12	ゼミでの学習の満足度	124	56	22	15	6	2	4.2 1.0	82	41	24	21	4	10	3.8 1.3	66	41	29	12	5	14	3.8 1.4
13	コースでの満足度	125	33	42	19	6	1	4.0 0.9	81	20	37	36	5	2	3.7 0.9	66	21	38	23	14	5	3.6 1.1
14	本学に大学院は必要だと思うか	125	18	24	30	14	14	3.2 1.3	81	15	16	33	14	22	2.9 1.3	66	9	14	24	27	26	2.5 1.3
15	学問分野の専門家として優れた教員が多いと思うか	120	19	52	18	10	1	3.8 0.9	81	14	31	36	19	1	3.4 1.0	62	8	42	18	27	5	3.2 1.1
16	教育や指導に熱意を持った教員が多いと思うか	119	16	40	27	16	1	3.5 1.0	81	11	33	31	23	1	3.3 1.0	61	8	36	30	20	7	3.2 1.1
17	本学に尊敬できる教員がいるか	118				75	25		81				70	30		62					73	27
18	本学になんでも相談できる教員がいるか	117				48	52		81				44	56		62					37	63
19	専門大学としての施設の充実度	124	6	30	19	31	14	2.8 1.2	82	4	17	35	32	12	2.7 1.0	65	5	9	17	29	40	2.1 1.2
22	部活動の施設・練習場所の満足度	87	16	26	20	17	21	3.0 1.4	52	13	21	33	23	10	3.1 1.2	48	13	8	21	35	23	2.5 1.3
23	図書館の満足度	112	36	35	20	5	4	3.9 1.1	69	23	36	35	4	1	3.8 0.9	60	20	35	27	17	2	3.6 1.0
24	健康管理センターのサポート満足度	122	20	34	37	7	2	3.6 1.0	82	13	26	50	10	1	3.4 0.9	63	17	22	37	16	8	3.3 1.2
25	キャリア支援のサポート満足度	122	19	43	24	8	6	3.6 1.1	81	12	28	42	12	5	3.3 1.0	65	18	26	22	22	12	3.2 1.3
26	学生食堂の満足度	122	9	27	23	21	20	2.8 1.3	81	6	10	37	26	21	2.5 1.1	65	9	11	18	23	38	2.3 1.3
27	事務局の窓口サービスの満足度	122	7	28	40	14	11	3.0 1.1	82	5	10	61	12	12	2.8 0.9	65	12	15	25	25	23	2.7 1.3
28	学則は適切だったか	125	8	29	48	13	2	3.3 0.9	84	7	11	69	13	0	3.1 0.7	66	3	12	39	29	17	2.6 1.0
29	私生活全般での友人関係の満足度	125	64	23	8	2	2	4.4 0.9	83	35	28	33	2	2	3.9 1.0	66	36	30	24	6	3	3.9 1.1
30	本学で一生きあえる友人に出会えたか	120				91	9		79				91	9		64					91	9
33	授業にどのくらい力を注いだか	123	23	40	23	8	7	3.6 1.1	83	13	30	43	8	5	3.4 1.0	66	11	18	42	20	9	3.0 1.1
34	部活動(学内・学外)にどのくらい力を注いだか	115	61	13	13	3	10	4.1 1.3	78	45	18	23	5	9	3.8 1.3	61	46	13	20	8	13	3.7 1.4
35	授業や部活動以外の活動にどのくらい力を注いだか	120	23	37	23	10	7	3.6 1.1	80	19	21	35	15	10	3.2 1.2	66	18	24	32	15	11	3.2 1.2
37	アルバイトにどのくらい力を注いだか	122	24	23	18	11	24	3.1 1.5	80	25	26	18	14	18	3.3 1.4	66	17	23	30	12	18	3.1 1.3
38	趣味にどのくらい力を注いだか	121	23	30	24	14	9	3.4 1.2	82	22	29	24	18	6	3.4 1.2	65	29	15	22	22	12	3.3 1.4
39	就職活動にどのくらい力を注いだか	122	21	28	23	15	13	3.3 1.3	82	17	17	38	12	16	3.1 1.3	66	12	17	30	18	23	2.8 1.3
40	ボランティア活動にどのくらい力を注いだか	122	9	16	16	14	45	2.3 1.4	82	6	11	22	21	40	2.2 1.2	66	6	5	23	18	48	2.0 1.2
41	クラブ(部・クラブ・サークル)活動所属	115	72	3	6	1	17		75	59	7	9	4	21		61	64	7	11	3	15	
42	専門技能や技術ほどの程度伸ばせたか。あるいは上達度	90	46	32	11	7	4	4.1 1.1	57	33	23	23	16	5	3.6 1.2	45	40	29	7	9	16	3.7 1.5
43	学内クラブに所属しなかったことをどう感じているか(途中退部含む)	33	39	15	39	6	0	3.9 1.0	30	23	20	50	7	0	3.6 0.9	22	36	18	18	14	14	3.5 1.4
44	クラブ活動は就職にどの程度影響すると思うか	112	48	28	12	11	2	4.1 1.1	72	36	32	18	4	3.9 1.1	59	47	17	20	14	2	3.9 1.2	
45	学生生活を通じての、自分自身の成長への満足度	120	28	44	22	5	1	3.9 0.9	82	13	46	33	4	4	3.6 0.9	65	18	32	26	12	11	3.4 1.2
48	自分の大人度を評価	120	3	10	48	31	8	2.7 0.9	79	4	11	51	25	9	2.8 0.9	65	2	22	34	26	17	2.6 1.0
49	学生生活で行動力・実行力が身いつたか	121	26	48	21	6	0	3.9 0.8	81	15	42	37	6	0	3.7 0.8	65	14	46	22	12	6	3.5 1.1
50	学生生活でコミュニケーション力が身いつたか	122	31	48	14	7	0	4.0 0.8	80	16	51	28	5	0	3.8 0.8	65	15	45	22	12	6	3.5 1.1
51	2020年東京五輪が決まり、進路や学習に変化はあったか	122	11	15	30	16	29	2.6 1.3	80	6	9	48	14	24	2.6 1.1	65	2	6	18	25	49	1.9 1.0
52	修得単位の評価は、平均でどの程度か	121		5	60	28	7	2.6 0.7	83		7	47	36	10	2.5 0.8	65		0	46	45	9	2.4 0.6
53	教員免許の取得状況	119			83	5	12		81			73	14	14		64			63	11	27	
55	就職内定状況	121	10	57	24	6	3		81	10	53	28	7	1		64	11	53	23	8	5	
56	卒業後の進路への納得度	113	44	29	17	8	2	4.1 1.0	81	36	32	25	6	1	4.0 1.0	64	30	20	25	19	6	3.5 1.3
60	キャリアデザインの授業は就職活動に役立ったか	122	6	30	29	24	12	2.9 1.1	80	10	16	33	30	11	2.8 1.1	65	6	15	25	25	29	2.4 1.2

(人)

(%)

(人)

(%)

(人)

(%)

#### 4-2. 入試区分別集計

大学の学生の入試区分による満足度の状況を比較するために、入試区分別に集計した結果について、まとめと考察を行った。回答数は、AO入試9月63名、各種推薦入試139名、AO入試12月19名、一般入試14名、センター試験18名、AO入試3月11名であった。とても満足5から、とても不満1までの5段階評定尺度の各段階別割合を各入試区分別に集計したものが表4-2-1である。まとめの中で、質問内容に対して5「81%～100%」と4「61%～80%」という回答を高満足度群、3「41%～60%」を中満足度群、2「21%～40%」と1「0%～20%」を低満足度群とした。なお、回答数については、一般入試、センター入試とAO3月は回答数が少ないため、回答結果は限定的にとらえる必要がある。

AO・推薦だけに限定した集計では、公募型67名、スポーツ型58名、指定校型58名別に集計したものが表4-2-2である。

#### 1) 大学入学時のわくわく感と卒業時の総合満足度

「入学時わくわく感」については、AO入試9月、各種推薦入試、一般入試では高満足度群は、5割を超えている。わくわく感の高い順に示すと、AO入試9月58%、以下、推薦入試、一般入試の順でいずれも50%台であった。低満足度群は、AO入試3月54%、センター入試44%、一般入試が35%であった。各種推薦入試はAO入試9月とともに期待感が高かったが(図4-2-1)、図4-2-2では、AO・推薦スポーツ型のみが低満足度が34%と高かった。また、他大学受験で失敗して、センター試験、AO入試3月を受けて入学した学生の期待度の低さも示された。一般入試については、期待の高い群と期待の低い群が混在していると言える。

卒業時の総合的満足度を「学生生活全般の満足度」(図4-2-3)で示した。高満足群は一般入試が57%と最も高く、AO入試9月、各種推薦入試が47%で、AO入試12月、AO入試3月も40%台であった。センター入試のみ34%と満足度が低かった。低

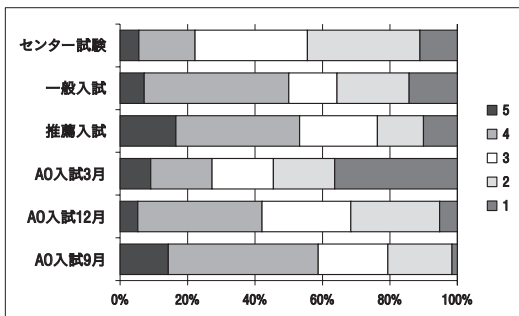


図4-2-1. 入試区分による「入学時わくわく度」割合

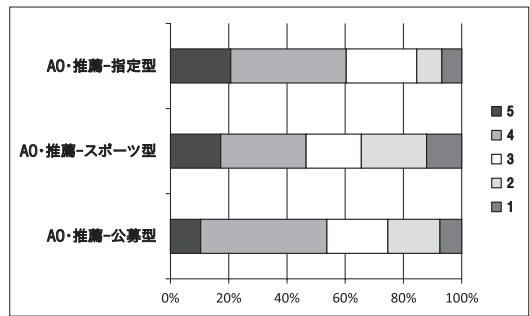


図4-2-2. AO・推薦での種別「入学時わくわく度」割合

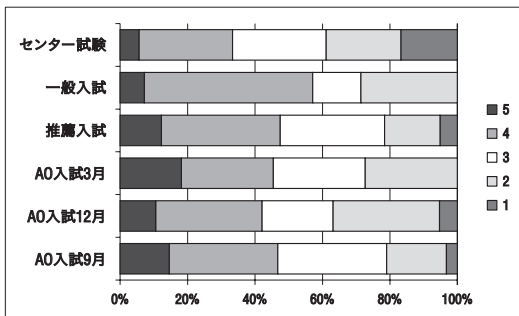


図4-2-3. 入試区分による「総合的な満足度」割合

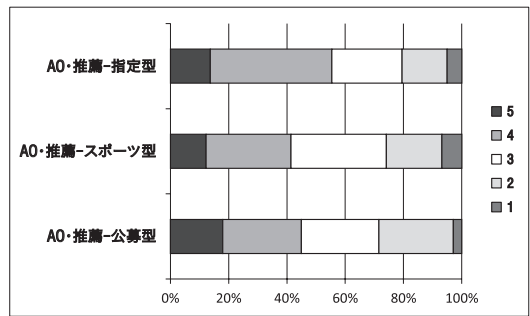


図4-2-4. AO・推薦での種別「総合的な満足度」割合

満足群は、センター試験39%、AO入試12月37%で数字が大きく、各種推薦入試22%、AO入試9月21%は満足度の低いものが少なかった。しかし、AOと推薦のうち、AO・推薦公募型は28%、AO・推薦スポーツ型は26%と一部満足度が低かった。

## 2) 本学を卒業することの誇りと建学の精神

「本学卒業生としての誇り」については、誇りの高い群は、AO3月54%、各種推薦53%、AO9月51%、一般入試・センター試験50%、AO12月47%、AO・推薦スポーツ型で43%と、スポーツ推薦が他の入試区分に比べて少し低い。入学時の期待の低かったAO入試3月、一般入試・センター試験の学生が、一定の誇りをもって卒業したと見ることができる。また、誇りの低い群は、AO9月10%、その他の入学方式も20%前後であったが、AO・推薦スポーツ型が26%ととくに誇りが持てなかったことが示された(図4-2-5、図4-2-6)。

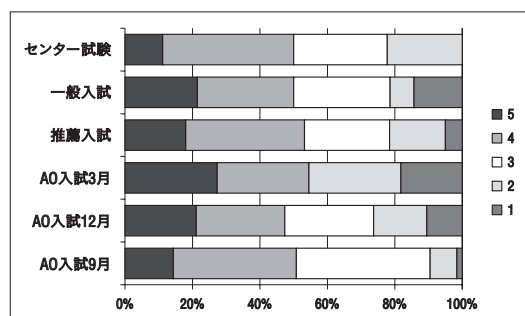


図4-2-5. 入試区分による「本学を卒業したことの誇り」割合

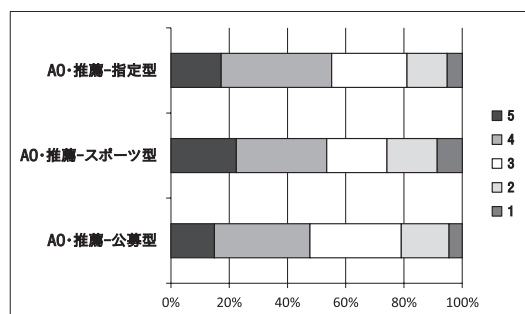


図4-2-6. AO・推薦での種別「本学を卒業したことの誇り」割合

## 3) 授業内容満足度

「大学の授業内容」については、いずれの区分でも、高満足度群が、低満足度群の2倍近くあった。高満足度群は、AO9月35%、各種推薦45%、一般入試43%、AO・推薦スポーツ型43%、AO3月36%である。低満足度群は、AO9月24%、一般入試29%、各種推薦18%、AO・推薦スポーツ型14%、AO3月9%である。AO9月、一般入試の満足度が低い。また、AO3月の満足度も低いように見えるが、不満度も低く、明確な回答をしていないように見える。

「専門的講義」については、AO9月以外は高満足度群が半数を超えており、低満足度群は、AO9月、センター試験、AO・推薦公募型以外は0%から11%と僅かであった。AO9月、センター試験は不満足群が20~22%と高かった。全体として、この項目の満足度については、比較的高いと考えてよい。

「専門的実技」については、高満足度群は、一般入試63%、センター入試72%、AO・推薦スポーツ型61%、各種推薦60~74%であり、この項目の満足度も、高いと考えてよいと思われる。

「一般教養」については、一般入試が高満足群と低満足群に二分された。総じて高満足群は30~40%で、専門講義・実技に比べると満足度が高くなかった。

「最も深く学べた内容」については、入試区分による差異はほとんどなかった。教職教養をあげたものが圧倒的に多く、専門的技能と専門的知識がほぼ拮抗し、僅かに専門的技能が上回っている区分が多かった。一般教養を上げたものはほんの少数であり、特にないという回答は一般入試、AO・推薦公募型、AO9月、AO3月が多かった。

「ゼミでの学習の満足度」については、どの入試区分でも6~7割が高満足度群で、満足度は全体に高いと言える。ただ、どの入試区分でも約1割の低満足度群がいた。

## 4) 教員について

「教員が専門に優れている」については、5割~6割近くが高満足度群である。AO・推薦公募型が

50%で最も少なく、センター入試、AO・推薦スポーツ型、AO・推薦指定校型が60%台であった。専門性において優秀な教員が多いと思う学生が半数を上回る程度で、各種推薦19%、一般入試27%、AO12月32%が低満足度群というのは、教員に対する信頼性という観点から看過できない数字である。

「教員の熱意」については、高満足度群はAO3月が多く、一般入試、AO9月がそれに次いだ。5割を超えているのは以上の区分で、各種推薦、AO・推薦スポーツ型は45%前後である。低満足度群は一般入試が多く、各種推薦、AO9月、AO・推薦スポーツ型は17%前後である。ゼロであったAO3月を除くと、各区分とも16%から25%の学生が低満足度群というのは、前項目と同様に憂慮すべきことである。

「尊敬できる教員」について、「いる」はすべての区分で60%から80%と高かった。とくにAO・推薦公募、AO・推薦スポーツ型は70%を超えていた。

「相談できる教員」について、「いる」という回答はいずれの区分も3~4割台でAO・推薦スポーツ型のみ「いる」が半数を超えていた。スポーツ推薦の学生は教員との関係が深いことが指摘できるだろう。

#### 5) 施設について

「専門大学としての施設の充実度」については、高満足度群が19~30%と少なく、充実していないと考える傾向が認められた。とくに「部活動の施設・場所の満足度」で、満足したものとしなかったものがAO・推薦スポーツ型で同じくらいであった。個別には「図書館の満足度」がどの区分も高満足度群が5~6割を超えた。図書館の利用者数が、徐々に増加しており、利用しての満足度と言えらるだろう。特に一般入試、センター入試が7割を超えているのが特徴的である。筆記試験による入試を経験している学生は、入学後も図書館を利用することが多いと推測され、利用度の高い学生にとっては、図書館は充実しており、満足度につながるということかもしれない。

#### 6) サポート体制

「キャリア支援のサポートの満足度」については、高満足度群が全体としてほぼ5割以上の回答である。

低満足度群が少なく、キャリア支援は、多くのものが支援を受けたと考えられる。

「事務局窓口の満足度」については、高満足度群と低満足度群とがそれぞれ2~3割おり、どちらともいえないという回答が多かった。

#### 7) 学生生活全般

「私生活での友人関係」については、すべての区分で高い満足度を示している。高満足度群はほぼ7割で、センター入試、一般入試がやや低く60%台であった。多くの学生が私生活での友人関係に豊かな収穫感を感じていることが分かる。

「生涯の友人との出会い」についても、すべての区分で高い満足度を示している。「出会えた」という回答は、AO9月、一般入試が一番低く79%、後の区分は80%を超え、100%の区分もあった。

「授業への熱心さ」については、一番力を注がなかったものが多かったのはセンター入試で20%、その他の区分は概ね授業へ熱心に力を注いでいた。「部活動への熱心さ」については、高満足度群は、どの区分も部活動への高い意識をもっていた。AO・推薦スポーツ型は、入学の経緯からいって当然の結果と言ってよい。低満足度群はセンター入試26%、一般入試28%、の順で多かった。一般入試、センター入試の区分に多いのは、大学の部活動で十分な自己実現が果たせなかった学生がいたということかもしれない。

「授業・部活動以外の活動」については、入試区分により、かなり明確な違いが表れた。高満足度群は、AO12月、AO3月63%が高かったが、他の入試区分では4~5割であった。AO・推薦スポーツ型も授業や部活動以外に多くの時間を割いていることが分かった。

「アルバイト」については、AO・推薦スポーツ型の学生は、高満足度群が28%、低満足度群が54%という結果となり、この区分だけ低満足度群が高満足度群を上回っていたのは、部活動が忙しくアルバイトをしている時間がないと考えられる。高満足度群は、AO推薦公募型66%、センター入試61%、AO推薦指定校型56%、一般入試54%、AO9月45%、

という順で多く、いずれも低満足度群を上回っていた。

### 8) クラブ活動について

「クラブ活動への所属」については(図4-2-7)、顕著な違いが見られた。まず、学内のクラブに卒業まで所属していたという回答⑤は、AO・推薦スポーツ型85%、各種推薦74%、AO3月73%、一般入試58%、AO9月55%、という結果であった。これは、おそらく入学時の部活動に対するモチベーションの高さとそれが失われなかったことに見合う数値であろう。これに対し、クラブ活動に所属しなかったという回答①は、センター入試39%、AO・推薦スポーツ型2%、一般入試25%、AO9月25%、各種推薦13%、AO3月18%という結果であった。AO3月が、所属者が多かったものの、所属しなかったものも多いという結果であった。また、活動を学外に求めた回答②③について見てみると、AO3月9%、AO9月11%、一般入試8%、各種推薦8%、AO・推薦スポーツ型5%という結果で、全体としては少数であるがAO入試の学生に活動を学外のクラブに求める学生が一定数いた。

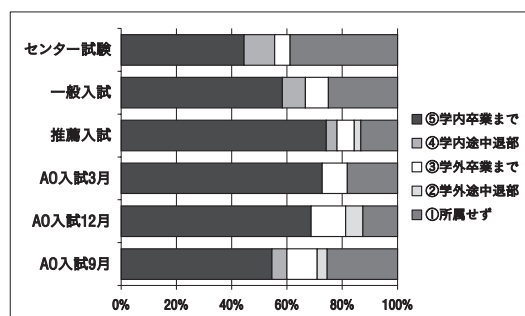


図4-2-7. 入試区分別クラブへの加入状況

### 9) 人間的な成長について

「自分の成長への満足度」については、すべての区分で高い満足度を示している。

「自分の大人度」については、入試区分による差は認められず、年齢相応という回答が多かった。

「行動力・実行力」についても入試区分による違いはなく、すべての区分で高満足度群が6割をこえていた。種々の推薦入試で肯定感が低かった以外は、

極めて達成感が強かった。

「コミュニケーション力」も、すべての区分で高満足度群が7割をこえていた。

### 10) 修得単位の自己評価

「評価平均」については、各区分で様相が若干異なった。多い割合順に並べてみると、AO9月は、可10%、良36%、優47%、秀7%。AO・推薦スポーツ型は、可5%、良45%、優47%、秀3%、各種推薦は、可7%、良38%、優51%、秀4%、一般入試は、可7%、良29%、優50%、秀14%、AO12月は、可0%、良37%、優58%、秀5%、センター入試は、良31%、優69%、AO3月は、良18%、優82%であった。AO3月の優82%が際立っており、センター入試の69%、一般入試秀優64%、AO12月秀優63%とこの四つの区分の学生は、概して好成績であると言えるようである(図4-2-8)。

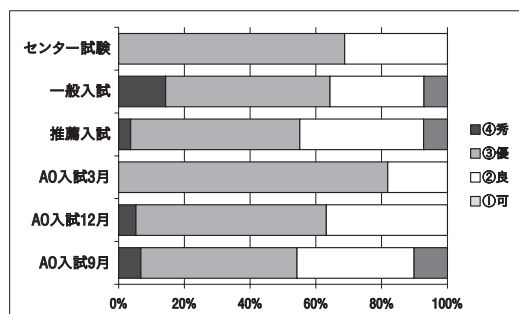


図4-2-8. 入試区分別「修得単位の自己評価」の割合

### 11) 卒業後の進路

「就職内定状況」については、各区分とも最も多いのは④正採用で、AO・推薦スポーツ型70%、AO9月48%、各種推薦59%、AO12月56%、一般入試50%、AO3月73%で、AO3月の内定率が大変高いことが分かる。⑤進学その他は、各種推薦7%、一般入試21%、AO9月15%、AO・推薦スポーツ型2%、AO3月ゼロで、各種推薦と一般入試に更なる資格取得等の勉学志向が2割ほどいた。③任期付き任用2年までは、一般入試14%、AO・推薦スポーツ型23%、各種推薦28%、AO9月23%、AO12月17%、AO3月18%で、④正採用と合わせた数値は、

AO・推薦スポーツ型93%，一般入試64%，各種推薦87%，AO9月71%，AO12月73%，AO3月91%であった。また、就職が決まっていない②①は、AO3月9%，AO9月13%，AO・推薦スポーツ型5%，各種推薦7%，一般入試14%で、AO9月、一般入試が少し高い割合を示している以外は、1割という状況である。「就職内定状況」については、入試区分に関係なく7割以上の内定となっている(図4-2-9)。

「就職の納得度」については、高満足度群は、AO・推薦スポーツ型69%，各種推薦65%，一般入試78%，AO9月60%，AO12月76%，AO3月54%で、「就職内定状況」に比べると低いが、それほど不本意な就職をしているわけではないようだ。低満足度群は、どの入試区分でも1から2割であり、一般入試、センター入試の不満足割合が1割にみえないことから、この二つの入試区分は十分な就職活動を実施して、就職に関する満足が高いと考えられる(図4-2-10)。

#### 12) 平成23年度と平成27年度の比較

「入学時のわくわく感」については、27年度はセンター入試、AO3月の満足度が低かった。希望の大学でなかったという学生が、23年よりも増えたと言えるだろう。そのまま「卒業時の総合的満足度」もセンター入試のみ34%と満足度が低かったが、人数が少ないので断定はできない。23年に比べてとくに公募型(AO・推薦)28%，スポーツ推薦(AO・推薦)26%と、より満足度が低かった。

「本学卒業生としての誇り」は、23年度に比べるとAO・推薦スポーツ型が43%と満足していないことが示された。近年のクラブ競技成績の低下が、スポーツ推薦の学生の満足度を低下させていると言えそうである。授業内容の満足度については、専門科目に関しては変化なく満足度は高く、一般教養は満足度が低かった。一般教養の内容が問題というより、全般的に一般教養への関心が低いのではないかと思われる。ゼミへの満足度は「高い」という状態に変化はなかった。

教員についての満足度にも変化なく、AO・推薦スポーツ型が満足度の高い傾向も変化なかった。

「専門大学としての施設の充実度」については、

高満足度群が19～30%と少なく、充実していないと考えていた。とくに「部活動の施設・場所の満足度」で、満足したものとしなかったものがAO・推薦スポーツ型でも同じくらいであった。個別には「図書館の満足度」がどの区分も高満足度群が5～6割を超えたのは23年と同様であった。

学生生活全般では、友人関係への満足が高いものの23年度に比較すると割合が減ったが、「生涯の友人との出会い」は変わらず高い満足度を示した。

「部活動への熱心さ」は、低満足度群はセンター入試26%，一般入試28%の順で多く、23年度よりもAO入試の不満足が減った。「授業・部活動以外の活動」について23年よりAO・推薦スポーツ型が授業や部活動以外に多くの時間を割いていたが、「アルバイト」への不満はAO・推薦スポーツ型に多いのは変化なかった。

「クラブ活動への所属」は、23年に比べるとAO・推薦スポーツ型の4年間加入が7%減り、他の入試方式では加入者が増えるという結果となった。とくにAO3月73%で他の型と違いはなくなり、一般入試がやや減った。クラブ活動に所属しなかったという回答①は、センター入試39%，一般入試25%，AO9月25%で増えた。

「人間的な成長」の満足度は両年度とも高く違いはなかった。

「修得単位の自己評価」もAO3月、センター入試、一般入試の高さに違いはなかった。

「卒業後の進路」は、この4年で経済状況が好転したことが明確となった。27年は2年以上の任期付きを含む正採用は、AO9月48%以外は50%を超え、AO3月は73%であった。就職の納得度はAO3月54%で「就職内定状況」に比べると低いが、それほど不本意な就職をしているわけではなく、23年に比べると納得度も高かった。

#### 13) まとめ

以上、各項目別の概況についてまとめたが、アンケート調査を項目ごとに分析してみても気づくことは、AO3月の回答が、「入学時わくわく感」が低かったのにもかかわらず、他の質問事項について概して

肯定的な回答の多いことであった。AO3月という、いわばラストチャンスで入学を決めた学生であったため、大学への期待感が低かったものの、クラブへの加入率が73%と、スポーツ推薦、各種推薦に次ぐ加入率の高さであった。「本学卒業生としての誇り」54%、「私生活での友人関係」82%、「授業・部活動以外の活動」63%、「アルバイト」の不満足0-20%が27%と低かった。また、「授業への熱心さ」は36%と少ないが、満足していないがゼロであり、「評価平均」については、AO3月の優82%が際立って多く、この区分の学生は、学業に関して好成績との認識が強く、他の活動への積極性も目立っていた。

AO入試区分について概括すると、「総合的な満足度」は他の入試に比べて低めであるが(低すぎるのではない)、「授業・部活動以外の活動」についてAO12月、AO3月63%と高く、「アルバイト」でも満足していた。他方、「部活動への熱心さ」でも高い満足を示し、満足しているグループと不満なグループが項目によって異なるのではないかと推測される。クラブ活動の所属が、50%を超えていることから、部活動でも活動的であることが示された。

AO・推薦スポーツ型は「本学を卒業することの誇り」で43%と他の入試区分に比べてやや低かった。「部活動への熱心さ」はどの入試型も熱心活動していたと回答していたので、誇りが低いのは競技成績の低迷が原因であるかもしれない。「アルバイト」についても、否定的な回答が54%(最多)で、スポーツ推薦だけ否定的な回答が肯定的な回答を上回っていた。修学単位の自己評価が他の入試に比べ低いが、就職の正式採用は70%と高かった。

一般入試は、「総合的な満足度」、「図書館の満足度」が高いが、「学生生活全般の満足度」がそれに比べると低かった。クラブ加入率が低いほうであり、「評価平均」については優50%と、AO3月、センター入試の次に好成績であるが、人数が少なく、あまり明確な特徴がなかった。

各種推薦は、人数が多いこともあり、平均的な本学の学生像を示していると言える。

表4-2-1. 入試区別集計

No	設問内容	大学_1期AO入試9月							大学_推薦入試						
		人数	5	4	3	2	1	Mean SD	人数	5	4	3	2	1	Mean SD
1	本学入学時のわくわく感	63	14	44	21	19	2	3.5 1.0	139	17	37	23	14	10	3.4 1.2
2	大学生生活全般(授業時間外を含む)の満足度	62	15	32	32	18	3	3.4 1.0	139	12	35	31	17	5	3.3 1.0
3	本学を卒業することの誇り	63	14	37	40	8	2	3.5 0.9	139	18	35	25	17	5	3.4 1.1
5	大学の授業内容の満足度	62	6	29	40	21	3	3.1 0.9	138	9	36	38	17	1	3.3 0.9
6	専門的講義授業の満足度	63	8	37	32	21	3	3.3 1.0	139	9	51	30	8	1	3.6 0.8
7	専門的実技授業の満足度	62	19	37	32	8	3	3.6 1.0	138	19	50	23	7	1	3.8 0.9
8	専門以外の科目(一般教養)の満足度	63	10	37	32	14	8	3.3 1.1	139	9	35	42	13	2	3.3 0.9
10	教育実習の充実度	62	42	26	10	2	21	3.7 1.5	137	43	26	10	4	16	3.8 1.4
12	ゼミでの学習の満足度	63	37	27	24	5	8	3.8 1.2	138	51	22	13	6	7	4.1 1.2
13	コースでの満足度	62	31	29	32	5	3	3.8 1.0	138	24	41	27	7	1	3.8 0.9
19	専門大学としての施設の充実度	61	7	33	16	26	18	2.8 1.2	137	6	18	28	31	18	2.6 1.1
22	部活動の施設・練習場所の満足度	40	15	18	30	20	18	2.9 1.3	103	14	23	23	25	15	3.0 1.3
23	図書館の満足度	58	31	26	29	9	5	3.7 1.1	118	26	40	26	5	3	3.8 1.0
29	私生活全般での友人関係の満足度	63	44	30	17	5	3	4.1 1.0	138	51	25	20	3	1	4.2 0.9
30	本学で一生つきあえる友人に出会えたか	63					90	10	129					93	7
33	授業にどのくらい力を注いだか	62	26	29	27	11	6	3.6 1.2	136	15	31	39	8	7	3.4 1.1
34	部活動(学内・学外)にどのくらい力を注いだか	55	47	16	16	5	15	3.8 1.5	130	55	18	15	5	8	4.1 1.3
35	授業や部活動以外の活動にどのくらい力を注いだか	62	32	24	19	18	6	3.6 1.3	130	18	28	32	12	10	3.3 1.2
37	アルバイトにどのくらい力を注いだか	60	33	27	20	7	13	3.6 1.4	135	18	19	23	16	24	2.9 1.4
38	趣味にどのくらい力を注いだか	62	35	34	15	11	5	3.8 1.2	135	18	23	30	18	11	3.2 1.2
39	就職活動にどのくらい力を注いだか	61	25	21	25	13	16	3.2 1.4	136	18	21	35	11	15	3.2 1.3
40	ボランティア活動にどのくらい力を注いだか	62	13	11	11	16	48	2.2 1.5	135	6	8	24	18	44	2.1 1.2
41	クラブ(部・クラブ・サークル)活動所属	55	55	5	11	4	25		128	74	4	6	2	13	
42	専門技能や技術ほどの程度伸ばせたか、あるいは上達度	36	31	42	8	14	6	3.8 1.2	106	42	29	14	7	8	3.9 1.2
43	学内クラブに所属しなかったことをどう感じているか(途中退部含む)	27	33	22	37	7	0	3.8 1.0	33	33	24	27	12	3	3.7 1.1
44	クラブ活動は就職にどの程度影響すると思うか	55	40	27	22	9	2	3.9 1.1	124	52	25	11	10	2	4.1 1.1
45	学生生活を通しての、自分自身の成長への満足度	60	18	38	28	12	3	3.6 1.0	136	24	40	29	4	4	3.8 1.0
52	修得単位の評価は、平均でどの程度か	59		7	47	36	10	2.5 0.8	138		4	51	38	7	2.5 0.7
53	教員免許の取得状況	57			72	4	25		136			73	13	15	
55	就職内定状況	60	15	48	23	7	7		136	7	59	28	5	1	
56	卒業後の進路への納得度	58	31	29	26	12	2	3.8 1.1	130	38	27	20	12	3	3.9 1.1

(人)

(%)

(人)

(%)

表4-2-2. AO・推薦に限定した入試区別の集計

No	設問内容	大学_AO・推薦-公募型							大学_AO・推薦-スポーツ型						
		人数	5	4	3	2	1	Mean SD	人数	5	4	3	2	1	Mean SD
1	本学入学時のわくわく感	67	10	43	21	18	7	3.3 1.1	58	17	29	19	22	12	3.2 1.3
2	大学生生活全般(授業時間外を含む)の満足度	67	18	27	27	25	3	3.3 1.1	58	12	29	33	19	7	3.2 1.1
3	本学を卒業することの誇り	67	15	33	31	16	4	3.4 1.1	58	22	31	21	17	9	3.4 1.2
5	大学の授業内容の満足度	66	9	26	44	18	3	3.2 0.9	58	3	40	43	12	2	3.3 0.8
6	専門的講義授業の満足度	67	10	37	33	15	4	3.3 1.0	58	5	45	45	5	0	3.5 0.7
7	専門的実技授業の満足度	67	30	33	28	4	4	3.8 1.1	58	14	47	33	7	0	3.7 0.8
8	専門以外の科目(一般教養)の満足度	67	9	30	37	15	9	3.1 1.1	58	3	34	53	9	0	3.3 0.7
10	教育実習の充実度	66	50	12	11	3	24	3.6 1.7	58	48	29	12	5	5	4.1 1.1
12	ゼミでの学習の満足度	66	52	20	18	3	8	4.0 1.2	58	47	28	16	3	7	4.0 1.2
13	コースでの満足度	66	36	35	23	2	5	4.0 1.0	58	24	45	24	5	2	3.8 0.9
19	専門大学としての施設の充実度	67	4	24	16	25	30	2.5 1.3	58	5	14	28	31	22	2.5 1.1
22	部活動の施設・練習場所の満足度	46	15	24	20	20	22	2.9 1.4	47	19	17	23	30	11	3.0 1.3
23	図書館の満足度	61	36	26	28	8	2	3.9 1.0	49	31	41	20	6	2	3.9 1.0
29	私生活全般での友人関係の満足度	67	55	21	18	3	3	4.2 1.0	58	47	29	21	2	2	4.2 0.9
30	本学で一生つきあえる友人に出会えたか	66					91	9	54					91	9
33	授業にどのくらい力を注いだか	67	22	31	36	9	1	3.6 1.0	56	18	32	36	11	4	3.5 1.0
34	部活動(学内・学外)にどのくらい力を注いだか	61	59	15	13	5	8	4.1 1.3	55	60	18	15	4	4	4.3 1.1
35	授業や部活動以外の活動にどのくらい力を注いだか	67	28	25	30	12	4	3.6 1.1	55	15	36	24	9	16	3.2 1.3
37	アルバイトにどのくらい力を注いだか	66	29	27	24	5	15	3.5 1.4	55	5	22	18	16	38	2.4 1.3
38	趣味にどのくらい力を注いだか	67	31	30	24	7	7	3.7 1.2	55	11	27	29	18	15	3.0 1.2
39	就職活動にどのくらい力を注いだか	67	16	25	25	18	15	3.1 1.3	56	18	18	36	5	23	3.0 1.4
40	ボランティア活動にどのくらい力を注いだか	67	10	4	18	16	51	2.1 1.3	56	4	7	21	11	57	1.9 1.2
41	クラブ(部・クラブ・サークル)活動所属	61	61	3	13	2	21		55	85	7	2	4	2	
42	専門技能や技術ほどの程度伸ばせたか、あるいは上達度	43	30	40	16	9	5	3.8 1.1	50	52	24	10	4	10	4.0 1.3
43	学内クラブに所属しなかったことをどう感じているか(途中退部含む)	25	28	16	48	8	0	3.6 1.0	7	29	43	14	10	0	3.9 1.0
44	クラブ活動は就職にどの程度影響すると思うか	62	42	24	23	10	2	4.0 1.1	54	59	19	7	11	4	4.2 1.2
45	学生生活を通しての、自分自身の成長への満足度	66	20	41	27	11	2	3.7 1.0	58	31	34	29	2	3	3.9 1.0
52	修得単位の評価は、平均でどの程度か	64		3	55	36	6	2.5 0.7	58		3	47	45	5	2.5 0.6
53	教員免許の取得状況	63			67	11	22		58			83	12	5	
55	就職内定状況	65	11	46	28	8	8		56	2	70	23	4	2	
56	卒業後の進路への納得度	62	34	21	31	13	2	3.7 1.1	55	40	29	13	15	4	3.9 1.2

(人)

(%)

(人)

(%)



大学\_II期AO入試12月

人数	5	4	3	2	1	Mean	SD
19	5	37	26	26	5	3.1	1.0
19	11	32	21	32	5	3.1	1.1
19	21	26	26	16	11	3.3	1.3
19	11	11	42	32	5	2.9	1.0
19	11	21	58	5	5	3.3	0.9
19	21	32	32	11	5	3.5	1.1
19	5	21	58	11	5	3.1	0.9
19	42	42	5	0	11	4.1	1.2
18	33	56	6	6	0	4.2	0.8
19	21	58	16	5	0	3.9	0.8
19	0	21	5	32	42	2.1	1.1
10	0	20	20	40	20	2.4	1.0
14	29	36	7	29	0	3.6	1.2
19	53	26	11	5	5	4.2	1.1
19				79	21		
19	21	26	32	16	5	3.4	1.1
17	59	12	24	0	6	4.2	1.1
19	21	42	32	5	0	3.8	0.8
19	32	21	21	11	16	3.4	1.4
19	26	32	21	21	0	3.6	1.1
19	16	26	21	16	21	3.0	1.4
19	11	16	21	5	47	2.4	1.5
16	69	0	13	6	13		
12	42	17	17	25	0	3.8	1.2
6	67	0	17	0	17	4.0	1.5
16	38	31	19	13	0	3.9	1.0
19	16	47	21	11	5	3.6	1.0
19		5	58	37	0	2.7	0.6
18			89	0	11		
18	17	56	17	11	0		
17	41	35	18	6	0	4.1	0.9

(人)

(%)

大学\_一般入試

人数	5	4	3	2	1	Mean	SD
14	7	43	14	21	14	3.1	1.2
14	7	50	14	29	0	3.4	1.0
14	21	29	29	7	14	3.4	1.3
14	0	43	29	29	0	3.1	0.8
14	21	36	43	0	0	3.8	0.8
14	21	50	29	0	0	3.9	0.7
14	0	36	21	43	0	2.9	0.9
14	29	36	21	7	7	3.7	1.2
14	43	21	21	0	14	3.8	1.4
14	29	43	7	21	0	3.8	1.1
14	14	7	29	43	7	2.8	1.1
8	0	38	25	13	25	2.8	1.2
13	23	46	31	0	0	3.9	0.7
14	36	36	21	7	0	4.0	0.9
14				79	21		
14	7	29	43	21	0	3.2	0.9
14	43	7	21	14	14	3.5	1.5
14	0	36	43	14	7	3.1	0.9
14	21	29	14	21	14	3.2	1.4
14	29	14	36	7	14	3.4	1.3
14	14	7	21	29	29	2.5	1.3
14	14	14	14	14	43	2.4	1.5
12	58	8	8	0	25		
8	63	0	0	13	25	3.6	1.8
5	40	0	60	0	0	3.8	1.0
12	17	25	25	33	0	3.3	1.1
13	8	69	15	8	0	3.8	0.7
14		14	50	29	7	2.7	0.8
14			79	7	14		
14	21	50	14	14	0		
14	57	21	14	7	0	4.3	1.0

(人)

(%)

大学\_センター試験入試

人数	5	4	3	2	1	Mean	SD
18	6	17	33	33	11	2.7	1.0
18	6	28	28	22	17	2.8	1.2
18	11	39	28	22	0	3.4	1.0
18	6	44	28	22	0	3.3	0.9
18	11	44	22	17	6	3.4	1.1
18	22	50	11	17	0	3.8	1.0
18	6	33	39	11	11	3.1	1.0
18	50	22	17	6	6	4.1	1.2
18	50	22	17	6	6	4.1	1.2
18	28	39	22	6	6	3.8	1.1
18	0	22	33	33	11	2.7	0.9
9	22	0	22	33	22	2.7	1.4
17	29	47	6	18	0	3.9	1.0
18	44	17	22	0	17	3.7	1.4
17				88	12		
18	11	50	22	11	6	3.5	1.0
15	33	0	40	13	13	3.3	1.4
18	11	28	28	22	11	3.1	1.2
18	22	39	22	11	6	3.6	1.1
17	24	29	12	29	6	3.4	1.3
18	17	28	22	28	6	3.2	1.2
18	0	28	17	28	28	2.4	1.2
18	44	11	6	0	39		
9	33	33	11	11	11	3.7	1.3
8	13	13	63	13	0	3.3	0.8
14	29	43	14	0	14	3.7	1.3
16	25	50	13	0	13	3.8	1.2
16		0	69	31	0	2.7	0.5
16			94	0	6		
16	6	56	25	13	0		
16	38	31	25	0	6	3.9	1.1

(人)

(%)

大学\_III期AO入試3月

人数	5	4	3	2	1	Mean	SD
11	9	18	18	18	36	2.5	1.4
11	18	27	27	27	0	3.4	1.1
11	27	27	0	27	18	3.2	1.5
11	0	36	55	9	0	3.3	0.6
11	0	64	27	0	9	3.5	0.9
11	36	27	27	0	9	3.8	1.2
11	9	27	36	18	9	3.1	1.1
11	73	0	9	0	18	4.1	1.6
11	73	0	18	0	9	4.3	1.3
11	36	36	9	9	9	3.8	1.3
11	0	27	18	36	18	2.5	1.1
9	44	11	11	11	22	3.4	1.6
11	55	9	27	9	0	4.1	1.1
11	73	9	18	0	0	4.5	0.8
11				100	0		
11	9	55	27	9	0	3.6	0.8
11	82	9	0	0	9	4.5	1.2
11	27	36	27	0	9	3.7	1.1
11	9	45	18	0	27	3.1	1.4
10	10	40	10	20	20	3.0	1.3
11	0	36	36	27	0	3.1	0.8
11	0	18	9	18	55	1.9	1.2
11	73	0	9	0	18		
10	20	40	20	10	10	3.5	1.2
2	0	0	100	0	0	3.0	0.0
11	55	9	27	9	0	4.1	1.1
11	36	27	18	18	0	3.8	1.1
11		0	82	18	0	2.8	0.4
11			82	9	9		
11	0	73	18	0	9		
11	45	9	27	9	9	3.7	1.4

(人)

(%)

大学\_A0・推薦・指定型

人数	5	4	3	2	1	Mean	SD
58	21	40	24	9	7	3.6	1.1
58	14	41	24	16	5	3.4	1.1
58	17	38	26	14	5	3.5	1.1
58	9	36	31	22	2	3.3	1.0
58	10	59	17	10	3	3.6	0.9
57	14	60	14	9	4	3.7	0.9
58	10	36	33	16	5	3.3	1.0
57	37	26	9	4	25	3.5	1.6
58	50	22	12	7	9	4.0	1.3
58	22	41	26	9	2	3.7	1.0
56	2	23	27	36	13	2.7	1.0
38	8	24	21	29	18	2.7	1.2
52	23	42	23	10	2	3.8	1.0
58	52	28	14	5	2	4.2	1.0
55				91	9		
57	14	32	35	11	9	3.3	1.1
52	54	17	13	6	10	4.0	1.3
55	22	22	38	11	7	3.4	1.2
57	25	23	21	14	18	3.2	1.4
57	25	26	26	16	7	3.5	1.2
57	25	28	30	9	9	3.5	1.2
56	7	14	18	21	39	2.3	1.3
51	67	2	8	2	22		
39	36	38	10	10	5	3.9	1.2
16	50	25	13	6	6	4.1	1.2
49	41	31	14	12	2	4.0	1.1
56	23	45	21	7	4	3.8	1.0
57		2	56	32	11	2.5	0.7
56			64	7	29		
57	9	53	32	5	2		
54	35	33	22	6	4	3.9	1.1

(人)

(%)

### 4-3. コース別集計

体育学部のコースごとの有効回答人数は、専門技能・指導力向上コース(以下Aコース):36名(13%)、教師力強化コース(以下Bコース):135名(49%)、地域スポーツコース(以下Cコース):61名(22%)、野外スポーツコース(以下Dコース):17名(6%)、ダンス・表現コース(以下Eコース):6名(2%)、健康スポーツ科学コース(以下Fコース):21名(8%)であった(パーセントはコース別母数に対してではなく、有効回答数内割合)。

6つのコースごとの単純集計を表4-3-2(本項末頁)に示した。なお、Eコースの有効回答数が少なかったため、以降の考察において断りなく除外した部分がある。

#### 1) 大学入学時のわくわく感と卒業時の総合満足度

コースごとの「大学入学時のわくわく感」と「卒業時の総合満足度」(図4-3-1、4-3-2)の平均値は、Aコース:3.3と3.2ポイント、Bコース:3.2と3.4ポイント、Cコース:3.4と3.3ポイント、Dコース:2.9と3.1ポイント、Eコース:3.7と2.8ポイント、Fコース:3.4と3.0ポイントであった。Eコース(ダンス・表現)では、入学時の「わくわく感」は最も高かったものの、卒業時の「満足度」は最も低い結果であった。ただし、有効回答数が6名と少なく、その原因を探ることは難しい。

評価を4または5とした高満足度者の割合の変化では、A、BおよびCコースでは、「入学時のわくわく感」・「卒業時の総合満足度」とも50%弱で大きな変化はなかった。Dコース(野外スポーツ)では、35%から41%へとやや増加した。一方、Eコース(ダンス・表現)では67%から17%へ、Fコース(健康スポーツ科学)では57%から33%へと大きく減少し、評価を1または2とした低満足度者の割合は、ともに20%弱から33%へと増加した。

本学受験段階の「卒業後の希望進路」は、エントリーシートや面談(AO入試)、あるいは面接(推薦入試)から、教員志望者が圧倒的に多い。またスポーツ推薦では、自身の競技力向上を目指して入学しており、Aコース(専門技能・指導力向上)やBコース(教師力強化)が本学の中核となるコースである。これら

のコースの学生の、「入学時わくわく感」と「卒業時満足度」の比較に差がみられなかったことは、入学時の期待・目標通りに4年間を過ごした学生は、知識や技能の修得あるいは資格の取得が期待値通りであったと考えることができよう。

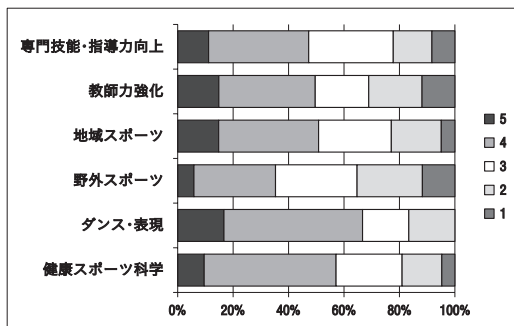


図4-3-1. コース別にみた入学時の「わくわく度」割合

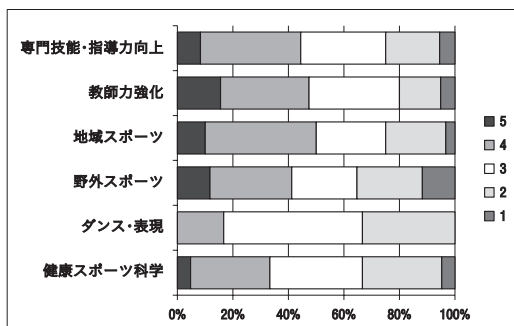


図4-3-2. コース別にみた卒業時の「総合満足度」割合

#### 2) 本学を卒業することの誇りと建学の精神

大学全体の「本学を卒業することの誇り」は、3.4ポイントであった。コース別にみると、Aコース(専門技能・指導力向上)が最も高く4.0ポイント、Dコース(野外スポーツ)が最も低く2.9ポイントであった。Aコースは、卒業まで部活動を継続した学生が92%であり(大学全体66%)、本学の代表として対外試合を戦った等の経験が、「誇り」を高めたと考えられる。一方、Dコースでは部活動継続者が44%と少なく、また、修得単位の平均値が2.1ポイントと低かった(大学全体2.5ポイント)。そこで、コース振り分け以前の1・2年次に多く履修する「一般教養」の満足度をみてもみると、Aコース:3.5ポイント、Bコース:3.3ポイント、Cコース:3.2ポイント、Dコース:2.8ポイ

ント、Eコース:3.0ポイント、Fコース:3.1ポイントであり、やはりDコースで低かった。つまり、Dコースには、コース選択段階(大学2年次11月)ですでに学内に「やりがい」を見出すことができず、学外(野外)にそれを見出そうとした学生が多く集まった結果、本学への帰属意識が薄く、「誇り」を感じるには至らないまま卒業したものと考えられる。

「建学の精神や藤村トヨの教育」への理解は、全体平均3.0ポイントに対し、コース別では2.7~3.2ポイントであった。Aコース(専門技能・指導力向上:3.2ポイント)やEコース(ダンス・表現:3.2ポイント)で高く、Cコース(地域スポーツ:2.7ポイント)とFコース(健康スポーツ科学:2.8ポイント)で低かった。大学1年次に開講される「藤村トヨの教育」は、建学の精神を伝える必修科目であり、3年次に選択するコースに関連しないため、このような差が生じた理由は不明である。

### 3) 授業内容満足度・専門講義満足度・専門実技満足度

それぞれのコースの違いは、大学3年時からの選択必修科目にある。授業内容全般の満足度・専門講義満足度・専門実技満足度(図4-3-3~4-3-5)の平均値は順に、下記の通りであった。

- Aコース:3.2・3.5・3.7ポイント、
- Bコース:3.4・3.6・3.8ポイント、
- Cコース:3.2・3.4・3.7ポイント、
- Dコース:3.1・3.1・3.8ポイント、
- Eコース:3.2・3.2・3.7ポイント、
- Fコース:2.6・3.1・3.3ポイント

総じて、「専門実技満足度」が高い傾向にあり、またここでも、Bコース(教師力強化)のポイントが高い傾向にあった。一方、Fコース(健康スポーツ科学)の授業内容全般の満足度・専門実技満足度はかなり低い傾向にあった。なお、コース内での必要単位数は、専門講義3科目6単位、専門実技1~4科目4単位の計10単位で、卒業に必要な124単位に対し8%でしかない。また、コース外科目も履修可能として

いる。さらには、アンケートでの設問は、コース内の授業のみでなく大学1年時からのすべての授業を含めて満足度を調査している。このため、コースごとの特徴が「授業内容満足度」にどの程度反映されたかは不明である。しかし、入学から4年間を経た調査では、より最近の印象が評価に現れやすい。Fコースの実技(演習)が他のコースと異なり、ダンス・スポーツなどの身体運動ではなく、体力測定・評価やリハビリテーション演習が中心となっていることが影響したとも考えられる。

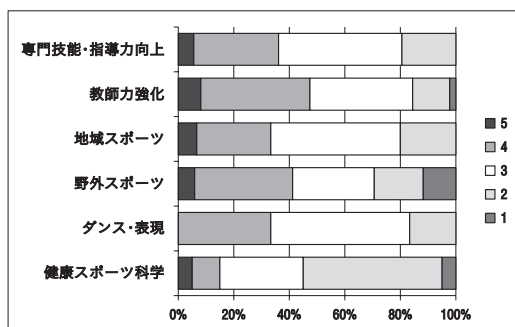


図4-3-3. コース別にみた授業内容全般の満足度割合

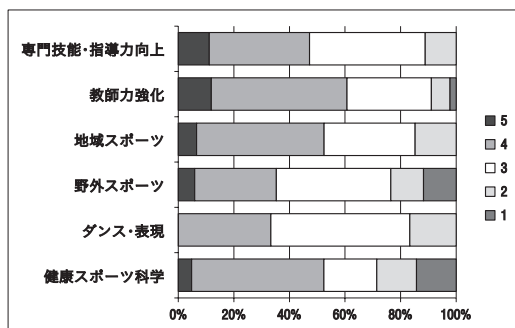


図4-3-4. コース別にみた専門講義の満足度割合

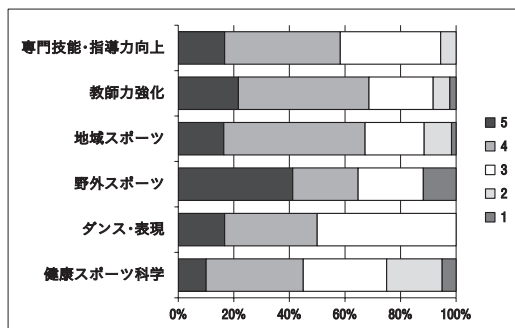


図4-3-5. コース別にみた専門実技の満足度割合

4) コース満足度

「コース満足度」は平均値で3.8ポイントであり、個々には、Aコース:4.0ポイント、Bコース:3.8ポイント、Cコース:3.4ポイント、Dコース:4.6ポイント、Eコース:4.0ポイント、Fコース:3.7ポイントであった。また、評価を4または5とした高満足度者の割合は、Cコース(地域スポーツ)を除いて6割を越えていた。そして、評価を1または2とした低満足度者の割合は、Cコースを含めて2割未満であった。すなわち、いずれのコースにおいても、コース自体の満足度は比較的高かったといえる。

Dコース(野外スポーツ)のコース満足度は、授業内容全般や専門講義満足度の結果(両者とも3.1ポイント)に反して、極めて高い結果であった。このコースでは、「野外実習(スキー、水泳、キャンプなど)の充実度」が4.6ポイントと高く(他のコースは2.2から3.2ポイント)、レジャー的要素の高いアウトドアスポーツへの参加がこの結果を導いたものと考えられる。

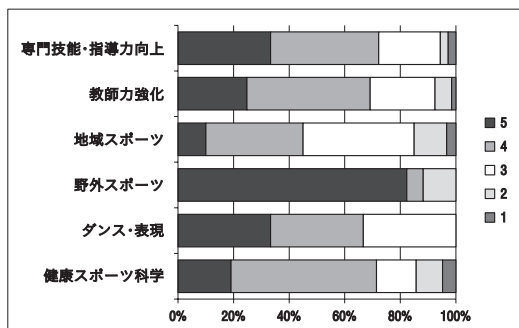


図4-3-6. コース別にみた「コース満足度」割合

5) 教員について

「優れた教員が多いと思うか」という設問に対しては、Aコース:3.6ポイント、Bコース:3.5ポイント、

Cコース:3.5ポイント、Dコース:3.7ポイント、Eコース:3.7ポイント、Fコース:3.1ポイントであった。Fコースのみが0.5ポイント程度低いこの結果は、「熱意を持った教員が多いと思うか」の設問とも同じ傾向であったとともに、前述の「授業内容全般の満足度」と「専門実技満足度」とも同じ傾向にあった。この考察については、次節で触れる。

6) 修得単位の評価

「修得単位の評価(4:秀, 3:優, 2:良, 1:可, 自己申告)」の平均値は、Aコース:2.4ポイント、Bコース:2.6ポイント、Cコース:2.4ポイント、Dコース:2.1ポイント、Eコース:2.7ポイント、Fコース:2.9ポイントであった。Fコース(健康スポーツ科学)については、卒業時の満足度や授業内容の満足度が低かった割に、成績自己評価は高い傾向にあった。このことは、Fコースには比較的成績が優秀な、あるいは勉学意欲の高い学生が集まったものの、授業内容が学生の要求水準に合わなかった(難易度が低かった、あるいは高かった)のかも知れない。Dコースが低かったことについては、2) 参照。

7) 教員免許状や各種資格の取得状況

表4-3-1に、各コースの資格取得状況を示した。AコースからDコースまでは教員免許状の取得が70%以上と高いのに対して、Fコース(健康スポーツ科学)では35%と低かった、一方、Fコースでは健康運動実践指導者やジュニアスポーツ指導員・スポーツプログラマーの資格取得者が、他のコースより多い傾向にあった。また、Cコース(地域スポーツ)では障害者初級スポーツ指導員、Dコース(野外スポーツ)では日赤救急法救急士の資格取得が多い傾

表4-3-1. コース別にみた主な資格の取得状況

資格名	専門技能・指導力向上	教師力強化	地域スポーツ	野外スポーツ	健康スポーツ科学
高等学校教諭保健体育一種免許	81	79	73	71	35
健康運動実践指導者	0	3	4	14	35
障害者初級スポーツ指導員	19	18	35	7	12
ジュニアスポーツ指導員	10	10	17	14	24
スポーツプログラマー	6	3	2	0	24
日赤救急法救急士	0	15	17	29	12
スポーツリーダー	6	3	17	7	6

向にあり、コースごとの特徴が現れていると言える。

#### 8) 平成23年度と平成27年度の比較

平成23年度卒業生の授業カリキュラムは、平成12年度入学生から適用され、その後複数回の小改定を経たものである。一方、平成27年度卒業生のカリキュラムは、入学年度である平成24年度に大きく改定されたものである。コースに関しては、名称変更と分割・統合、および授業新設がなされた。

以下に、改定前後のコースの関連性と、卒業時の「総合満足度」の平均値を示す。

平成23年度卒業生		平成27年度卒業生
競技スポーツ	(3.7) →	専門技能・指導力向上 (3.2)
教育活動	(3.5) →	教師力強化 (3.4)
健康・体力づくり	(3.5) →	健康スポーツ科学 (3.0)
		地域スポーツ (3.3)
機能回復	(3.7) →	健康スポーツ科学 (3.0)
レジャー・ニュースポーツ	(3.6) →	野外スポーツ (3.1)
芸術的表現	(3.4) →	ダンス・表現 (2.8)

平成27年度卒業生の「総合満足度」の評価は、教師力強化コース以外は総じて0.6ポイント前後低下した。なお、平成27年度卒業生の、「総合満足度」の全体平均値3.3ポイントに対し「コース満足度」は3.8ポイントと0.5ポイント高い結果であった。このため、各コースの「総合満足度」が低下した理由は、コースの内容以外にあると考えられる。なお、前回の調査では「コースでの満足度」を調査していないため、比較はできない。

#### 13) コース別集計まとめ

コースごとの「大学入学時のわくわく感」と「卒業時の総合満足度」では、「わくわく感」、「満足度」いずれも3ポイント前半の値であった(Eコースについては母数が少なく割愛)。評価を4または5とした高満足度者の割合の変化では、A、BおよびCコースでは、「入学時のわくわく感」・「卒業時の総合満足度」とも50%弱で大きな変化はなかった。一方、Eコース

(ダンス・表現)では67%から17%へ、Fコース(健康スポーツ科学)では57%から33%へと大きく減少した。本学受験段階での「卒業後の希望進路」は、教員が圧倒的に多く、また、自身の競技力向上を目指して入学する学生も多い。これに関連するAコース(専門技能・指導力向上)やBコース(教師力強化)に進んだ学生の、「入学時わくわく感」と「卒業時満足度」の比較に差がみられなかったことは、入学時の目的・目標通りに4年間を過ごした学生は、技能や知識の修得あるいは資格の取得が期待値通りであったといえる。

「本学を卒業することの誇り」をコース別にみると、Aコース(専門技能・指導力向上)が最も高く4.0ポイント、Dコース(野外スポーツ)が最も低く2.9ポイントであった。また、Aコースでは卒業まで部活動を継続した学生が92%あり、Dコースでは部活動継続者が44%と少なかった。本学の代表として対外試合を戦った等の経験が、「誇り」に繋がるものと考えられる。また、Dコースの成績自己評価は低く、コース選択段階ですでに学内に「やりがいい」を見出すことができず、学外(野外)にそれを見出そうとした学生が多く集まった結果と考えられる。

コースごとの、授業内容全般の満足度・専門講義満足度・専門実技満足度の平均値では、総じて、「専門実技満足度」が高い傾向にあり、特にBコース(教師力強化)のポイントが高い傾向にあった。一方、Fコース(健康スポーツ科学)の授業内容全般の満足度・専門実技満足度はかなり低い傾向にあった。Fコースの実技(演習)が他のコースと異なり、ダンス・スポーツなどの身体運動ではなく、体力測定・評価やりハビリテーション演習が中心となっていることが影響したとも考えられる。また、「優れた教員が多いと思うか」という設問においても、Fコースのみが0.5ポイント程度低い結果であった。しかし、修得単位の評価の平均値は、Fコースが最も高かった。このことは、Fコースには比較的勉学意欲の高い学生が集まったものの、授業内容が学生の要求水準に合わなかったのかも知れない。

各コースの資格取得状況(教員免許状、健康運動実践指導者、ジュニアスポーツ指導員、スポー

ツプログラマー、障害者初級スポーツ指導員、日赤救急法救急士、等)では、コースごとの特徴が現れていた。

平成23年度卒業生と平成27年度卒業生の比較では、平成27年度卒業生の「総合満足度」の評価が、教師力強化コース以外は総じて0.6ポイント前後低下した。なお、平成27年度卒業生の、「総合満足度」の全体平均値3.3ポイントに対し「コースでの満足度」は3.8ポイントと0.5ポイント高い結果であった。このため、各コースの総合満足度が低下した理由は、コース内容以外にあると考えられる。

表4-3-2. コース別集計

No	設問内容	専門技能・指導力向上							教師力強化								
		人数	5	4	3	2	1	Mean	SD	人数	5	4	3	2	1	Mean	SD
1	本学入学時のわくわく感	36	11	36	31	14	8	3.3	1.1	135	15	35	19	19	12	3.2	1.2
2	大学生生活全般(授業時間外を含む)の満足度	36	8	36	31	19	6	3.2	1.0	135	16	32	33	15	5	3.4	1.1
3	本学を卒業することの誇り	36	36	36	17	11	0	4.0	1.0	135	19	34	27	16	5	3.5	1.1
5	大学の授業内容の満足度	36	6	31	44	19	0	3.2	0.8	135	8	39	37	13	2	3.4	0.9
6	専門的講義授業の満足度	36	11	36	42	11	0	3.5	0.8	135	12	49	30	7	2	3.6	0.9
7	専門的実技授業の満足度	36	17	42	36	6	0	3.7	0.8	134	22	47	23	6	2	3.8	0.9
8	専門以外の科目(一般教養)の満足度	36	11	31	56	3	0	3.5	0.7	135	10	36	36	16	3	3.3	1.0
9	本学で最も深く学べた科目は何ですか	36	6	33	36	19	6			134	5	53	26	11	4		
10	教育実習の充実度	36	39	33	14	6	8	3.9	1.2	133	58	28	8	4	3	4.3	1.0
11	野外実習(スキー・水泳・キャンプなど)の充実度	36	17	14	6	3	61	2.2	1.6	134	21	22	10	4	43	2.7	1.7
12	ゼミでの学習の満足度	36	47	31	14	0	8	4.1	1.2	134	46	24	16	7	7	4.0	1.2
13	コースでの満足度	36	33	39	22	3	3	4.0	1.0	133	25	44	23	6	2	3.8	0.9
14	本学に大学院は必要だと思うか	36	22	25	28	14	11	3.3	1.3	133	17	20	29	17	18	3.0	1.3
15	学問分野の専門家として優れた教員が多いと思うか	32	19	38	31	13	0	3.6	0.9	132	17	36	30	15	2	3.5	1.0
16	教育や指導に熱意を持った教員が多いと思うか	32	13	44	28	16	0	3.5	0.9	131	15	37	27	19	2	3.5	1.0
17	本学に尊敬できる教員がいるか	31					84	16		131					73	27	
18	本学になんでも相談できる教員がいるか	32					47	53		129					47	53	
19	専門大学としての施設の充実度	36	6	22	17	33	22	2.6	1.2	133	8	24	24	25	20	2.8	1.2
23	図書館の満足度	33	21	36	33	6	3	3.7	1.0	114	32	36	18	10	4	3.8	1.1
25	キャリア支援のサポート満足度	36	8	36	36	19	0	3.3	0.9	128	17	38	27	10	9	3.4	1.1
33	授業にどのくらい力を注いだか	36	14	19	36	22	8	3.1	1.1	133	20	37	33	7	3	3.6	1.0
34	部活動(学内・学外)にどのくらい力を注いだか	36	75	8	14	3	0	4.6	0.8	127	59	13	13	4	10	4.1	1.3
35	授業や部活動以外の活動にどのくらい力を注いだか	35	9	31	31	3	26	2.9	1.3	132	20	28	31	12	9	3.4	1.2
37	アルバイトにどのくらい力を注いだか	35	9	11	17	14	49	2.2	1.4	131	20	25	20	13	22	3.1	1.4
38	趣味にどのくらい力を注いだか	35	11	20	34	23	11	3.0	1.2	131	21	24	24	21	11	3.2	1.3
39	就職活動にどのくらい力を注いだか	35	6	20	40	11	23	2.7	1.2	133	21	17	29	15	17	3.1	1.4
40	ボランティア活動にどのくらい力を注いだか	35	0	9	29	11	51	1.9	1.1	132	11	14	19	16	40	2.4	1.4
41	クラブ(部・クラブ・サークル)活動所属	36	92	6	3	0	0			120	78	4	2	3	13		
42	専門技能や技術はどの程度伸ばせたか、あるいは上達度	34	62	21	9	6	3	4.3	1.0	100	43	33	12	5	7	4.0	1.2
43	学内クラブに所属しなかったことをどう感じているか(途中退部含む)	5	60	20	20	0	0	4.4	0.8	31	35	16	35	13	0	3.7	1.1
44	クラブ活動は就職にどの程度影響すると思うか	34	74	15	6	3	3	4.5	0.9	120	47	29	12	10	3	4.1	1.1
45	学生生活を通しての、自分自身の成長への満足度	36	33	39	22	6	0	4.0	0.9	128	24	46	25	4	1	3.9	0.8
48	自分の大人度を評価	36	3	14	47	31	6	2.8	0.9	129	3	15	41	34	7	2.7	0.9
49	学生生活で行動力・実行力が身いたか	36	25	44	31	0	0	3.9	0.7	130	21	51	22	6	0	3.9	0.8
50	学生生活でコミュニケーション力が身についたか	36	19	47	19	11	3	3.7	1.0	130	28	51	14	7	0	4.0	0.8
51	2020年東京五輪が決まり、進路や学習に変化はあったか	36	14	17	31	11	28	2.8	1.4	130	7	8	32	18	35	2.3	1.2
52	修得単位の評価は、平均でどの程度か	35		0	49	40	11	2.4	0.7	130		5	58	31	5	2.6	0.7
53	教員免許の取得状況	34			76	12	12			128			89	7	4		
55	就職内定状況	35	6	49	37	6	3			127	15	48	28	6	2		
56	卒業後の進路への納得度	33	36	24	27	12	0	3.8	1.0	125	38	32	20	9	2	4.0	1.0
60	キャリアデザインの授業は就職活動に役立ったか	36	6	14	33	25	22	2.6	1.1	128	10	20	30	27	13	2.9	1.2

(人)

(%)

(人)

(%)

## 地域スポーツ

人数	5	4	3	2	1	Mean	SD
61	15	36	26	18	5	3.4	1.1
60	10	40	25	22	3	3.3	1.0
61	10	43	28	15	5	3.4	1.0
60	7	27	47	20	0	3.2	0.8
61	7	46	33	15	0	3.4	0.8
61	16	51	21	10	2	3.7	0.9
61	5	36	38	16	5	3.2	0.9
61	0	38	33	18	11		
61	34	18	15	3	30	3.2	1.6
61	30	26	8	5	31	3.2	1.6
59	39	25	19	5	12	3.7	1.3
60	10	35	40	12	3	3.4	0.9
60	7	17	28	23	25	2.6	1.2
59	10	58	10	20	2	3.5	1.0
58	9	34	34	21	2	3.3	0.9
59				66	34		
59				32	68		
61	2	16	28	38	16	2.5	1.0
55	22	33	38	7	0	3.7	0.9
61	20	31	30	13	7	3.4	1.1
59	17	25	34	12	12	3.2	1.2
52	35	15	25	8	17	3.4	1.5
56	20	25	30	23	2	3.4	1.1
59	29	24	19	15	14	3.4	1.4
58	33	31	24	10	2	3.8	1.1
59	20	24	25	17	14	3.2	1.3
59	5	8	19	20	47	2.0	1.2
56	46	7	11	2	34		
35	23	29	17	17	14	3.3	1.4
27	22	22	44	7	4	3.5	1.0
52	35	25	23	13	4	3.7	1.2
60	12	33	40	10	5	3.4	1.0
59	2	7	54	17	20	2.5	0.9
59	17	34	32	15	2	3.5	1.0
59	15	46	34	3	2	3.7	0.8
59	7	12	34	20	27	2.5	1.2
60		3	47	38	12	2.4	0.7
59		61	10	29			
60	2	68	17	10	3		
60	42	22	20	12	5	3.8	1.2
60	3	27	27	23	20	2.7	1.2

(人)

(%)

## 野外スポーツ

人数	5	4	3	2	1	Mean	SD
17	6	29	29	24	12	2.9	1.1
17	12	29	24	24	12	3.1	1.2
17	6	18	53	6	18	2.9	1.1
17	6	35	29	18	12	3.1	1.1
17	6	29	41	12	12	3.1	1.1
17	41	24	24	0	12	3.8	1.3
17	0	35	29	12	24	2.8	1.2
16	0	19	38	19	25		
17	29	18	18	0	35	3.1	1.7
17	88	0	6	0	6	4.6	1.0
17	71	24	0	0	6	4.5	1.0
17	82	6	0	12	0	4.6	1.0
17	18	18	47	6	12	3.2	1.2
14	21	50	14	7	7	3.7	1.1
14	14	36	29	14	7	3.4	1.1
14				79	21		
14				50	50		
15	0	27	27	33	13	2.7	1.0
16	44	31	19	0	6	4.1	1.1
17	18	24	41	12	6	3.4	1.1
17	6	35	35	6	18	3.1	1.2
16	25	19	38	6	13	3.4	1.3
16	31	31	13	25	0	3.7	1.2
17	35	41	12	6	6	3.9	1.1
17	35	35	6	18	6	3.8	1.3
17	6	53	6	18	18	3.1	1.3
17	0	0	12	41	47	1.6	0.7
16	44	6	31	6	13		
10	30	20	20	30	0	3.5	1.2
9	56	0	11	11	22	3.6	1.7
15	33	27	27	13	0	3.8	1.0
17	24	35	0	12	29	3.1	1.6
16	0	6	63	13	19	2.6	0.9
16	25	44	19	0	13	3.7	1.2
16	44	19	13	13	13	3.7	1.4
16	0	19	38	13	31	2.4	1.1
17		0	29	47	24	2.1	0.7
16		69	6	25			
17	12	65	6	6	12		
15	40	27	20	13	0	3.9	1.1
16	6	25	19	25	25	2.6	1.3

(人)

(%)

## ダンス・表現

人数	5	4	3	2	1	Mean	SD
6	17	50	17	17	0	3.7	0.9
6	0	17	50	33	0	2.8	0.7
6	17	33	33	17	0	3.5	1.0
6	0	33	50	17	0	3.2	0.7
6	0	33	50	17	0	3.2	0.7
6	17	33	50	0	0	3.7	0.7
6	0	17	67	17	0	3.0	0.6
6	0	33	67	0	0		
5	0	20	20	0	60	2.0	1.3
6	33	17	0	0	50	2.8	1.9
6	33	17	50	0	0	3.8	0.9
6	33	33	33	0	0	4.0	0.8
6	0	0	83	17	0	2.8	0.4
6	0	67	33	0	0	3.7	0.5
6	0	83	17	0	0	3.8	0.4
6				83	17		
6				83	17		
6	0	33	67	0	0	3.3	0.5
6	17	17	50	17	0	3.3	0.9
6	0	50	33	17	0	3.3	0.7
6	17	17	33	33	0	3.2	1.1
6	67	17	0	17	0	4.3	1.1
6	67	17	17	0	0	4.5	0.8
6	33	33	33	0	0	4.0	0.8
6	67	17	0	0	17	4.2	1.5
6	17	17	50	0	17	3.2	1.2
6	17	17	17	0	50	2.5	1.6
5	60	20	0	0	20		
4	75	0	25	0	0	4.5	0.9
2	0	0	100	0	0	3.0	0.0
4	25	25	50	0	0	3.8	0.8
5	20	40	20	20	0	3.6	1.0
5	0	20	20	60	0	2.6	0.8
6	0	50	33	17	0	3.3	0.7
6	0	83	17	0	0	3.8	0.4
6	17	0	50	17	17	2.8	1.2
6		17	33	50	0	2.7	0.7
6		33	33	33			
6	17	67	17	0	0		
6	0	33	50	17	0	3.2	0.7
6	0	17	33	50	0	2.7	0.7

(人)

(%)

## 健康スポーツ科学

人数	5	4	3	2	1	Mean	SD
21	10	48	24	14	5	3.4	1.0
21	5	29	33	29	5	3.0	1.0
21	5	38	29	19	10	3.1	1.1
20	5	10	30	50	5	2.6	0.9
21	5	48	19	14	14	3.1	1.2
20	10	35	30	20	5	3.3	1.0
21	10	29	33	19	10	3.1	1.1
21	5	10	19	52	14		
21	10	29	10	5	48	2.5	1.5
21	19	29	0	5	48	2.7	1.7
21	67	19	10	5	0	4.5	0.9
21	19	52	14	10	5	3.7	1.0
21	19	19	14	14	33	2.8	1.5
21	10	38	14	33	5	3.1	1.1
21	10	24	29	29	10	3.0	1.1
21				67	33		
21				43	57		
21	5	10	5	48	33	2.0	1.1
18	22	44	28	6	0	3.8	0.8
21	24	33	14	14	14	3.4	1.4
21	10	38	33	14	5	3.3	1.0
17	29	29	24	6	12	3.6	1.3
21	29	43	24	0	5	3.9	1.0
20	30	20	45	5	0	3.8	0.9
21	24	33	24	10	10	3.5	1.2
20	20	25	35	15	5	3.4	1.1
21	10	14	19	10	48	2.3	1.4
18	22	0	39	0	39		
9	0	33	22	33	11	2.8	1.0
11	27	27	45	0	0	3.8	0.8
18	17	33	22	28	0	3.4	1.1
21	10	52	24	5	10	3.5	1.1
19	5	26	37	21	11	2.9	1.1
20	10	50	25	10	5	3.5	1.0
20	5	55	25	15	0	3.5	0.8
20	0	15	30	15	40	2.2	1.1
21		10	67	24	0	2.9	0.6
21		43	10	48			
21	10	57	29	5	0		
19	42	26	16	5	11	3.8	1.3
21	5	33	29	24	10	3.0	1.1

(人)

(%)

#### 4-4. 成績自己評価別集計

本節では、本学学生全体(大学学部・短大保健体育学科・短大児童教育学科)を対象に、設問52「修得単位の評価は、平均でどの程度ですか」(秀・優・良・可)に対する回答が「秀・優」であったグループ(N=154, 平均値3.1)と、「良・可」であったグループ(N=115, 平均値は1.8)とする群分けを行い、両グループを比較する形で調査結果を考察した。

「秀・優」グループと、「良・可」グループに分けて各質問の回答の平均値(SD)を掲載したものが、表4-4である。以下、基本的に回答の平均値に0.3以上の差がみられた場合を、両グループの回答に差があったものとして考察する。また、度数(人数)を比較する際には、比率にして3%以上の差がみられた場合に、差があったものとして扱う。

##### 1) 大学入学時のわくわく感と卒業時の総合満足度

設問1「本学入学時のわくわく感」については、「秀・優」と「良・可」の両グループの平均値はともに3.3であり、差はみられなかった。設問2「大学生生活全般での満足度」は、「秀・優グループ」の平均値は3.4、「良・可」グループでは3.1であり、「秀・優」グループのほうが高いといえた。

##### 2) 本学を卒業することの誇りと建学の精神

設問3「本学を卒業することの誇り」は、両グループともに3.4であり、成績に関わらず本学への誇りを持っていることがわかった。設問4「建学の精神や藤村トヨの教育をどの程度知っていますか」は、「秀・優」が3.0、「良・可」が2.9で、グループ間の差はさほどみられなかった。

##### 3) 授業内容満足度

設問5「大学の授業内容の満足度」、設問7「専門的実技授業の満足度」、設問8「専門以外の科目(一般教養)の満足度」は、いずれも「秀・優」グループの平均値が「良・可」グループより0.1高かったのみで、両グループの差はさほど見られなかったといえる。設問11「野外実習(スキー・水泳・キャンプなどの充実度)」の平均値は、両グループともに2.9で等

しかった。

一方で、設問6「専門的講義授業の満足度」では、「秀・優」3.6、「良・可」3.0と明確な差が生じた。設問10「教育実習の充実度」でも、「秀・優」の平均値が4.0、「良・可」の平均値が3.5であった。「秀・優」グループのほうが、座学の講義や教育実習への満足度が高いことが示された。

設問12「ゼミでの学習の満足度」や設問13「コースでの満足度」は、ともに「秀・優」グループが「良・可」グループよりもわずかに高く、0.2高い平均値となった。

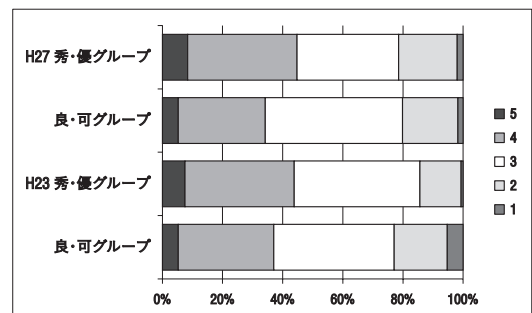


図4-4-1. 授業満足度

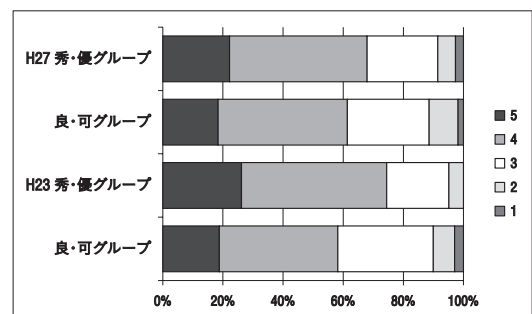


図4-4-2. 実技満足度

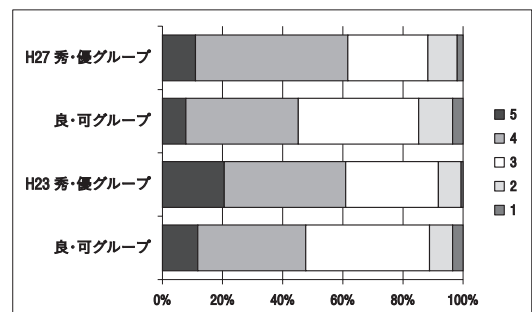


図4-4-3. 講義満足度



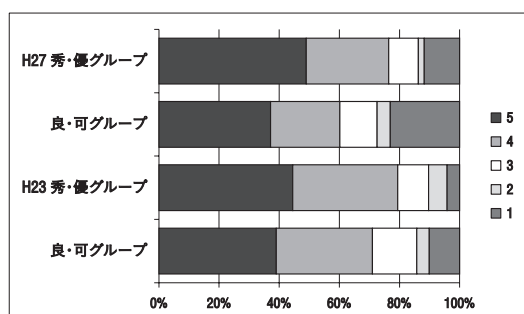


図4-4-4. 教育実習満足度

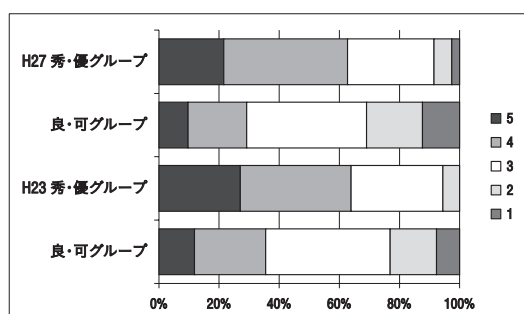


図4-4-5. 授業への注力

授業に対する学生本人の意欲に関しては、設問33「授業にどのくらい力を注ぎましたか」について、「秀・優」グループが3.7、「良・可」グループが3.0であった。「秀・優」グループのほうが、授業に熱心に取り組んだという自覚が、明らかに高いことがわかる。

#### 4) 教員について

教員に関しては、設問15「学問分野の専門家として優れた教員が多い」、設問16「教育や指導に熱意を持った教員が多い」がともに、「秀・優」グループの平均値が「良・可」グループよりも0.2高かったが、さほど大きな差はみられなかったといえる。

#### 5) 施設について

設問22「部活動の施設・練習場所の満足度」については、「秀・優」3.0、「良・可」2.7と差がみられた。しかし設問19「専門大学としての施設の充実度」や、設問23「図書館の満足度」、設問26「学生食堂の満足度」には、両グループの差はほぼみられなかった。

利用しやすかった施設については、「秀・優」グループが「良・可」グループを明確に上回ったのは(3%以上は高かったもの)、4号館教室、第7体育館、ソフトボールコート、プール、ピアノレッスン室、健康管理センターなどであった。「良・可」グループのほうが明確に上回ったのは、陸上グラウンド、トレーニング室、ロッカー室などであった。不便だったものについては、「秀・優」のほうが明確に高かったのは、第1体育館、健康管理センター、事務棟、学食、売店であった。「良・可」グループのほうが明確に高かったのは、第3体育館、第7体育館、図書館、コンピューター室、寮であった。

#### 6) サポート体制

設問24「健康管理センターのサポート」、設問25「キャリア支援センターのサポート」、設問26「学生食堂の満足度」設問27「事務局の窓口サービス」では、両グループの平均値は等しいか0.2までの差しかなく、グループ間の差はさほどみられなかったといえる。

#### 7) 学生生活全般

##### 学生生活全般への満足度

設問2「大学生生活全般(授業時間外を含む)の満足度」では、「秀・優」グループの平均値は3.4、「良・可」グループの平均値は3.1であり、「秀・優」グループの満足度が高いことがわかった。

設問35「授業や部活動以外の活動にどのくらい力を注ぎましたか」について、「秀・優」グループは3.5、「良・可」グループは3.2であった。「秀・優」グループ

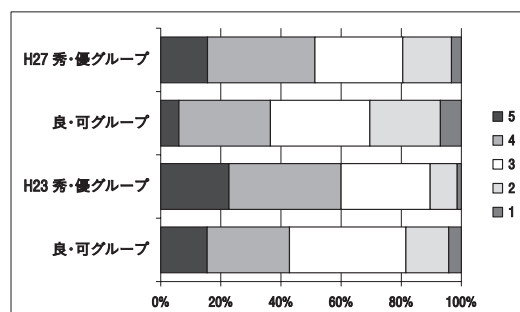


図4-4-6. 大学満足度

プが熱心に取り組んだのは授業や部活動だけではなかったことがわかる。「秀・優」グループは、大学生活全般に関して意欲的であったといえる。

設問37「アルバイトにどのくらい力を注いだか」、設問38「趣味にどのくらい力を注いだか」、設問40「ボランティア活動にどのくらい力を注いだか」については、両グループに差はあまりみられなかった。

表4-4によれば、学生生活において良かったと感じることについては、「秀・優」グループが「良・可」グループを明確に(3%以上)上回っていた項目は、自立、資格、自分自身を知る、という項目であった。「良・可」グループのほうが人数が多かった項目は、元気、勇気、感謝の気持ち、という項目であった。学生生活において良くなかったことに関しては、「秀・優」グループのほうが3%以上回答人数が多かった項目は、健康(観)、パソコン技能、勇気、友人(友情)、希望、読書力、根性(忍耐力)と答えていた。「良・可」グループのほうが3%以上回答人数が多かったのは、趣味、資格、美(心・姿・生き方など)、自分自身を知る、という項目であった。「秀・優」グループでは、資格を取って自立する中で自分の姿について自覚が進んだ様子が伺える。「良・可」グループでは、周囲の人との人間関係の中で、精神面で学ぶものがあつたということであろう。

8) クラブ活動について  
クラブ活動への満足度

設問41「クラブ活動への所属の有無」については、「秀・優」グループでは、この設問に回答した140名のうち、学内クラブに卒業まで所属していた学生は95名、学内クラブに所属していたが途中で退部した学生は6名であった。学外サークルに卒業まで所属した学生は13名、学外サークルを途中で退部した学生は3名、学内学外いずれのクラブやサークルにも所属していなかった学生が23名であった。

「良・可」グループでは、この設問に回答した106のうち、学内クラブに卒業まで所属していた学生は67名、学内クラブに所属していたが途中で退部した学生は7名であった。学外サークルに卒業まで所属した学生は8名、学外サークルを途中で退部した学

生は3名、学内学外いずれのクラブやサークルにも所属していなかった学生が21名であった。

設問34「部活動(学内・学外)にどのくらい力を注いだか」に関しては、「秀・優」グループの平均値が4.1、「良・可」グループでは3.8であり、0.3の開きをもって「秀・優」グループのほうが部活動に注力していたことがわかった。

設問42「高校時代に比べ専門技能はどの程度伸ばせたか」については、「秀・優」3.9、「良・可」3.8と差はみられなかった。設問44「クラブ活動は就職にどの程度影響するか」については、「秀・優」4.1、「良・可」3.9であった。

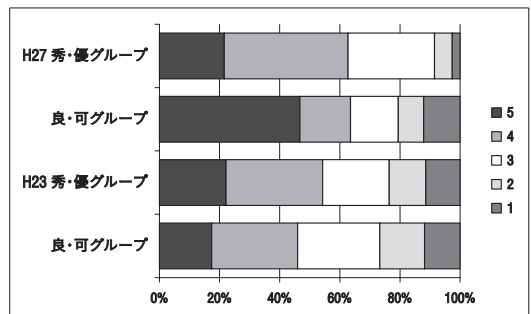


図4-4-7. 授業・部活以外への注力

9) 人間的な成長について  
人間的な成長への満足度

設問45「学生生活を通しての自分自身の成長にどの程度満足していますか」の平均値は、「秀・優」3.8、「良・可」3.5であり、「秀・優」グループのほうが自分の成長を実感していたといえる。しかし設問48「自分の大人度」については、「秀・優」2.7、「良・可」2.6

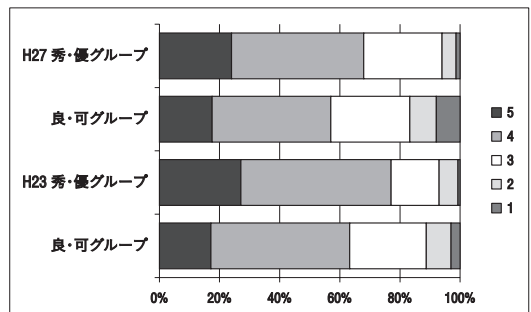


図4-4-8. 自分自身の成長への満足度

と差は見られず、設問49「学生生活で行動力・実行力がついたか」についても「秀・優」3.8, 「良・可」3.7, 設問50「学生生活でコミュニケーション能力が身についたか」に関しても、「秀・優」3.9, 「良・可」3.8と、あまり差はみられなかった。

設問29「私生活全般での友人関係の満足度」も、「秀・優」4.2, 「良・可」4.1であり、両グループの差はほぼみられなかった。

表4-4によると、成長に何が影響したかについては、「秀・優」では授業が19.7%, 「良・可」では13.5%であり、「秀・優」グループのほうが授業からの影響を受けていた。ボランティアは、「秀・優」11.4%, 「良・可」4.8%であった。アルバイトについても、「秀・優」33.3%, 「良・可」25.0%であった。一方でゼミの先生については「秀・優」グループでは22.7%, 「良・可」では26.0%であり、野外活動も「秀・優」6.8%, 「良・可」10.6%, 趣味が「秀・優」7.6%, 「良・可」10.6%であった。

#### 10) 修得した単位の評価

単位については、本節が設問52「修得単位の評価は平均でどの程度か」に基づいた成績自己評価により回答者である学生を2群に分けて分析を行っている節であるため、ここでは記載しない。

#### 11) 卒業後の進路

「秀・優」グループと「良・可」グループの平均値に差がみられたのは、設問39「就職活動にどのくらい力を注ぎましたか」（「秀・優」3.3, 「良・可」2.8）、設問56「卒業後の進路への納得度」（「秀・優」4.0,

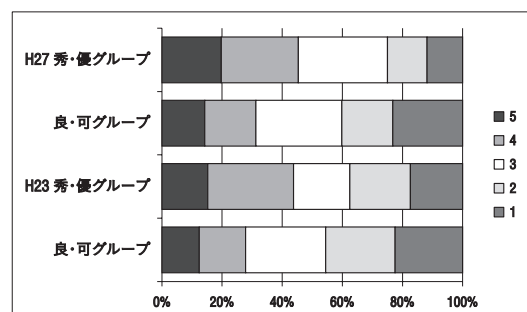


図4-4-9. 就活への注力

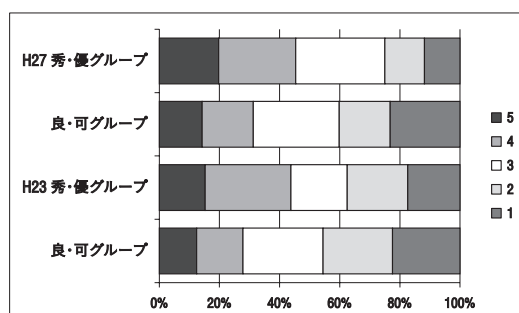


図4-4-10. 進路への納得度

「良・可」3.7)であった。「秀・優」グループのほうが、より就職活動に力を注ぎ、内定を得て、進路に納得している姿が明らかになった。しかし、設問60「キャリアデザインの授業は就職活動に役立ったか」については、両グループの平均値はともに2.8であり、差はみられなかった。

#### 12) 平成23年度と平成27年度の比較

今回調査(平成27年度調査)と前回調査(平成23年度調査)の結果を比較すると、以下のことがいえる。

大学入学時のわくわく感と卒業時の満足度に関しては、今回調査も前回調査も同様のパターンがみられた。すなわち、「秀・優」グループも「良・可」グループも、入学時のわくわく感に差はないが、卒業時点での大学生活全般への満足度は「秀・優」グループのほうが高かった。

本学を卒業することの誇りや建学の精神については、前回調査ではわずかに「秀・優」グループのほうが高い傾向にあったがその差は0.2であり、今回と同様に、両グループの差はあまりみられなかったものといえる。

授業内容満足度に関しては、前回調査で両グループに0.3以上の差が見られたのは(全般的な意味での)授業満足、講義満足度、実技満足度であった。今回の結果では、専門的講義の満足度は「秀・優」グループのほうが高かったが、全般的な授業満足や実技満足度に関して両グループの差はみられなかったもので、そこが相違点といえる。

教員に関しては、前回調査、今回調査ともに両グループにおける回答の差はあまりみられなかった。

施設については、4号館が新しく建設されたため、今回調査では「秀・優」グループが4号館教室や健康管理センターなど、4号館にある施設を高く評価している姿が目立った。

サポート体制については、前回調査も今回調査も、「秀・優」グループと「良・可」グループが目立った差はみられなかった。

学生生活全般に関しては、前回調査でも今回調査でも同様に、「秀・優」グループにおいて「授業にどのくらい力を注いだか」「就職活動にどのくらい力を注いだか」の得点が高いというパターンが共通していた。ただし「部活動にどのくらい力を注いだか」に関しては、前回調査では両グループに差がなかったが今回調査では「秀・優」グループのほうが高得点となっていた。今回調査では、「秀・優」グループが学業や就職活動のみならず、部活動でも頑張るといふ、全方位的に努力をしている姿勢が見出されたといえる。

クラブ活動の効果に関する意識では、前回調査でも今回調査でも、「秀・優」グループと「良・可」グループで、技量の進歩や就職活動への影響に関しては、それほどの差はみられていない。

人間的な成長については、前回調査では「自分の大人度」に関して「秀・優」グループのほうが得点が高いという結果が得られていた。今回調査では、「大人度」という質問では両グループに差はみられなかったが、「秀・優」グループでは大学生活で良かった点として「自立」「自分の姿を知る」などを挙げた回答数が多かったうえ、自分の成長への満足度も高かったといえる。

卒業後の進路については、前回調査では両グループの自分の進路への納得度はほぼ同様という結果が示されている。今回調査では、「秀・優」グループのほうが、「良・可」グループより就職活動に注力しており、卒業後の進路に納得している姿が示された。

ると、両グループともに本学への入学時のワクワク感（本学への期待を表すものといえる）に差はなかった。しかし卒業時においては「秀・優」のほうが、大学生活全般に対する満足感や専門的講義への満足感、および教育実習に対する満足感が高く、授業に力を注いだという自覚も高かったことが示された。また「秀・優」グループでは、資格を取って自立する中で自分の姿について自覚が進み、「良・可」グループでは、周囲の人との人間関係の中で、精神面で学ぶものがあったことがわかった。さらに、クラブへの取り組みでも「秀・優」グループのほうがより注力していたことが示された。卒業後の進路についても、「秀・優」グループはより就職活動に力を注いで内定を得て、進路に納得していることがわかった。

### 13) まとめ

平成27年度調査の結果をまとめると、以下のことがいえる。

「秀・優」グループと「良・可」グループを比較す

表4-4. 成績自己評価別集計

No	設問内容	大学_秀・優						大学_良・可									
		人数	5	4	3	2	1	Mean	SD	人数	5	4	3	2	1	Mean	SD
1	本学入学時のわくわく感	154	12	40	21	20	8	3.3	1.1	115	17	31	26	16	10	3.3	1.2
2	大学生生活全般(授業時間外を含む)の満足度	154	16	36	29	16	3	3.4	1.0	115	6	30	33	23	7	3.1	1.0
3	本学を卒業することの誇り	154	17	38	25	13	7	3.4	1.1	115	17	32	31	17	3	3.4	1.1
4	建学の精神や藤村トヨの教育をどの程度知っているか	151	2	36	28	28	5	3.0	1.0	114	3	32	31	24	11	2.9	1.0
5	大学の授業内容の満足度	154	8	36	34	19	2	3.3	0.9	114	5	29	46	18	2	3.2	0.9
6	専門的講義授業の満足度	154	11	51	27	10	2	3.6	0.9	115	8	37	40	11	3	3.3	0.9
7	専門的実技授業の満足度	153	22	46	24	6	3	3.8	0.9	114	18	43	27	10	2	3.7	0.9
8	専門以外の科目(一般教養)の満足度	154	10	36	35	17	3	3.3	1.0	115	7	30	44	11	7	3.2	1.0
9	本学で最も深く学べた科目は何ですか	153	5	42	31	18	4			114	3	39	29	17	13		
10	教育実習の充実度	153	49	27	10	2	12	4.0	1.3	113	37	23	12	4	23	3.5	1.6
11	野外実習(スキー・水泳・キャンプなど)の充実度	153	25	22	8	3	41	2.9	1.7	115	30	19	5	5	41	2.9	1.7
12	ゼミでの学習の満足度	152	52	23	15	5	5	4.1	1.1	114	43	26	16	5	10	3.9	1.3
13	コースでの満足度	152	27	42	23	7	1	3.9	0.9	114	25	37	27	8	4	3.7	1.0
14	本学に大学院は必要だと思うか	152	17	19	30	19	14	3.1	1.3	114	11	19	31	15	25	2.8	1.3
15	学問分野の専門家として優れた教員が多いと思うか	149	16	44	23	15	1	3.6	1.0	108	13	42	24	19	3	3.4	1.0
16	教育や指導に熱意を持った教員が多いと思うか	147	13	41	27	16	2	3.5	1.0	108	12	32	31	22	3	3.3	1.0
17	本学に尊敬できる教員がいるか	148					72	28		108					73	27	
18	本学になんでも相談できる教員がいるか	146					40	60		108					48	52	
19	専門大学としての施設の充実度	153	5	24	19	34	18	2.6	1.2	112	4	19	29	28	21	2.6	1.1
22	部活動の施設・練習場所の満足度	101	17	24	19	25	16	3.0	1.3	82	10	17	30	23	20	2.7	1.2
23	図書館の満足度	132	31	33	23	8	5	3.8	1.1	105	24	39	29	8	1	3.8	0.9
24	健康管理センターのサポート満足度	150	20	30	35	12	3	3.5	1.0	111	14	27	47	8	5	3.4	1.0
25	キャリア支援のサポート満足度	151	21	35	24	13	7	3.5	1.2	111	12	34	34	14	6	3.3	1.0
26	学生食堂の満足度	151	8	17	23	27	25	2.6	1.3	111	9	19	30	18	24	2.7	1.3
27	事務局の窓口サービスの満足度	151	5	21	37	18	19	2.8	1.1	112	10	17	49	14	10	3.0	1.0
28	学則は適切だったか	154	6	22	53	16	3	3.1	0.9	115	7	16	52	17	8	3.0	1.0
29	私生活全般での友人関係の満足度	153	48	27	20	3	2	4.2	1.0	115	49	25	18	4	3	4.1	1.1
30	本学で一生つきあえる友人に出会えたか	145				93	7			112				88	12		
33	授業にどのくらい力を注いだか	153	22	41	29	6	3	3.7	0.9	113	10	19	40	19	12	3.0	1.1
34	部活動(学内・学外)にどのくらい力を注いだか	141	56	13	19	3	9	4.1	1.3	107	47	17	16	8	12	3.8	1.4
35	授業や部活動以外の活動にどのくらい力を注いだか	151	23	30	29	13	5	3.5	1.1	109	17	28	28	13	15	3.2	1.3
37	アルバイトにどのくらい力を注いだか	150	22	23	23	12	19	3.2	1.4	113	23	24	18	13	22	3.1	1.5
38	趣味にどのくらい力を注いだか	151	23	30	22	17	9	3.4	1.2	112	26	21	25	18	10	3.4	1.3
39	就職活動にどのくらい力を注いだか	152	20	26	30	13	12	3.3	1.3	112	14	17	29	17	23	2.8	1.3
40	ボランティア活動にどのくらい力を注いだか	152	8	14	16	18	43	2.3	1.3	112	6	7	24	16	46	2.1	1.2
41	クラブ(部・クラブ・サークル)活動所属	140	68	4	9	2	16			106	63	7	8	3	20		
42	専門技能や技術はどの程度伸ばせたか、あるいは上達度	110	39	33	12	9	7	3.9	1.2	78	42	23	17	10	8	3.8	1.3
43	学内クラブに所属しなかったことをどう感じているか(途中退部含む)	46	28	17	43	9	2	3.6	1.1	39	38	18	31	8	5	3.8	1.2
44	クラブ活動は就職にどの程度影響すると思うか	138	49	27	13	8	4	4.1	1.1	103	39	25	19	16	1	3.9	1.1
45	学生生活を通しての、自分自身の成長への満足度	150	24	44	26	5	1	3.8	0.9	114	18	39	26	9	8	3.5	1.1
48	自分の大人度を評価	148	1	14	48	29	7	2.7	0.8	114	4	12	42	27	15	2.6	1.0
49	学生生活で行動力・実行力が身いたか	151	17	51	26	6	0	3.8	0.8	114	22	39	26	10	4	3.7	1.0
50	学生生活でコミュニケーション力が身についたか	152	22	49	22	6	0	3.9	0.8	114	23	47	17	10	4	3.8	1.0
51	2020年東京五輪が決まり、進路や学習に変化はあったか	151	7	12	37	17	27	2.6	1.2	114	6	10	26	18	39	2.2	1.2
52	修得単位の評価は、平均でどの程度か	154		8	92	0	0	3.1	0.3	115		0	0	81	19	1.8	0.4
53	教員免許の取得状況	152			82	8	11			112			66	11	23		
55	就職内定状況	152	9	57	29	4	1			112	11	52	21	11	6		
56	卒業後の進路への納得度	145	41	31	19	7	2	4.0	1.0	111	34	24	23	14	4	3.7	1.2
60	キャリアデザインの授業は就職活動に役立ったか	153	8	20	28	29	14	2.8	1.2	112	4	25	30	21	19	2.8	1.2

(人)

(% )

(人)

(% )

#### 4-5. 就職状況別集計

就職状況調査については、5種類(①未定・家事手伝い ②フリーター・アルバイト ③任期付き採用2年まで(契約職員・嘱託職員等) ④正採用(2年以上の任期を含む) ⑤進学・その他)から学生が自己の内定状況を判断し回答するという設定で調査を行った。以下に人数とそのパーセンテージを示した。

また、前記5種類のうち、①未定・家事手伝い、②フリーター・アルバイトを「未定・フリーター等」グループとし、③任期付き採用2年まで(契約職員・嘱託職員等)、④正採用(2年以上の任期を含む)を「正採用・任期付き」グループとした。以降、この2つのタイプを比較しながら、今回の調査結果をみていく。この2つのタイプの該当人数及びそのパーセンテージは、「未定・フリーター等」26人(10%)、「正採用・任期付き」213人(80%)であった。

①未定・家事手伝い	8人(3%)
②フリーター・アルバイト	18人(7%)
③任期付き採用2年まで(契約職員・嘱託職員等)	67人(25%)
④正採用(2年以上の任期を含む)	146人(55%)
⑤進学・その他	27人(10%)
①+②「未定・フリーター等」グループ	26人(10%)
③+④「正採用・任期付き」グループ	213人(80%)

##### 1) 大学入学時のわくわく感と卒業時の総合満足度

就職状況別にみる「大学入学時のわくわく感」と「卒業時の総合満足度」の各平均値はどちらも同じ中程度の評価を示し、「未定・フリーター等」(3.2ポイント/3.3ポイント)、「正採用・任期付き」(3.2ポイント/3.3ポイント)であった。どちらも「卒業時の総合満足度」の方が「大学入学時のわくわく感」より0.1ポイントと僅かに高という結果であったが、全体に中程度の評価で推移していることから、「大学入学時のわくわく感」と「卒業時の総合満足度」における期待度や満足感は「未定・フリーター等」、「正採用・任期付き」に評価の差は認められないという結果であった。

##### 2) 本学を卒業することの誇りと建学の精神

「本学を卒業することの誇り」について評価の平均値は、「未定・フリーター等」(3.3ポイント)、「正採用・任期付き」(3.4ポイント)で、「正採用・任期付き」が0.1ポイント高いという結果であった。全体には中程度の評価であり、前項「卒業時の総合満足度」に関する「未定・フリーター等」と「正採用・任期付き」の評価と同程度の評価結果であった。

「建学の精神」については、「未定・フリーター等」(2.9ポイント)、「正採用・任期付き」(3.0ポイント)と中程度ではあるが、「本学を卒業することの誇り」よりも低い評価となっていた。

##### 3) 授業内容満足度

ここで差がみられたのは、「教育実習の充実度」の設問に対して、「未定・フリーター等」は2.9ポイントであるのに対して「正採用・任期付き」は3.8ポイントと、0.9ポイントの差がみられた。教育実習の充実と成果が、職業に対する意欲や就職活動へとつながられたのではないかと推測する。その外は「未定・フリーター等」「正採用・任期付き」ともに同傾向を示し、そのなかで高評価であったのは、「専門的実技授業」(3.6ポイント/3.7ポイント)であった。また低評価は、「野外実習」(2.8ポイント/2.9ポイント)であった。授業全体の評価は、「未定・フリーター等」「正採用・任期付き」ともに3.2ポイントと中程度であった。

##### 4) 教員について

ここでの回答は、「未定・フリーター等」「正採用・任期付き」の差がなく、「優れた教員が多いと思うか」や「熱意を持った教員が多いと思うか」という設問に対して、評価平均値が3.3～3.5ポイントという結果であった。この設問と学生の就職状況について、関係性を見出すことはできなかったが、これは、学生は自身の就職に対する関心を対教員というよりも、キャリア支援課等に向けていたということから、このような結果になったものと思われる。

##### 5) サポート体制(含平成23年度との比較図)

先ず「キャリア支援のサポート」に対しては、「未

定・フリーター等」(3.3ポイント)、「正採用・任期付き」(3.4ポイント)と、「正採用・任期付き」が僅かに(0.1ポイント)高いが、ほぼ同じ評価平均値であった。キャリア支援のサポートを両者とも同じ程度の満足度として受け止めていたということが分かった。図4-5-1から分かるように「キャリア支援のサポート」の満足度については、平成23年度「正採用・任期付き」が今回より高く、平均値も0.4ポイント高かった。

その他「キャリアデザインの授業が就職活動に役立ったか」という設問には、「未定・フリーター等」(2.8ポイント)、「正採用・任期付き」(2.7ポイント)と低く、「正採用・任期付き」のほうが低評価であった。当時の「キャリアデザイン」の授業は、各グループの担任がテキストをもとに一斉に行うという、現行とは異なる授業体制であったことが原因として考えられる。

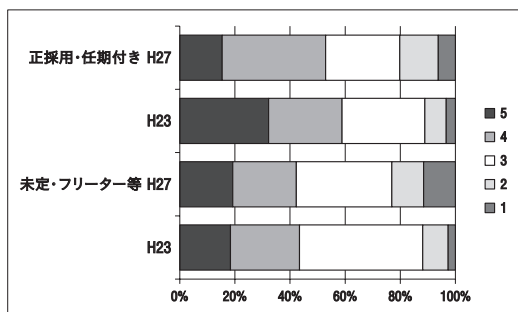


図4-5-1. 就職状況別「キャリア支援のサポート」の満足度

6) 学生生活全般(含 平成23年度との比較図)

「就職活動にどのくらい力を注ぎましたか」の設問に対する評価平均値は、「未定・フリーター等」(2.1ポイント)、「正採用・任期付き」(3.3ポイント)と大きな差(1.2ポイント)が認められた。やはり就職活動の取り組みの差が就職の成果として表れたものとみることが出来る。図4-5-2から、平成23年度と今回は同傾向であることが分かる。しかし今年度「未定・フリーター等」の就職活動については内容の詳細をみる必要があると考える。

その他、「正採用・任期付き」の学生生活における傾向をみると、「部活動への取り組み」(4.0ポイント)、「部活動以外の活動への取り組み」(3.4ポイント)両方に高い値が見受けられ、部活動を含む、学生

生活全般に力を注いでいたことがうかがわれる。一方「未定・フリーター等」は「部活動への取り組み」(3.4ポイント)、「部活動以外の活動への取り組み」(2.8ポイント)と、ともに「正採用・任期付き」より0.6ポイント低い値を示していたのが対照的であった。これらのことから、「正採用・任期付き」の学生は、部活動に取り組みながら部活動以外の時間には熱心に就職活動を行っていたという学生生活が推察できる。

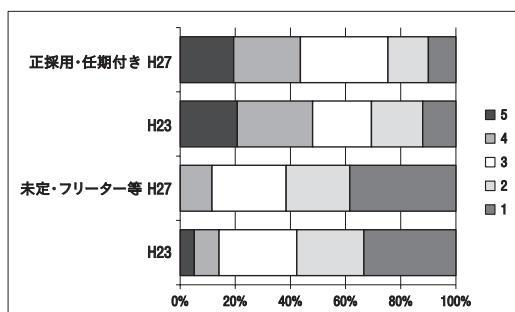


図4-5-2. 就職状況別「就職活動への注力」の割合

7) クラブ活動について(含 平成23年度との比較図)

「クラブ活動は就職にどの程度影響すると思うか」についての評価平均値は、「未定・フリーター等」(3.8ポイント)、「正採用・任期付き」(4.1ポイント)と、双方ともに高い評価をしていることが分かった。そう回答している「未定・フリーター等」の学生は54%がクラブ活動に参加(学内・外)し、「正採用・任期付き」の学生は76%が参加(学内・外)していたことが分かり、「正採用・任期付き」の学生の方がクラブ活動への高い参加率を示していた。これは前項の考察、学生生活全般の「部活動への取り組み」を補強

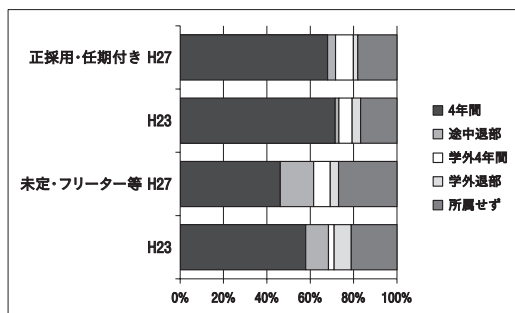


図4-5-3. 就職状況別「クラブ所属」の割合

する結果でもある。クラブ所属状況については、平成23年度とほぼ同傾向であることが分かる(図4-5-3参照)。しかし僅かではあるが今年度「未定・フリーター等」①「所属せず」が増加している。これについては今後注視していきたいと考える。

### 8) 人間的な成長について

まず「自分自身の成長」に関する評価平均値は、「未定・フリーター等」(3.5ポイント)、「正採用・任期付き」(3.7ポイント)と、双方ともに中程度強の値であった。同じように「学生生活でコミュニケーション力が身につきましたか」の設問に対しても、「未定・フリーター等」(3.8ポイント)、「正採用・任期付き」(3.9ポイント)と、双方とも中程度強の値であった。

違いがみられたのは「自分の大人度の評価」についてであった。「未定・フリーター等」の学生は(3.0ポイント)と中程度の評価をしているのに対し、「正採用・任期付き」の学生は(2.6ポイント)とかなり自分自身の大人度を低くみていることが分かった。これは興味深い結果であり、どのような観点が、この様な結果につながったのか詳細をみる必要があると考える。

### 9) 修得単位の評価

「修得単位の評価(4:秀 3:優 2:良 1:可 自己申告)」の平均値は、「未定・フリーター等」(2.1ポイント)、「正採用・任期付き」(2.6ポイント)と、双方とも中程度以下で、「未定・フリーター等」の方が0.5ポイント低値であった。

教員免許状取得状況は、「未定・フリーター等」(56%)、「正採用・任期付き」(77%)と、「正採用・任期付き」が取得率は高かった。

以下は、教員免許状を含む各種資格の取得状況と就職状況を比較したものである。取得状況について、「未定・フリーター等」,「正採用・任期付き」両者の母集団数の違いを考慮してみる必要があるが、教員免許状以外の資格で「未定・フリーター等」の方が、取得率が高いものとしては「07障害者初級スポーツ指導員」7人(37%)と、「08ジュニアスポーツ指導員」4人(21%)が挙げられる。その他は「正採用・任期付き」と同率か、「正採用・任期付き」の方が高い取得率

を示していた。しかし資格と就職状況に関しては母集団数の差が大きいため明快な比較は難しく、就職状況別の資格取得の特徴や傾向をみることはできなかった。

	「正採用・任期付き」 回答 213人	「未定・フリーター等」 回答 26人
01 幼稚園教諭二種免許	9人 (5%)	0人 (0%)
02 小学校教諭二種免許	11人 (6%)	3人 (16%)
03 中学校教諭保健体育二種免許	23人 (13%)	3人 (16%)
04 中学校教諭保健体育一種免許	132人 (72%)	11人 (58%)
05 高等学校教諭保健体育二種免許	139人 (76%)	12人 (63%)
06 健康運動実践指導者	10人 (5%)	1人 (5%)
07 障害者初級スポーツ指導員	38人 (21%)	7人 (37%)
08 ジュニアスポーツ指導員	23人 (13%)	4人 (21%)
09 スポーツプログラマー	8人 (4%)	0人 (0%)
10 日赤水上安全法救助員	4人 (2%)	1人 (5%)
11 日赤救急法救急士	27人 (15%)	3人 (16%)
12 健康運動指導士	6人 (3%)	0人 (0%)
13 社会体育指導者	9人 (5%)	0人 (0%)
14 スポーツリーダー	14人 (8%)	1人 (5%)

### 10) 卒業後の進路の満足度について

「卒業後の進路の満足度」についての評価平均値は、「未定・フリーター等」(3.2ポイント)、「正採用・任期付き」(3.9ポイント)と「正採用・任期付き」の方が0.7ポイント高かった。評価としては中程度ながら、「未定・フリーター等」の方は「どちらでもない」に近く、「正採用・任期付き」の方は「少し納得」に近い回答傾向を示していた。

### 11) 就職の決め手は何でしたか

この設問に対する回答の選択肢は以下の12項目であった。就職に対する決め手、第一から第三までを下記の内容より選んで回答するもので、これを就職状況別にみると下図のようになった。第一から第三までの各決め手については上位2位を挙げた。



- 01 給与や待遇(福利厚生)がよい
- 02 憧れの職業である
- 03 有名企業である
- 04 勤務地が便利
- 05 正規雇用であること
- 06 土日休み、年休が多い
- 07 仕事内容が魅力的
- 08 職場の雰囲気がよさそう
- 09 高いスキルが身につく
- 10 社会貢献ができそう
- 11 選択の余地が無かった
- 12 特に無し

決め手	「正採用・任期付き」 回答213人	「未定・フリーター等」 回答26人
第一	憧れの職業である 46人(25%)	特になし 8人(42%)
	職場の雰囲気がよさそう 27人(15%)	憧れの職業である 6人(31%)
第二	特になし 44人(24%)	特になし 14人(64%)
	仕事の内容が魅力的 20人(11%)	憧れの職業である 5人(23%)
第三	特になし 66人(36%)	特になし 14人(70%)
	給与や待遇(福利厚生)がよい 19人(10%)	憧れの職業である 3人(15%)

上記によると「正採用・任期付き」における職業の第一の決め手は、「憧れの職業」や「職場の雰囲気がよさそう」であった。第二の決め手と第三の決め手が「特になし」が多いということから、職業の決め手の条件としては、第一の決め手「憧れの職業」を最優先に考えていたとみることができる。給与や待遇(福利厚生)に関することは、第三の2番目であり少数であることが分かった。

一方「未定・フリーター等」の方は、第一の決め手から第三の決め手までが「特になし」が一番多く、次に「憧れの職業」という結果であった。これは、職業を選択する上で具体的な条件をもたずに決定していたということであり、「未定・フリーター等」という結果に対して、当初から決め手は「特になし」ということであったのか、当初は決め手をもっていたが変化し

たのか、当初の決め手は何であったのか、詳しく調査をする必要があると考える。また、「特になし」という状況の原因を探ることが重要であると思われ、キャリアデザインの授業及び、キャリア支援センターで状況の把握と対策を図る必要があると考える。

12) 平成23年度と平成27年度の比較と今回のまとめ  
今回の就職状況調査における考察の枠組みは、平成23年度と同様である。そこで、平成23年度と平成27年度の比較を下記に示した。まず、5種類の就職状況を上段に人数とそのパーセンテージを示し、下段は、5種類のうち、①未定・家事手伝い、②フリーター・アルバイトを「未定・フリーター等」グループとし、③任期付き採用2年まで、④正採用(2年以上の任期を含む)を「正採用・任期付き」グループとしたものを示した。

この下段の表示(「未定・フリーター等」①+②、「正採用・任期付き」③+④)に年度による差がみられた。この比較より、今回の平成27年度調査の「正採用・任期付き」グループが数値は高く(平成23年度60%、平成27年度80%)、また「未定・フリーター等」グループについては値が低い(平成23年度25%、平成27年度10%)、という結果が見て取れ、経年的には良好な傾向を示していることが分かった。

平成23年度 / 回答者(307人)	平成27年度 / 回答者(266人)
①未定・家事手伝い 43人(14%)	→ 8人(3%)
②フリーター・アルバイト 35人(11%)	→ 18人(7%)
③期限付き採用2年まで 49人(16%)	→ 67人(25%)
④正採用 136人(44%)	→ 146人(55%)
⑤進学・その他 44人(14%)	→ 27人(10%)

平成23年度 / 回答者(263人)	平成27年度 / 回答者(239人)
①+②「未定・フリーター等」グループ 78人(25%)	→ 26人(10%)
③+④「正採用・任期付き」グループ 185人(60%)	→ 213人(80%)

上記のように平成27年度の方が「正採用・任期付

き」グループの増加が著しく、「未定・フリーター等」グループの減少が明確にみられた。このような結果を得た背景には、サポート体制（キャリア支援）の定着や、学生自身の努力（設問「就職活動にどのくらい力を注ぎましたか」）があると思われる。

その他、就職状況に関する今回の調査で浮き彫

りになった今後の課題は、今回より設定した調査、「57就職の決め手は何でしたか」についての回答結果に関する問題である。このことは前項11)でも考察したが、設問に対して第三選択までの回答を求めたが、「正採用・任期付き」グループについては、第一に理想的な願望を掲げてそれに終始し、第二第三

表4-5. 就職状況別集計

No	設問内容	大学_正採用・任期付き					Mean	SD	
		人数	5	4	3	2			1
1	本学入学時のわくわく感	213	13	37	23	18	8	3.3	1.2
2	大学生生活全般(授業時間外を含む)の満足度	213	11	35	31	20	3	3.3	1.0
3	本学を卒業することの誇り	213	16	36	28	15	5	3.4	1.1
4	建学の精神や藤村トヨの教育をどの程度知っているか	210	2	35	29	26	9	3.0	1.0
5	大学の授業内容の満足度	212	6	32	41	21	1	3.2	0.9
6	専門的講義授業の満足度	213	7	45	35	11	2	3.4	0.9
7	専門的実技授業の満足度	213	19	45	26	8	2	3.7	0.9
8	専門以外の科目(一般教養)の満足度	213	7	34	41	15	3	3.3	0.9
9	本学で最も深く学べた科目は何ですか	212	4	42	30	17	7		
10	教育実習の充実度	210	45	26	12	3	14	3.8	1.4
12	ゼミでの学習の満足度	210	50	25	15	4	6	4.1	1.2
13	コースでの満足度	210	24	41	24	8	3	3.8	1.0
29	私生活全般での友人関係の満足度	212	48	28	18	3	3	4.1	1.0
30	本学で一生つきあえる友人に出会えたか	203				93	7		
33	授業にどのくらい力を注いだか	212	15	33	36	10	6	3.4	1.1
34	部活動(学内・学外)にどのくらい力を注いだか	197	52	18	18	4	9	4.0	1.3
35	授業や部活動以外の活動にどのくらい力を注いだか	208	20	28	30	13	8	3.4	1.2
37	アルバイトにどのくらい力を注いだか	209	22	22	22	13	19	3.2	1.4
38	趣味にどのくらい力を注いだか	209	22	26	25	18	8	3.4	1.2
39	就職活動にどのくらい力を注いだか	211	19	24	32	15	10	3.3	1.2
40	ボランティア活動にどのくらい力を注いだか	210	6	10	20	19	45	2.1	1.3
41	クラブ(部・クラブ・サークル)活動所属	194	68	4	8	2	18		
42	専門技能や技術はどの程度伸ばせたか、あるいは上達度	148	38	30	15	10	7	3.8	1.3
43	学内クラブに所属しなかったことをどう感じているか(途中退部含む)	60	22	22	43	10	3	3.5	1.0
44	クラブ活動は就職にどの程度影響すると思うか	190	48	24	15	9	3	4.1	1.1
45	学生生活を通しての、自分自身の成長への満足度	208	22	40	28	7	3	3.7	1.0
48	自分の大人度を評価	207	1	11	47	30	11	2.6	0.9
49	学生生活で行動力・実行力が身いたか	210	17	48	27	7	1	3.7	0.9
50	学生生活でコミュニケーション力が身についたか	211	22	50	20	6	1	3.9	0.9
51	2020年東京五輪が決まり、進路や学習に変化はあったか	211	6	13	35	15	30	2.5	1.2
52	修得単位の評価は、平均でどの程度か	212		4	58	32	6	2.6	0.7
53	教員免許の取得状況	209			77	8	16		
55	就職内定状況	213	0	69	31	0	0		
56	卒業後の進路への納得度	205	39	29	20	10	2	3.9	1.1
60	キャリアデザインの授業は就職活動に役立ったか	211	6	22	29	27	16	2.7	1.1

(人)

(%)

の選択肢について具体的な案や考えを持っていないということが分かった。また「未定・フリーター等」グループについては、当初から「特になし」の回答で、当然のことながら第二第三の選択の案は持ち合わせていないという状況であった。これらの結果については、更に調査していく必要があると考える。また、そ

の結果をキャリアデザインの授業やインターンシップなどの指導支援に生かしていかなければならない課と考える。

大学\_未定・フリーター等

人数	5	4	3	2	1	Mean	SD
26	12	35	31	12	12	3.2	1.2
26	15	27	27	23	8	3.2	1.2
26	19	27	35	8	12	3.3	1.2
25	0	36	28	28	8	2.9	1.0
26	4	42	35	12	8	3.2	1.0
26	15	35	27	19	4	3.4	1.1
26	19	38	27	12	4	3.6	1.0
26	4	31	31	19	15	2.9	1.1
26	0	27	35	19	19		
26	35	12	8	4	42	2.9	1.8
26	54	4	19	8	15	3.7	1.5
26	27	31	31	12	0	3.7	1.0
26	50	15	27	8	0	4.1	1.0
25				84	16		
25	12	28	28	16	16	3.0	1.2
23	43	4	17	22	13	3.4	1.5
23	4	30	26	17	22	2.8	1.2
26	19	27	19	8	27	3.0	1.5
26	19	23	19	19	19	3.0	1.4
26	0	12	27	23	38	2.1	1.0
26	12	4	15	19	50	2.1	1.4
26	46	15	8	4	27		
16	44	31	13	6	6	4.0	1.2
12	42	8	33	8	8	3.7	1.3
24	29	42	13	17	0	3.8	1.0
26	12	54	15	8	12	3.5	1.2
25	8	24	40	12	16	3.0	1.1
25	32	32	16	12	8	3.7	1.3
25	24	44	20	8	4	3.8	1.0
24	4	4	8	33	50	1.8	1.0
26		4	23	54	19	2.1	0.8
25			56	20	24		
26	0	0	0	69	31		
26	12	31	35	15	8	3.2	1.1
25	0	36	24	28	12	2.8	1.0

(人)

(%)

#### 4-6. クラブ所属別集計

調査対象者は、学内クラブ所属者大学166名、短大35名(保体7名、見教28名)と非所属者大学85名、短大51名(保体17名、見教34名)(途中退部者・学外クラブ所属者を含む)であった。

ここでは大学のみの集計結果を表4-6に示した。

##### 1) 大学入学時のわくわく感と卒業時の総合満足度

「大学入学時のわくわく感」と「大学生かつ全般(授業時間外を含む)の満足度」は、クラブ所属ではどちらも3.4ポイントであった。「大学入学時のわくわく感」についてクラブ所属は「すごくわくわく」、「少しわくわく」と答えた高評価群が53.7%、非所属では44.7%であった(図4-6-1)。平成23年度と比較するとクラブ所属・非所属共に満足度を示す値は低かった。また、「大学生かつ全般(授業時間外を含む)の満足度」については、クラブ所属では高満足度群が50%、非所属では37.7%であった(図4-6-2)。クラブ所属にとっては、入学時に比べ、卒業時の満足度を示す「大学生かつ全般(授業時間外を含む)

の満足度」では3.7%低い結果であった。非所属にとっては、13%下がっており、期待に添えない学生生活であったことを示す結果であった。非所属にとって満足は出来ず、学生生活での達成感を味わいにくかったことを示す結果となった。クラブ所属と非所属では、入学段階から本学に対する期待感に差があり、さらに卒業時の満足度にも差がみられた。このことは前回同様の傾向であり、傾向性には大きな変化はない。しかしながら、平成23年度に比べ、卒業時の満足度では、高満足度群が10%減少し、低満足度群が13%増加する値が示される結果となった。

##### 2) 本学を卒業することの誇りと建学の精神

「本学を卒業することの誇り」では、クラブ所属では3.6ポイント、非所属では3.1ポイントであった。クラブ所属では59.6%が高評価し、非所属では38.8%が高評価であった。平成23年度調査に比べ「卒業することの誇り」に対する評価が低くなっていた。試合での成績がふるわなかった部活動が多かった年の卒業生ということもあり、総合満足度同様に本学を卒業する誇りにおいても、満足度が低くなったのではないかと考える。「建学の精神」の理解では、クラブ所属で3.0ポイント、非所属で2.9ポイントであった。初年次導入教育として「藤村トヨの教育」の授業が2012(平成24)年度から開講されている。平成23年度卒業生とは違い「建学の精神」についての理解が高まっているはずであると予測をし、期待していたが、いずれも低い値であった。建学の精神を根底に据えた教育・指導を目指すことが本学の特徴を際立たせることにつながると考える。ゆえに、今後部活動を通して、どのように伝えていくかを検討課題としたい。

##### 3) 授業内容満足度

授業内容の満足度では「大学授業内容」クラブ所属3.4ポイント、非所属3.0ポイント、「専門的講義」クラブ所属3.6ポイント、非所属3.2ポイント、「専門的実技」クラブ所属3.8ポイント、非所属3.5ポイント「専門以外(一般教養)」クラブ所属3.4ポイント、非所属3.0ポイント、「教育実習充実度」クラブ所属4.0ポイント、非所属3.3ポイントといずれも0.3ポイン

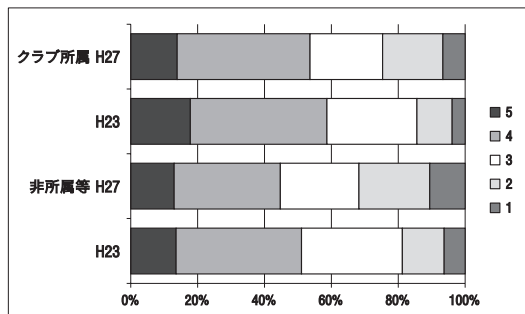


図4-6-1. クラブ所属別に見た「入学時のわくわく度」

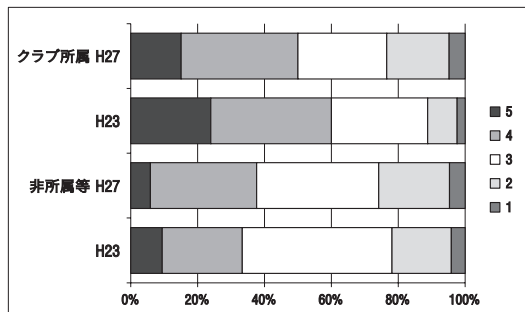


図4-6-2. クラブ所属別に見た「大学生かつ全般(授業時間外を含む)の満足度」

ト以上の差がみられた。「野外実習」はクラブ所属2.8ポイント、非所属2.9ポイントであった。

専門講義や実技の授業を学ぶことの必要性を理解している者がクラブ所属非所属問わず多いのではないだろうか。クラブ所属の「教育実習の充実度」のクラブ所属の高評価は「授業内容に対する満足度」が高い値を示すことからわかるように、しっかりとした理論と実技、部活動において後輩を指導し、多くの場面で人前に立つ機会も多く、苦勞の上に身につけた自信が、大きな影響を及ぼしていると考える。「ゼミナールでの学習の満足度」はクラブ所属も非所属も共に4.0ポイントであった。「本学に大学院は必要か」との間にクラブ所属は3.0、非所属は2.7で0.3の差があった。やはり、クラブ所属は専門的に深めてきた知識と技術を武器にさらに研究を深めたいとの思いから大学院の必要性を感じている者が増えているのではないかという結果になった。

非所属はクラブ所属より授業内容についての満足度が低かった。

#### 4) 教員について

「学問分野の専門家として優れた教員が多いか」「教育や指導に熱意をもった教員が多いか」という問いに対しては、3.3～3.6の値をそれぞれ示した。「尊敬できる教員の存在」については、クラブ所属で75%、非所属で70%が「いる」と答えた。一方で、「なんでも相談できる教員の存在」は、クラブ所属で46.9%、非所属で40%と、平成23年度調査の際とあまり変化はみられなかった。「尊敬できる教員の存在」はいるが、「なんでも相談できる教員の存在」は少ないという結果であり、本学の教員は「尊敬はできるが相談はしづらい」教員ということになる。改善の為の努力を要すると考える。

#### 5) 施設について

「専門大学としての施設の充実度」クラブ所属2.6、非所属2.7と低い値になった。また、「クラブ活動での使用施設の充実度」においてクラブ所属2.9、非所属3.0と低い結果となった。この値は平成23年度より下がっている。また、入試面接時は「施設が充

実している」との理由で志願する者が多いにも関わらず、卒業時にこのような回答結果になることは望ましい結果とは言えない。自由記述による回答は下記であった。「グラウンドが欲しい・外部利用で不便」、「武道場利用が十分できない」、「陸上トラックを400mにしてほしい」、「施設を自由に使えるようにしてほしい」、「プールを利用させてもらいたい。深度プール欲しい」、「ナイター設備がほしい」、「第3体育館が狭い・天井が低い」、「専用体育館がほしい」、「体育館・室内練習場・ボール競技用の施設増設」。最も多かった意見は「冷暖房をつけてほしい」との意見であった。しかし、冷暖房については平成28年度に各施設に装備されたのため、大きな課題は一つ改善されたといえよう。次に満足度が低下を示した項目と、高満足度群と低満足度群の増減を記しておく。クラブ所属では「部活動の施設・練習場所の満足度」は高満足度群5%減低満足度群8%増、「健康管理センターのサポート満足度」高満足度群6%減低満足度群11%増、「キャリア支援のサポート満足度」高満足度群7%減低満足度群10%であった。一方、非所属は「施設の満足度」高満足度群5%減、低満足度群9%増となっていた。しかし、「健康管理センターのサポート満足度」3.5ポイント、「キャリア支援のサポート満足度」3.4ポイントと満足度事態は高い値を示している。

要因としては「専門大学としての施設充実度」2.6ポイント、「部活動の施設・練習場所の満足度」2.9であったと考えられる。

多くの学生が様々な種目で、十分に練習を積んで本番に臨むためには、施設の充実・十分な活動場所についての重要度は高まっているに違いない。頑張るクラブ数が増えるほど施設を使用出来る時間は減少し、結果的には多くのクラブでの戦績不振につながっているのではないかと推測する。その戦績不振は、更なる施設不足に対する不満につながっているのではないかと懸念するところである。指導者は限りある中で工夫して施設活用することを指導していくことも大事な指導であると心して取り組みをしなければならぬ。

## 6) サポート体制

学生サービスに関わるサポート体制では、クラブ所属と非所属の順に、「健康管理センター」3.5と3.4、「キャリア支援センター」3.4、「事務局窓口」3.0と2.6であった。

「学生食堂」の満足度は2.8と2.3と、ともに低い値であった。平成23年度からの引き続きの課題であり、追跡調査が望まれる。体育実技やクラブ活動に見合った栄養を摂取できるよう、大学としてもっと重点強化して頂きたいと考える。特に、栄養・休養・運動の関係は重要であることを低年齢から学んできているトップアスリートにとり、選手生命をかけた重要な存在となることから体育大学における食堂への期待は大きいのではないだろうか。

## 7) 学生生活全般

「私生活での友人関係の満足度」では、クラブ所属と非所属で4.3と3.9と、ともに高い結果になった。また、「本学で一生つきあえる友人に出会えたか」という問いに対しては、90.7%と90.1%が「出会えた」と回答した。クラブ所属は「部活動へ注いだ力」「授業に力を注いだ」が大きかったという結果であった。一方、非所属は「アルバイトへ注いだ力」「趣味に注いだ力」が大きかったという結果であった。「ボランティア活動へ注いだ力」はクラブ所属、非所属共に2.1の低値を示した。平成23年度同様にボランティア活動については、クラブ所属および非所属どちらにおいても全項目中で最も低い値であった。

## 8) クラブ活動

「クラブ活動での技能や技術の上達度」では、クラブ所属では4.0と高い値を示し、「とても伸びた」が46.6%、「少し伸びた」が30.7%で78%の学生が上達を実感していた。クラブ活動に所属をしなかった非所属については「所属しなかったこと」について「特に何も感じていない」が44.1%と一番多く、「とてもよかった」は25.0%であった。

「クラブ活動は就職にどの程度影響するか」の質問に対してクラブ所属は平均値が4.3ポイントで60.4%が「とても有利」回答した。非所属では3.4ポイ

ントで16%であった。

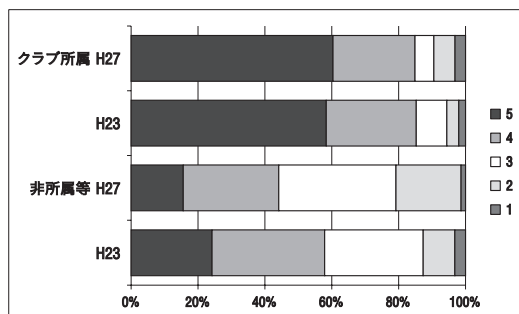


図4-6-3. クラブ所属別に見た[クラブ活動は就職にどの程度影響するか]

## 9) 人間的な成長について

「学生生活を通しての自分自身の成長」では、クラブ所属で3.9、非所属では、3.4ポイントであった。「自分の大人度」については、クラブ所属と非所属どちらも2.7ポイントと、低いところで同値を示した。

「学生生活で行動力・実行力がついたか」では、クラブ所属で3.9、非所属で3.5であった。「コミュニケーション力が身についたか」という問いに対しては、クラブ所属では4.0、非所属では3.5で0.5の平均差があった。「東京オリンピックが決まり自身の進路や学習に変化があったか」については「全く変わらない」「どちらでもない」が30%～34.5%と最も多い回答であり、平均値はクラブ所属で2.5、非所属で2.3と低い値であった。語学に興味を持ち、オリンピックを意識した職業選択をするなどの変化があったのではないかと予想していたが、予想とは異なる結果となった。

クラブ所属と非所属で差がついた項目は、「自分自身の成長への満足度」、「行動力・実行力が身についた」、「コミュニケーション力が身についた」などである。いずれもクラブ所属での満足度が高く、非所属が低い満足度を示した。非所属者に対して、ゼミナールなど通して本学への帰属意識を芽生えさせる、またコミュニケーション能力を身につけさせるなど、模索していかなければならない。

## 10) 修得単位・教員免許状

「修得単位評価」はクラブ所属・非所属ともに優が

最も多かった。高評価群はクラブ所属が58.7%、非所属が53.5%であった。「教員免許取得状況」で「取得した」はクラブ所属で82.2%、非所属は63.1%でかなりの差があった。なお、非所属は「目指したが取れなかった」が35.7%であった。

#### 11) 卒業後の進路の納得度

「卒業後の進路の納得度」は、クラブ所属で4.0、非所属で3.7の値を示した。「キャリアデザインの授業は就職活動に役立ったか」ではクラブ所属が2.8、非所属は2.7であった。

#### 12) 平成23年度と平成27年度の比較

平成23年度調査と比べ、傾向性に大きな変化がみられた項目は特になかった。しかしながら、全体的に満足度が低くなっていることがうかがえる。このことは部活動との関係が密接である体育大学にとり、よい傾向であると言えない。改善が急務と考える。

クラブ所属と非所属では、入学段階から本学に対する期待感に差があり、さらに卒業時の満足度や誇りにも差がみられた。また、「自分自身の成長への満足度」、「行動力・実行力が身についた」、あるいは「コミュニケーション力が身についた」などの面にも、その差が現れた。クラブ非所属者に対して、ゼミナールなど通して本学への帰属意識を芽生えさせる、またコミュニケーション能力を身につけさせるなど、模索していかなければならないことや、相談しやすい教員として認識されるような関わりが「ここでよかった」との満足度につながるのではないだろうか。教員の人間力と魅力が本学一番の特徴となるような取り組みをしていきたいところである。

#### 13) まとめ

クラブ所属と非所属では、入学段階から本学に対する期待感に差があり、さらに卒業時の満足度や誇りにも差がみられた。前回同様の傾向であり、傾向性には大きな変化はない。このことは前述の通りである。特記すべき点は、平成23年度に比べ「卒業時の満足度」では、高満足度群が10%減少し、低満足度群が13%増加する値が示されたことである。

多くの学生が様々な種目で、十分に練習を積んで本番に臨むためには、施設の充実・十分な活動場所についての重要度は高まっているに違いない。頑張るクラブ数が増えるほど施設を使用出来る時間には制限がかかる。結果的には多くのクラブでの戦績不振につながっているのではないかと推測される。指導者は限りある中で工夫して施設活用することを指導していくことも大事な指導であろう。

その他、クラブ所属と非所属では、次の項目で特に差がみられた。「自分自身の成長への満足度」、「行動力・実行力が身についた」、「コミュニケーション力が身についた」などである。いずれもクラブ所属が非所属よりも高い満足度を示した。非所属者に対して、ゼミナールなど通して本学への帰属意識を芽生えさせる、またコミュニケーション能力を身につけさせるなど、模索していかなければならない。

東京オリンピックが決まったが、身近で起きている一大イベントであるとの意識が低い印象を受けた。学内ではオリンピック・パラリンピック委員会が立ち上げられ、様々な活動が行なわれているが、もっと身近に感じられる取り組みを考えることも必要であるのかも知れない。

体育大学での部活動においてオリンピック選手を多く輩出でき、身近に出場選手がいた頃の時代をもう一度蘇らせることは大きな効果が期待できる。「凄い仲間がいた」「自分も出来ることを頑張ろう」といったことを仲間の姿から感じ取り、学べることが体育大学ならではの醍醐味のように感じる。

世界観のある学内にしていくことは教員の責務とも感じる。一方、オリンピックは選手として出場をする者より、支える者の方が遥かに多いことは共通理解のところである。ゆえに支える側の人間が参加意義を感じ、自らが価値を生み出せる力をつけられる環境を創り出せる学府としていきたいものである。

以上、本学における「教育とサービスの質」の満足度には低下傾向がみられた。

この4年間で本学では大学全体に大きく変わったことはなく、クラブ所属別集計以外では平成23年度とおおきな変わりはない結果であった。

本研究により改善すべき点や新たに取り組むべき

点の資料を得ることはできたが、明確になった問題点の改善は急務であると考えられる。

を重ねていかなければならないことを強く感じる結果となった。

また、学生の期待にそえる大学になるための努力

表4-6. クラブ所属別集計

No	設問内容	大学_クラブ所属						大学_非所属等									
		人数	5	4	3	2	1	Mean	SD	人数	5	4	3	2	1	Mean	SD
1	本学入学時のわくわく感	166	14	40	22	18	7	3.4	1.1	85	13	32	24	21	11	3.2	1.2
2	大学生活全般(授業時間外を含む)の満足度	166	15	35	27	19	5	3.4	1.1	85	6	32	36	21	5	3.1	1.0
3	本学を卒業することの誇り	166	23	36	22	14	4	3.6	1.1	85	5	34	38	16	7	3.1	1.0
4	建学の精神や藤村トヨの教育をどの程度知っているか	164	2	38	28	24	7	3.0	1.0	83	1	34	25	31	8	2.9	1.0
5	大学の授業内容の満足度	166	9	37	38	15	1	3.4	0.9	84	1	27	46	23	2	3.0	0.8
6	専門的講義授業の満足度	166	13	47	30	8	2	3.6	0.9	85	2	42	36	15	4	3.2	0.9
7	専門的実技授業の満足度	166	23	46	23	6	1	3.8	0.9	83	14	42	29	11	4	3.5	1.0
8	専門以外の科目(一般教養)の満足度	166	11	36	39	12	2	3.4	0.9	85	2	31	42	18	7	3.0	0.9
9	本学で最も深く学べた科目は何ですか	165	4	44	27	18	7			84	1	33	36	20	10		
10	教育実習の充実度	165	51	27	8	1	12	4.0	1.3	84	35	19	12	7	27	3.3	1.6
11	野外実習(スキー・水泳・キャンプなど)の充実度	165	28	18	7	2	45	2.8	1.8	85	26	20	8	7	39	2.9	1.7
12	ゼミでの学習の満足度	165	48	25	16	5	5	4.0	1.2	85	51	20	14	5	11	4.0	1.3
13	コースでの満足度	166	29	39	24	5	3	3.8	1.0	84	23	38	31	8	0	3.8	0.9
14	本学に大学院は必要だと思うか	166	14	23	28	20	14	3.0	1.3	84	13	14	32	14	26	2.7	1.3
15	学問分野の専門家として優れた教員が多いと思うか	161	16	42	27	14	1	3.6	1.0	80	13	46	18	20	4	3.4	1.1
16	教育や指導に熱意を持った教員が多いと思うか	159	14	40	26	18	2	3.5	1.0	80	10	34	34	19	4	3.3	1.0
17	本学に尊敬できる教員がいるか	160				75	25			80				70	30		
18	本学になんでも相談できる教員がいるか	160				47	53			80				40	60		
19	専門大学としての施設の充実度	165	5	21	22	28	23	2.6	1.2	85	4	21	26	38	12	2.7	1.0
22	部活動の施設・練習場所の満足度	147	17	21	16	27	19	2.9	1.4	31	6	19	52	10	13	3.0	1.0
24	健康管理センターのサポート満足度	163	17	31	39	10	4	3.5	1.0	84	18	25	42	12	4	3.4	1.0
25	キャリア支援のサポート満足度	164	14	39	29	13	5	3.4	1.1	84	24	29	26	11	11	3.4	1.3
26	学生食堂の満足度	164	10	21	27	23	19	2.8	1.3	84	5	12	23	25	36	2.3	1.2
29	私生活全般での友人関係の満足度	166	54	25	16	3	2	4.3	1.0	84	37	32	23	5	4	3.9	1.1
30	本学で一生涯つきあえる友人に出会えたか	161				91	9			81				90	10		
33	授業にどのくらい力を注いだか	165	20	33	30	10	7	3.5	1.1	84	11	31	38	14	6	3.3	1.0
34	部活動(学内・学外)にどのくらい力を注いだか	165	75	13	8	2	1	4.6	0.8	71	8	14	38	10	30	2.6	1.3
35	授業や部活動以外の活動にどのくらい力を注いだか	162	22	29	23	15	12	3.3	1.3	81	20	31	35	11	4	3.5	1.0
37	アルバイトにどのくらい力を注いだか	164	17	20	18	16	28	2.8	1.5	84	31	32	21	6	10	3.7	1.2
38	趣味にどのくらい力を注いだか	163	20	26	23	20	12	3.2	1.3	84	32	27	21	13	6	3.7	1.2
39	就職活動にどのくらい力を注いだか	165	19	20	29	15	18	3.1	1.3	83	17	24	28	14	17	3.1	1.3
40	ボランティア活動にどのくらい力を注いだか	165	7	10	16	19	47	2.1	1.3	84	6	7	23	18	46	2.1	1.2
42	専門技能や技術はどの程度伸ばせたか、あるいは上達度	163	47	31	10	7	6	4.0	1.2	25	8	16	36	28	12	2.8	1.1
43	学内クラブに所属しなかったことをどう感じているか(途中退部含む)	12	83	8	0	8	0	4.7	0.8	68	25	19	44	7	4	3.5	1.1
44	クラブ活動は就職にどの程度影響すると思うか	159	60	25	6	6	3	4.3	1.0	77	16	29	35	19	1	3.4	1.0
45	学生生活を通しての、自分自身の成長への満足度	163	28	47	18	4	3	3.9	0.9	83	12	39	31	12	6	3.4	1.0
48	自分の大人度を評価	163	3	13	43	31	10	2.7	0.9	83	2	12	52	22	12	2.7	0.9
49	学生生活で行動力・実行力が身いたか	162	24	51	19	5	1	3.9	0.9	84	13	38	36	11	2	3.5	0.9
50	学生生活でコミュニケーション力が身についたか	162	30	50	14	6	1	4.0	0.9	84	11	48	30	10	2	3.5	0.9
51	2020年東京五輪が決まり、進路や学習に変化はあったか	162	10	11	30	15	34	2.5	1.3	84	2	11	35	19	33	2.3	1.1
52	修得単位の評価は、平均でどの程度か	162		3	56	35	7	2.5	0.7	84		7	46	36	11	2.5	0.8
53	教員免許の取得状況	157			82	7	11			84			63	10	27		
55	就職内定状況	162	11	57	25	5	2			82	7	54	22	12	5		
56	卒業後の進路への納得度	156	42	28	19	9	2	4.0	1.1	80	34	28	20	14	5	3.7	1.2
60	キャリアデザインの授業は就職活動に役立ったか	161	9	21	29	24	17	2.8	1.2	83	2	27	27	30	14	2.7	1.1

(人)

(%)

(人)

(%)



## 5. まとめ

平成27年度卒業生に対し卒業式前日に学生満足度調査を実施し、東京女子体育大学・東京女子体育短期大学の学生の学生生活についての満足度・能力向上についての満足度を調査した。本学における「教育とサービスの質」の現状は平成23年度調査との比較で、同じ傾向が見られた。

しかしながら、学部学科別(大学・保体)・総合満足度別・クラブ所属別などの満足度において満足度が低下傾向にあることを示す結果となった。この4年間で大学全体に大きく変わったことはなかったが、学生の期待に応えられる大学づくりが求められていることは確かであると感じた。

今回の調査では施設についての満足度が低いことを表す結果であった。これは以前からの問題点であった。平成27年度調査から1年経過する現在はずでに冷暖房や陸上グラウンドなどの改善がなされた。他の施設においては見直しが進められている。施設だけでなく、内容の面でも改善が進められているところである。重ねての調査は必要であろう。

また、ただの平板な改善にとどまらず、更に本学の特色が色濃くあらわせるような取り組みにつながるように努めたい。

本研究が教育とサービスの質向上のための資料として本学学生の教育・指導の一助となることを願っている。

## 6. 謝辞

本研究にあたり、ご協力をいただきました平成27年度東京女子体育大学・東京女子体育短期大学の皆様、教職員の皆様に心からの感謝をし、お礼申し上げます。ありがとうございました。

## 7. 参考文献

平成23年度卒業生に対する「学生満足度調査」報告、(2013)、平成23・24年度女子体育研究所運営委員会、FD推進委員会、東京女子体育大学女子体育研究所報第7号、pp. 5-58

8. 資料

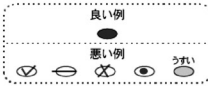
調査用紙 1

学生満足度調査

—東京女子体育大学・短期大学—

基本調査 1

- ・この調査は、学校の改善のみを目的とするものです。
- ・個人を特定するようなことはありません。
- ・必ず鉛筆で記入して下さい。
- ・訂正する場合は消しゴムできれいに消して下さい。
- ・用紙を汚したり折り曲げたりしないで下さい。



学部・学科	入学年度	地域区分	住居	入試区分	クラブ所属
大学 ①Aコース専門技能・指導力向上 ②Bコース教師力強化 ③Cコース地域スポーツ ④Dコース野外スポーツ ⑤Eコースダンス・表現 ⑥Fコース健康スポーツ科学	① H22 (大学6年目) ② H23 (大学5年目) ③ H24 (大学4年) ④ H25 (短大3年目) ⑤ H26 (短大2年)	① 北海道・東北 ② 関東(東京以外) ③ 東京 ④ 甲信越 ⑤ 中部(東海・北陸) ⑥ 近畿(関西) ⑦ 中国 ⑧ 四国 ⑨ 九州 ⑩ 海外	① 自宅 ② ふじ寮 ③ 下宿(一人) ④ 下宿 (合宿所・友人) ⑤ 下宿 (姉妹・親戚) ⑥ その他	※学内編入は短大入学時の記入 ① I期AO入試 9月 ② II期AO入試 12月 ③ III期AO入試 3月 ④ 推薦入試 ⑤ 一般入試 ⑥ センター試験入試 ⑦ 他大学等からの編入	表1より選択 ① ① ② ② ③ ③ ④ ④ ⑤ ⑤ ⑥ ⑥ ⑦ ⑦ ⑧ ⑧ ⑨ ⑨ ⑩ ⑩
短期大学 ⑦ 保健体育学科 ⑧ 児教一幼・保ユニット ⑨ 児教一こどもユニット ⑩ 児教一児童スポーツユニット				▼①～⑥を選択した場合、以下も回答 ① 一般 ⑥ 社会人 ② 公募 ⑦ 卒業生子女等 ③ 指定校・専村 ⑧ 南留学生女 ④ スポーツ ⑨ 留学生 ⑤ 社会人7カテゴリー	

大学全般の満足度

1 ① ② ③ ④ ⑤  
2 ① ② ③ ④ ⑤  
3 ① ② ③ ④ ⑤

授業内容の満足度

4 ① ② ③ ④ ⑤  
5 ① ② ③ ④ ⑤  
6 ① ② ③ ④ ⑤  
7 ① ② ③ ④ ⑤  
8 ① ② ③ ④ ⑤  
9 ① ② ③ ④ ⑤  
10 ① ② ③ ④ ⑤  
11 ① ② ③ ④ ⑤

※No.4 について、裏面に自由記入して下さい。

《学部生への質問》

12 ① ② ③ ④ ⑤  
13 ① ② ③ ④ ⑤  
14 ① ② ③ ④ ⑤

《保体生への質問》

12 ① ② ③ ④ ⑤  
13 ① ② ③ ④ ⑤  
14 ① ② ③ ④ ⑤

《児教生への質問》

12 ① ② ③ ④ ⑤  
13 ① ② ③ ④ ⑤  
14 ① ② ③ ④ ⑤

教員について

15 ① ② ③ ④ ⑤  
16 ① ② ③ ④ ⑤  
17 ① ②  
18 ① ②

施設・設備

19 ① ② ③ ④ ⑤  
20 表2より2つまで選択  
① ② ③ ④ ⑤  
⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩  
⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮  
⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳  
㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕  
㉖ ㉗ ㉘

21 表2より2つまで選択  
① ② ③ ④ ⑤  
⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩  
⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮  
⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳  
㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕  
㉖ ㉗ ㉘

※No.22、23 について、裏面に改善点を自由記入して下さい。

サポート体制

24 ① ② ③ ④ ⑤  
25 ① ② ③ ④ ⑤  
26 ① ② ③ ④ ⑤  
27 ① ② ③ ④ ⑤

※No.24～27 について、裏面に改善点を自由記入して下さい。

学生生活全般

28 ① ② ③ ④ ⑤  
29 ① ② ③ ④ ⑤  
30 ① ②  
31 表3より2つまで選択  
① ② ③ ④ ⑤  
⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩  
⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮  
⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳  
㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕  
㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚

32 表3より2つまで選択  
① ② ③ ④ ⑤  
⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩  
⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮  
⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳  
㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕  
㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚

33 ① ② ③ ④ ⑤  
34 ① ② ③ ④ ⑤  
35 ① ② ③ ④ ⑤  
36 表4より2つ選択  
① ② ③ ④ ⑤  
⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩  
⑪ ⑫ ⑬

37 ① ② ③ ④ ⑤  
38 ① ② ③ ④ ⑤  
39 ① ② ③ ④ ⑤  
40 ① ② ③ ④ ⑤

※No.28 について、裏面に改善点を自由記入して下さい。

クラブ活動

41 ① ② ③ ④ ⑤  
42 設問41 ⑤選択者  
① ② ③ ④ ⑤  
43 設問41 ①～④選択者  
① ② ③ ④ ⑤  
44 全員  
① ② ③ ④ ⑤

人間的な成長について

45 ① ② ③ ④ ⑤  
46 表5より2つ選択  
① ② ③ ④ ⑤  
⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩  
⑪ ⑫ ⑬

47 表6より1つ選択  
① ② ③ ④ ⑤  
⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩  
⑪ ⑫ ⑬

48 ① ② ③ ④ ⑤  
49 ① ② ③ ④ ⑤  
50 ① ② ③ ④ ⑤  
51 ① ② ③ ④ ⑤

基本調査 2

52 ① ② ③ ④  
53 ① ② ③  
54 表7より複数選択  
① ② ③ ④ ⑤  
⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩  
⑪ ⑫ ⑬ ⑭

55 ① ② ③ ④ ⑤  
56 ① ② ③ ④ ⑤  
57 表8より1つ選択  
① ② ③ ④ ⑤  
⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩  
⑪ ⑫

58 表8より1つ選択  
(複数の理由がない方は◎をマークして下さい)  
① ② ③ ④ ⑤  
⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩  
⑪ ⑫

59 表8より1つ選択  
(複数の理由がない方は◎をマークして下さい)  
① ② ③ ④ ⑤  
⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩  
⑪ ⑫

裏面に、各設問の改善点の記入欄があります。

調査用紙2

**裏面・自由筆記欄**

Q 4 藤村トヨの授業で影響を受けた事・印象に残っている事・役立った事などを自由に記入して下さい

Q 22 部活動の施設・練習場所 改善点

Q 23 図書館 改善点

Q 24 健康管理センターのサポート 改善点

Q 25 キャリア支援のサポート 改善点

Q 26 学生食堂 改善点

Q 27 事務局の窓口サービス 改善点

Q 28 学則 改善点

ご協力ありがとうございました。

コード表1

表1	クラブ名	表2	施設設備名	表3	選択肢
01	合気道部	01	2号館教室	01	健康(観)
02	アイスホッケー部	02	4号館教室	02	趣味
03	アクアダイビング部	03	第1体育館	03	パソコン技能
04	演劇	04	第2体育館	04	語学力
05	音楽	05	第3体育館	05	指導力
06	カヌー部	06	第5体育館	06	元気
07	空手	07	第6体育館	07	勇氣
08	基礎スキー部	08	第7体育館	08	コミュニケーション能力
09	競技スキー部	09	武道場	09	生き方・考え方のヒント
10	競技スケート部	10	陸上グラウンド	10	自立
11	剣道部	11	テニスコート	11	生活力
12	硬式庭球部	12	ソフトボールコート	12	資格
13	サッカー部	13	プール	13	友人(友情)
14	写真部	14	ピアノレッスン室	14	美(心・姿・生き方 など)
15	柔道部	15	図書室	15	センス
16	手話	16	リハビリ室	16	食生活改善
17	少林寺拳法	17	カウンセリング室	17	体力
18	初等教育研究会	18	トレーニング室	18	人間関係
19	シンクロナイズド競技スケート部	19	健康管理センター	19	希望
20	新体操競技部	20	キャリア支援室	20	夢
21	水泳部	21	コンピューター室	21	スタイル
22	水球部	22	事務棟	22	努力する力
23	ストリートダンス	23	学食	23	礼儀作法
24	スノーボード	24	売店	24	恋愛(恋人)
25	ソフトテニス部	25	トイレ・シャワー室	25	読書力
26	ソフトボール部	26	ロッカー室	26	自分自身を知る
27	体操競技部	27	駐輪場	27	感謝の気持ち
28	卓球部	28	寮	28	協調性
29	ダンス部			29	根性(忍耐力)
30	チアリーディング部			30	責任感
31	トライアスロン部			31	仕事の厳しさ
32	トランポリン部			32	学生の甘さ
33	バスケットボール部			33	学生のすごさ
34	バドミントン部			34	素直さ・誠実さ
35	バレーボール部			35	その他
36	ハンドボール部				
37	美術部				
38	フェンシング部				
39	フットサル				
40	舞踏競技				
41	ボランティアサークル				
42	野球部				
43	ライフセービング部				
44	ラクロス部				
45	陸上競技部				
46	ワンダーフォーゲル部				
47	学内その他				

コード表2

表4	授業・部活動以外の活動
01	自主学習
02	アルバイト(スポーツ関係)
03	アルバイト(教育関係)
04	アルバイト(その他)
05	趣味
06	買い物
07	読書
08	料理
09	習い事
10	自主トレーニング
11	家事・炊事
12	ボランティア
13	その他

表6	影響を受けた人物
01	ゼミ教員
02	グループ担任
03	部活動の指導者
04	上記以外の学内教員
05	学外指導者
06	ゼミの仲間
07	部活動の仲間
08	学内友人
09	学外友人
10	アルバイト先の仲間・先輩(上司)
11	学外の大人
12	家族
13	その他

表8	就職先の決め手
01	給与や待遇(福利厚生)がよい
02	憧れの職業である
03	有名企業である
04	勤務地が便利
05	正規雇用であること
06	土日休み、年休が多い
07	仕事内容が魅力的
08	職場の雰囲気がよさそう
09	高いスキルが身につく
10	社会貢献ができそう
11	選択の余地が無かった
12	特に無し

表5	成長への影響
01	授業
02	ゼミ
03	創作オベレッタ
04	野外実習(水泳実習・キャンプ等)
05	部活動
06	学友会活動
07	寮生活
08	ボランティア
09	アルバイト
10	習い事
11	読書
12	趣味
13	その他

表7	免許・資格
01	幼稚園教諭二種免許
02	小学校教諭二種免許
03	中学校教諭保健体育二種免許
04	中学校教諭保健体育一種免許
05	高等学校教諭保健体育一種免許
06	健康運動実践指導者
07	障害者初級スポーツ指導員
08	ジュニアスポーツ指導員
09	スポーツプログラマー
10	日赤水上安全法救助員
11	日赤救急法救急士
12	健康運動指導士
13	社会体育指導者
14	スポーツリーダー